

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクシン トカイガクエン 学校法人 東海学園							
フリガナ大学の名称	トカイガクエンダイガク 東海学園大学(Tokai Gakuen University)							
大学本部の位置	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233							
大学の目的	仏教に基づく宗教的情操を養い、人間性豊かな人格者の育成を目指し、「人間力」と「共生」の思想の育成を原点に社会的に有用な人材を育成する。							
新設学部等の目的	子どもの成長発達を心理、身体、環境、社会という観点から、専門的知識や技能を学ぶ機会を提供し、子どもの保育、学校教育、そして健康教育の専門家として基礎的資質能力を身につけた有用な人材を育成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	教育学部(School of Education) 教育学科(Department of Education)	年	人	年次人	人	学士(教育学)	年月 第年次 平成24年4月 第1年次	名古屋市天白区中平2丁目901
	計	4	150	5	610			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>平成24年4月【届出設置】 スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科（入学定員235人・3年次編入学定員5人）</p> <p>平成24年4月【学生募集停止(廃止)】 人間健康学部人間健康学科（入学定員250人・3年次編入学定員30人） 人文学部発達教育学科（入学定員100人・3年次編入学定員10人）</p> <p>平成24年4月【定員減】 経営学部経営学科（3年次編入学定員20人→5人）[△15] 平成24年4月【定員減】 人文学部人文学科（3年次編入学定員30人→5人）[△25]</p> <p>※大学全体の収容定員(3,620人)の変更はない</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	教育学部教育学科	153科目	52科目	48科目	248科目	128単位		

教 員 組 分	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等		
			教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人			助手 人
新 設 分	教育学部教育学科		13 (12)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	26 (25)	0 (0)	103 (59)	
	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科		12 (11)	5 (5)	5 (5)	3 (2)	25 (23)	3 (3)	102 (55)	平成23年4 月届出設置
	計		25 (23)	16 (16)	5 (5)	5 (4)	51 (48)	3 (3)	205 (114)	
既 設 分	経営学部経営学科		14 (14)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	69 (69)	
	人文学部人文学科		15 (15)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	25 (25)	0 (0)	103 (103)	
	人文学部発達教育学科		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
	人間健康学部人間健康学科		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
	健康栄養学部管理栄養学科		8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	6 (6)	17 (17)	
	計		37 (37)	20 (20)	1 (1)	5 (5)	63 (63)	6 (6)	189 (189)	
合 計		62 (60)	36 (36)	6 (6)	10 (9)	114 (111)	9 (9)	394 (303)		
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体	
	事 務 職 員		46 (46) 人		45 (45) 人		91 (91) 人			
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)		10 (10)		15 (15)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		51 (51)		55 (55)		106 (106)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体	
	校 舎 敷 地	35,364.01㎡	0㎡		0㎡		35,364.01㎡			
	運 動 場 用 地	87,105.89㎡	0㎡		0㎡		87,105.89㎡			
	小 計	122,469.90㎡	0㎡		0㎡		122,469.90㎡			
	そ の 他	76,402.93㎡	0㎡		0㎡		76,402.93㎡			
	合 計	198,872.83㎡	0㎡		0㎡		198,872.83㎡			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体	
		45,273.78㎡ (45,273.78㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		45,273.78㎡ (45,273.78㎡)			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体		
	49室	34室	20室	11室 (補助職員4人)		1室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 教育学部教育学科			室 数 26 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	教育学部 教育学科	23,847 [1,776] (23,847 [1,776])	90 [23] (90 [23])	5 [5] (5 [5])	657 (657)	0 (0)	0 (0)			
	計	23,847 [1,776] (23,847 [1,776])	90 [23] (90 [23])	5 [5] (5 [5])	657 (657)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		3,539.818㎡		376席		270,000冊				
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
		3,975.03㎡		室内プール・トレーニングジム・ダンス室						

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費については経常経費の中で措置
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円			
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円			
		図書購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円				
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,390千円	1,230千円	1,230千円	1,230千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			完成時までの運営費は手数料収入・法人全体収入を充当する。							
既設大学等の状況	大学の名称	東海学園大学(Tokai Gakuen University)								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	経営学部(School of Business Management) 経営学科(Department of Business Management)	4年	230人	20人	960人	学士(経営学)	1.26倍	平成7年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233	
	人文学部(School of Humanities) 人文学科(Department of Humanities)	4年	200人	30人	860人	学士(人文学)	1.22倍	平成12年度	名古屋市天白区中平2丁目901	
	人文学部(School of Humanities) 発達教育学科(Department of Development and Education)	4年	100人	10人	420人	学士(発達教育)	0.93倍	平成20年度	名古屋市天白区中平2丁目901	平成24年度より学生募集停止予定
	人間健康学部(Faculty of Human Wellness) 人間健康学科(Department of Human Wellness)	4年	250人	30人	1,060人	学士(人間健康学)	1.12倍	平成16年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233	平成24年度より学生募集停止予定
	人間健康学部(School of Human Wellness) 管理栄養学科(Department of Registered Dietitian)	4年	80人	—	320人	学士(管理栄養学)		平成16年度	名古屋市天白区中平2丁目901	平成23年度より学生募集停止
	健康栄養学部(School of Health and Nutrition) 管理栄養学科(Department of Nutrition)	4年	80人	—	320人	学士(栄養学)	1.14倍	平成23年度	名古屋市天白区中平2丁目901	
経営学研究科(Graduate School of Business Management)	2年	20人	—	40人	修士(経営学)	0.57倍	平成12年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233		
附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要

(教育学部教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全	共生の理解	共生人間論Ⅰ	1前	2			○								兼1
		共生人間論Ⅱ	3後	2			○								兼1
		共生人間論実習A	3前・後		1				○						兼1
		共生人間論実習B	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		共生人間論実習C	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		共生人間論実習D	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
学	スポーツ・日本文化	共生人間論実習E	1・2・3・4前・後		1			○							兼1
		スポーツ (バドミントン)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ (テニス)	1後・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ (バスケットボール)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ (バレーボール)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ (サッカー)	1後・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ (ソフトボール)	1後・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ (ゴルフ)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ (スイミング)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ (エアロビクス)	1後・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ (アクアビクス)	1後・2・3・4		1				○						兼1
		競技スポーツⅠ	1後		1				○						兼1
		競技スポーツⅡ	2後		1				○						兼1
		競技スポーツⅢ	3後		1				○						兼1
		日本文化(書道)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		日本文化(茶道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		日本文化(華道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		日本文化(舞踊)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		日本文化(能)	1・2・3後・4		1				○						兼1
		日本文化(歌舞伎)	1・2・3後・4		1				○						兼1
日本文化(陶芸)	1・2・3・4		1				○						兼1		
日本文化(武道)	1・2・3・4前		1				○						兼1		
科	キャリア	キャリアデザインⅠ	1前	2			○								兼1
		キャリアデザインⅡ	1後	2			○								兼1
		キャリアサポートⅠ	2前		2		○								兼1
		キャリアサポートⅡ	2後		2		○								兼1
		キャリアサポートⅢ	3前		2		○								兼1
		キャリア実践研究	3後		2		○		○						兼1
		キャリア実務研究	3後		2		○								兼1
		情報リテラシーⅠ	1前		1			○							兼1
情報リテラシーⅡ	1後		1			○							兼2		
目	日本語	日本語表現法A (音声)	1前・後		2			○							兼1
		日本語表現法B (文章)	1前・後		2			○							兼1
外国語	総合英語	総合英語Ⅰ	1前	1				○							兼4
		総合英語Ⅱ	1後	1				○							兼4
		総合英語Ⅲ	2前		1				○						兼2
		英会話Ⅰ	1前	1					○						兼6
		英会話Ⅱ	1後	1					○						兼6
英会話Ⅲ	2後		1				○						兼2		

教育課程等の概要

(教育学部教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	外国語	基礎中国語 I 基礎中国語 II	2前 2後	1 1			○ ○								兼2 兼2
	人文	哲学 倫理学 心理学 日本史 世界史 日本文学 外国文学 異文化理解 日本文化論 仏教文化史	1前 3後 1前 1前 1後 1前 2前 2後 1前 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
共通科目	社会	憲法と基本権 社会生活と法 暮らしと経済 市民社会と政治 社会の成り立ち 高齢者と福祉 国際事情 社会保障論 社会と福祉	1前・後 2前 1後 3前 1後 2前 3後 2前 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	自然	健康と運動 生活と環境 自然と環境 生命の科学 生物学 I 生物学 II 化学 I 化学 II 物理学 数学	1前・後 1後 1前 1後 1前 1前 1前 1後 1後 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1 1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		小計 (76科目)	—	12	104	0	—		3	0	0	0	0	0	兼70

教育課程等の概要

(教育学部教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	教育原理	1前	2			○			1	1				
	保育原理	1後	2			○			1					
	健康教育概論	1前	2			○			1					
	小計(3科目)		6	0	0		—		7		1			
基幹科目	教育心理学	2後		2		○			1					
	発達心理学	2前		2		○			1					
	臨床心理学	3前		2		○			1					
	生理学	1前		2		○								兼1
	解剖学	1前		2		○			1					兼1
	栄養学	2後		2		○								兼1
	保育環境論	2後		2		○								兼1
	子どもと環境	1前		2		○			1					
	家族関係論	4前		2		○								兼1
	国際理解	4後		2		○								兼1
	異文化コミュニケーション	3後		2		○								兼1
	小計(11科目)		0	22	0		—		3					兼7
専門科目	社会心理学	3前		2		○			1					兼1
	カウンセリング	2前		2		○								兼1
	子ども理解	3前		2		○			1					兼1
	精神保健	2後		2		○								兼1
	発達臨床心理学	3後		2		○			1					兼1
	保育心理学演習	3後		1			○							兼1
	ヘルスカウンセリングⅠ	3後		2		○				1				
	ヘルスカウンセリングⅡ	4前		2		○				1				
	健康相談活動の理論及び方法	2後		2		○				1				
	教育相談(幼・小)	3後		2		○			1					
	教育相談(カウンセリングを含む)(中・高・養)	2後		2		○			1					
	医学概論	1前		2		○			1					
	健康管理論	2前		2		○			1					
	予防医学	3前		2		○			1					兼1
	病理学	2前		2		○								兼1
	衛生学	2後		2		○								兼1
	公衆衛生学	1前		2		○			1					兼1
	微生物学	2後		2		○								兼1
	免疫学	3前		2		○			1					兼1
	薬理概論	2後		2		○								兼1
	看護学	1後		2		○				1				
	母子看護学	4前		2		○				1				
	学校保健	1後		2		○			1					
養護実務演習Ⅰ(健康管理)	2前		1			○			1					
養護実務演習Ⅱ(健康教育)	3後		2			○			1					
保健統計学	3前		2		○			1						
救急処置法	1後		2		○			1	1					
子どもの保健Ⅰ	2前		2		○						1			
子どもの保健Ⅱ	2後		2		○								兼1	
子どもの保健(演習)	3前		1			○							兼1	
子ども体育Ⅰ	1後		2		○						1			
子ども体育Ⅱ	2前		2		○								兼1	
レクリエーション論	4後		2		○								兼1	
子どもの食と栄養	2前		2		○								兼1	
食品学	3後		2		○								兼1	
社会と福祉の分野	社会的養護	2前		2		○								兼1
	社会的養護内容	2後		1			○							兼1
	社会福祉論	3前		2		○								兼1
	児童家庭福祉	2前		2		○				1				
	相談援助	3後		1			○			1				
	障がい児保育	3後		2		○								兼1
生涯学習論	4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要																
(教育学部教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	表現の分野	音楽Ⅰ	1前	2		○			1						兼9	
		音楽Ⅱ	1後	1			○		1						兼9	
		音楽Ⅲ	2前	1			○		1						兼7	
		音楽Ⅳ	2後	1			○		1						兼7	
		保育内容の研究・表現	2前	2			○		1							
		図画工作Ⅰ	2前	2			○			1						
		図画工作Ⅱ	2後	2			○			1						
		言語表現	2後	1			○									兼1
		保育の分野	保育者論	1前	2			○			1					
	保育課程論		2前	2			○				1					
	保育内容総論		1前	2			○				1					
	保育内容の研究・健康		1後	2				○					1			
	保育内容の研究・人間関係		1後	2				○					1			
	保育内容の研究・言葉		1後	2				○					1			
	保育内容の研究・環境		1後	2				○		1						
	幼児教育指導法		2後	2				○								兼1
	乳児保育		2前	2				○								兼1
	保育相談支援		3後	1					○					1		
	家族支援論	3前	2				○						1			
	教育基礎の分野	教職概論	1前	2			○			1						
		養護概説	1後	2			○				1					
		教育制度論	1後	2			○			1						
		教育法	3後	2			○			1						
		教育史	3後	2			○							1		
	教育内容の分野	国語科研究(書写を含む)	2後	2			○				1					
		社会科研究	1後	2			○							1		
		算数科研究	2後	2			○							1		兼1
		理科研究	2前	2			○							1		
		生活科研究	2前	2			○							1		
		家庭科研究	2後	2			○									兼1
		体育科研究	2後	2			○							1		
		外国語活動研究	3前	2			○			1						
	教育方法の分野	教育課程論(小学校)	2後	2			○			1						
		教育課程論(中・高・養)	2後	2			○							1		
		国語科教育法Ⅰ	3前	2			○							1		
		国語科教育法Ⅱ	3後	2			○							1		
		社会科教育法Ⅰ	2前	2			○							1		
		社会科教育法Ⅱ	3前	2			○							1		
		算数科教育法Ⅰ	3前	2			○									兼1
		算数科教育法Ⅱ	3後	2			○									兼1
		理科教育法Ⅰ	2後	2			○							1		
		理科教育法Ⅱ	3前	2			○							1		
		生活科教育法	2後	2			○							1		
		音楽科教育法	3後	2			○									兼1
		図画工作科教育法	3後	2			○							1		
家庭科教育法		3前	2			○									兼1	
体育科教育法		3前	2			○							1			
外国語活動教育法		3後	2			○			1							
道德教育指導論(小学校)		3前	2			○									兼1	
道德教育指導論(中・養)		3後	2			○									兼1	
特別活動論(小学校)		3後	2			○			1							
特別活動論(中・高・養)		3前	2			○			1							
教育方法・技術論(幼・小)	3前	2			○			1								
教育方法・技術論(中・高・養)	2前	2			○			1								
生徒指導論(進路指導を含む)(小学校)	3前	2			○									兼1		
生徒指導論(養護教諭)	3前	2			○									兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
免許・資格関連科目	生徒指導論(進路指導を含む)(中・高)	3後			2	○									兼1
	教育実習(中学校)	4前			4					2					
	教育実習(高校)	4前			2					2					
	教育実習指導(中・高)	3後～4前			1					2					
	英語科教育法Ⅰ	2前			2	○			1						
	英語科教育法Ⅱ	2後			2	○			1						
	英語科教育法Ⅲ	3前			2	○			1						
	英語科教育法Ⅳ	3後			2	○			1						
	保健科教育法Ⅰ	2前			2	○									兼1
	保健科教育法Ⅱ	2後			2	○									兼1
	保健科教育法Ⅲ	3前			2	○									兼1
	保健科教育法Ⅳ	3後			2	○									兼1
	英語学	2前			2	○									兼1
	英語音声学	3後			2	○									兼1
	英語の構造	3前			2	○									兼1
	アメリカ文学研究	3後			2	○									兼1
	イギリス文学研究	4前			2	○									兼1
	英語演習Ⅰ	2前			2			○				1			
	英語演習Ⅱ	2後			2			○				1			
	英語演習Ⅲ	3前			2			○		1					
	リーディングⅠ(精読)	1前			2	○			1						
	リーディングⅡ(多読)	1後			2	○						1			
	TOEIC演習	3後			2	○			1						
	英語プレゼンテーション	4前			2	○						1			
	英語圏文化研究	1前			2	○									兼1
	学校経営と学校図書館	2前			2	○									兼1
	学校図書館メディアの構成	3前			2	○									兼1
	学習指導と学校図書館	2前			2	○									兼1
	読書と豊かな人間性	3後			2	○									兼1
	視聴覚メディア論	3後			2	○									兼1
小計(30科目)			0	0	61			—	6	2	2				兼28
合計(253科目)		—	34	356	61			—	13	6	4	1			
学位又は称号	(学士)教育学		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
全学共通科目群25単位以上、専門科目群87単位以上、演習科目群16単位修得し、128単位以上修得すること。(履修科目の登録上限：49単位(年間))						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	共生の理解 共生人間論Ⅰ	<p>【概要】 21世紀は共生の世紀といわれる。しかし、世界情勢や国内の諸問題を見ると、また自然環境の破壊や汚染の状況を見ると、更には人間関係を見ると、あまりにも反共生的な現実に溢れている。こうした現実を真正面から見詰め、その背景にある問題、思想的な課題を分析し、これからの人類の生き方と、その理念的な根拠(パラダイム)を考えていくこととする。そのためには生態系における共生の実際や人間の本質なども参考にする。</p> <p>「共生人間論」であるので、共生の問題とあわせて、その共生を人間という立場から問う関係上、人間存在についても問いかけることとする。その上に立って、人間の生き方を考察し、あわせて仏教の基本的な考え方と対比して、仏教による共生への道の意義を検討する。人間だけが持つ宗教を通じた共生の可能性と仏教への理解が深まることを期待する。</p> <p>【到達目標】 ①我々の置かれている現実を見つめることからはじめ、その背景にある考え方を取り出し、その問題点を解決する新たな考え方(ここでは共生思想)の理念の枠組みを理解すること。 ②人間存在とはどのような存在なのかを考える。 ③人間はいかにして形成されるのかを考える。 ④その上で今、人間に課せられた課題にいかに取り組むかを考える。 以上のことについて各自が真剣に考え、自分の言葉で表現できるようにする。</p> <p>【授業計画】 (第1回) 授業展開の方法と評価について(聞・思・修の態度) (第2回) なぜ今共生が言われるのか①世界情勢の現実 (第3回) なぜ今共生が言われるのか②人間関係の諸問題 (第4回) なぜ今共生が言われるのか③社会・集団の諸問題 (第5回) なぜ今共生が言われるのか④自然環境の実際 (第6回) 人間の欲望の特質 (第7回) 生態系における共生の姿 (第8回) さまざまな分野における共生① (第9回) さまざまな分野における共生② (第10回) 共生を成り立たすパラダイム①(異なりの尊重、平等) (第11回) 共生を成り立たすパラダイム②(差別・排除の問題) (第12回) 共生を成り立たすパラダイム③(個別・自由・平和の問題) (第13回) 人間存在の特質 (第14回) 人間とはいかなる存在か、人間はいかにしてつくられるか(心と行為の問題から) (第15回) まとめ</p> <p>【授業方法】 ノート講義を中心とする。 授業の展開にあわせて、適宜レポートの提出や小テストを実施する。</p>	
全学共通科目	共生の理解 共生人間論Ⅱ	<p>【概要】 共生人間論Ⅰでの理解を通して、現代社会の問題に対して、仏教の立場から共生について考察する。したがって、仏教のものの考え方、見方の理解から始めて、本学の建学の精神である仏教の共生の理論について理解を深めることを目的とする。そのために仏教の基本的な思想構想としての縁起の思想、無常という促し方、無我という立場、さらには世界で初めて「共生」の言葉を作り出し社会的に実践した、本学の初代学長である「椎尾弁匡」の共生論の特質、さらには浄土教における共生論について理解を深め、これからの人類の生き様について考えることとする。</p> <p>【到達目標】 仏教による共生の可能性と有意義性について確認しながら、仏教思想に基づく人間の生き方を学ぶ。欲望の肥大が引き起こす様々な社会問題や人類の存亡にかかわる問題に対して、仏教の果たす役割の大きさに理解が深まることを目標とする。</p> <p>【授業計画】 (第1回) 授業展開の方法と評価の仕方 (第2回) 仏教の基本的な立場…利害を超えた現実直視 (第3回) 諸行無常の意味 (第4回) 無我の現代的意義…近代思想の問題点との対比の中で (第5回) 存在のあり方の理解…縁起の理解① (第6回) 存在のあり方の理解…縁起の理解② (第7回) 仏教による共生に対する諸学説の紹介 (第8回) 自己をみつめることの重要性…仏陀の言葉から (第9回) 自己と他者の関係(共生)における不可欠な要素…仏陀の言葉から (第10回) 浄土宗における共生の理論① (第11回) 浄土宗における共生の理論② (第12回) 椎尾弁匡師の共生論① (第13回) 椎尾弁匡師の共生論② (第14回) 仏教による共生の意義 (第15回) まとめ</p> <p>【授業方法】 ノート講義を中心として、適宜発表を求め、理解を深めるために随時小テスト(レポート形式)を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	共生の理解 共生人間論実習A 共生人間論実習B 共生人間論実習C 共生人間論実習D 共生人間論実習E	<p>【概要】 他者との共生、それは自己中心的な生き方ではなく、他者の苦しみを自己の問題として受け止め、その苦しみを抜くために、また他者の幸せのために、自己が出来ることは何かに気づき、自らの生き方を実際的に変革していく生き方である。従って、それぞれが自己の出来る自我らを通して、実践的に他者に関与して、他者理解を深め自己変革を行うための実習を行う。</p> <p>実習日数4日～1週間を予定している。実習機関は福祉施設を始め、ボランティア活動、あるいは地域や団体における様々な活動もその対象となる。それらの詳細については前期(春)ガイダンス以降に履修登録者に説明する。</p> <p>【到達目標】 他者理解と実践的な活動を通して人間関係をよりスムーズに出来る事を目標とする。</p> <p>【授業計画】 実習に出るまでの事前指導と手続き上のガイダンス 実習機関で指定された時間数の実習および実習記録の作成 実習終了後の反省と評価、まとめ</p> <p>【授業方法】 集中講義となるので、指示などに十分注意すること。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(パドミントン)	<p>【概要】 誰しも健康維持・増進にとって運動の重要性はわかっている。しかし、運動の生活化、習慣化は難しい。慢性的食料不足を何百万年も生き延びてきた動物にはエネルギーの無駄使いを避ける強固な機構がある。成長後の動物は身体的遊びをしない。人間も本質的には動物と同じく身体的活動よりもラクを望む。このラクへの基本的欲求が運動の生活化を阻害するのである。</p> <p>一方、ホイジンガーが人間のことを「ホモ・ルーデンス」(遊ぶヒト)といているように、大脳の発達した人間は成人後においても身体的遊びをするが、大脳が発達しているがゆえに、ただ、単純に体を動かすだけの遊びには満足しない。ゲーム性、創造性、発展性の少ないジョギング、ウォーキング等の運動が三日坊主になりやすい理由でもある。人間には身体の活動と同時に大脳の活動が必要である。運動文化といわれるスポーツがこの役割を果たす。</p> <p>習得した身体的遊びの技術(スポーツ)はスポーツを通じての友人との交流、家族の団欒等、生活の内容を豊かにし、さらには健康の維持・増進の手助けともなる。例えば、ゴルフ、テニス、スキー、水泳等の技術を持った人と技術を持たない人では生きる密度が異なってくるものと思われる。</p> <p>本授業ではスポーツ技術、スポーツマンシップの習得を目指す。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(テニス)	<p>【概要】 高度に機械化・情報化の進んだ現代社会では、健康を維持・増進するためには、定期的な身体運動の継続が肝要である。本講義では、硬式テニスを教材としてとりあげ、硬式テニスの学修を通じて、健康を維持・増進するために生涯にわたってスポーツを楽しみながら実践する能力を養うことを目的とする。また、硬式テニスの学修を通じて技術の向上を図ることは勿論のこと、体力の増進や全力を発揮する態度を養い、フェアプレー、スポーツマンシップを涵養し、仲間との交流を図ることも目的とする。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(バスケットボール)	<p>【概要】 本科目はバスケットボールを中心に行う。競技の発祥と競技特性に関する知識をはじめ、基本技術・動きやルールなどについて実践を通じて学習する。</p> <p>専門的技術の練習をし、その成果がどの程度向上することができたかを中間及び最後のまとめとして確認する。課題をクリアすることによって、それをゲームに活かし高度な戦術につなげることにより競技の楽しみを知る。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(バレーボール)	<p>【概要】 バレーボールは集団スポーツであり、集団による協力が重要である。本授業では、バレーボールにおける個人技術の向上、技術・戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、集団による協力の重要性を、ゲームを通して理解・実践する事である。</p> <p>また、相互のコミュニケーション能力を養い、生涯スポーツの一つとして、バレーボールを楽しく実践できることを目的とする。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(サッカー)	<p>【概要】 サッカーという競技の楽しさとは、状況を把握し、自分が判断してプレー(行動)を決定し、イメージ通りにプレーできることである。この授業ではさまざまな工夫でプレーを確保し、判断の伴うスキルの獲得、動きの中でのスキルの獲得を目的とする。</p> <p>「サッカーは少年を大人にし、大人を紳士にするスポーツである。」この言葉の持つ意味を理解し、スポーツの精神、フェアプレーの精神を体現できる教養と人格を身に付けることを目指す。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(ソフトボール)	<p>【概要】 ソフトボールは、老若男女に親しまれ、学校体育でも取り入れられている生涯スポーツの一つである。また、わが国では女子日本代表の国際大会における活躍にも見られるように、競技スポーツとしての人気も高い。</p> <p>この授業では、ソフトボールをレクリエーションスポーツ・競技スポーツの両面から捉え、実践を通して競技に必要な知識や実技を学ぶことを目的とする。また、ゲームを基本とし、そのゲームから得た問題点や改善点を修正する練習を授業に取り入れて行きたいと考えている。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	スポーツ・ 日本文化 スポーツ (ゴルフ)	【概要】 この授業では、ゴルフの授業(ゴルフを行うこと、観戦すること、調べたり考えること、皆で協力したり支えあったりすること)を通して、スポーツあるいはスポーツ文化への学びを深め、スポーツをより理解したり実践できる能力を養うことを目的とする。また、ゴルフは紳士、淑女のスポーツといわれる。これは、エチケットやマナーが時としてプレーよりも重要視される場合があることに由来するが、本授業においてもゴルフの技術だけでなく歴史、ルールあるいはマナーにふれることでスポーツの持つ奥深さを学んでほしい。	
全学共通科目	スポーツ・ 日本文化 スポーツ (スイミング)	【概要】 現在、生涯スポーツという観点からみると、求められる水泳のあり方が多様化してきているのではないかと。オリンピック、マスターズなどの競技としての水泳は、やはりその頂点に位置すると思われるものの、実際には、マリンスポーツ、アクアティックエクササイズなど、レジャーとしての水中活動、健康づくりとしての水泳が幅広く受け入れられているように思われる。 そこでこの授業では、水泳を通して、いかに健康のレベルを高めるかを目的として、トレーニング方法を紹介する。また、応用技術として、本学の屋内プールの特質を最大限活用した水中活動を試み、長く水泳に接してもらえるような土台をつくりたい。	
全学共通科目	スポーツ・ 日本文化 スポーツ (エアロビクス)	【概要】 エアロビクスダンスエクササイズの魅力を体感し、基本動作の習慣と、それらを自己の身体で表現する能力を身につける。これに伴い、安全に関する知識も学ぶ。音楽に合わせて運動するという他の有酸素運動にない特徴を体験する。上肢下肢をバランスよく組み合わせ、安全で効果的な要素を踏まえながら、「多種多様な動き」を習得する。	
全学共通科目	スポーツ・ 日本文化 スポーツ (アクアビクス)	【概要】 超高齢化社会を迎えたわが国では、寝たきりにならず生涯にわたって健康で自立した生活を営むことが求められている。本講義では、アクアビクスを教材として取り上げ、アクアビクスの学修を通じて生涯にわたってスポーツを実践する能力を養うことを目的とする。またアクアビクスの技術を向上させることは勿論のこと、体力の増進を図ると同時に仲間との交流も目的とする。	
全学共通科目	スポーツ・ 日本文化 競技スポーツⅠ 競技スポーツⅡ 競技スポーツⅢ	【概要】 スポーツの競技力は体力×技術・戦術×精神力という方程式で表される。この授業では、特定の競技種目におけるトップアスリートを育成することを目的とし、それぞれの競技種目の特性や専門性を理解し、競技力に関する要素全般のアップを集中的に図る。 Ⅰでは競技の基礎技術・戦術の習得の徹底を図る。 Ⅱでは基礎技術・戦術の応用を学ぶ。 Ⅲでは実践の中でこれまでに修得した技術・戦術がどこまで通用するかを試し、更なる向上を目指す。体力や精神力についても、ⅠからⅡ、さらにⅡからⅢへとアップを図る。 種目：野球、サッカー、テニス、ソフトボール、水泳、陸上、相撲	
全学共通科目	スポーツ・ 日本文化 日本文化 (書道)	【概要】 悠久の豊かな中国の名品と日本の優美華麗な名筆をビデオなどによって接し鑑賞する。書の様々な歴史的意義、流れを知る。実技によって、うるわしい書の技法を学び、個性溢れる様々な楽しい作品を制作する。又、会社実務や日常の暮らしの中で役立つ実用書道を学ぶ。	
全学共通科目	スポーツ・ 日本文化 日本文化 (茶道)	【概要】 美しい日本の花、我が家の仏間に入ったマレーシアの学生は、自然に手を合せてくれた。インド人の家族を見せてもらった。子供がプレールームだ、と言った。おもちゃがない。そこはPRAYルームであった。アメリカ人がはじめて名古屋に来て、「ミココロセンター」どこですか?と聞いてきた。 日本人には何でもある。しかし大切な心を忘れてしまった。茶の道を歩くと、その心が道すがらおちている。茶を喫し、その型をくり返す、そして、日本人の忘れたものに、もう一度ふれてみようというのが講座の目的である。	
全学共通科目	スポーツ・ 日本文化 日本文化 (華道)	【概要】 21世紀は「交流新時代」といわれる。15世紀にヨーロッパに波及したイタリア・ルネッサンスから500年たち、物質文明から心のコミュニケーションが重視されることから21世紀は「新ルネッサンス時代」ともいえる。「交流新時代」の中で特に重要なものは「自然と人との交流」である。 日本の伝統文化である「華道」は応仁の乱で荒れた室町時代の東山文化期に誕生し、700年余りの歴史の中で育成され、日本発進の世界的な芸術文化として21世紀に新たな展開を秘めている。自然との共存、共生の華道の美的感性と東洋の美意識を理論と実技を通して学ぶことは、「人間形成上」大切なことである。	

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学部教育学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	スポーツ・日本文化・ 日本文化(舞踊)	【概要】 「舞踊」は明治時代に創られた言葉で、それより前は「おどり」である。つまり昔はどの「おどり」も日本舞踊で、基礎は同じである。この授業は約400年の歴史を持つ歌舞伎舞踊を中心に、それ以前の芸能、現代の芸能・生活との関連性、海外との関連性、また音楽・美術・舞台・きもの・礼儀作法など舞踊にまつわる文化を紹介する。 実技を中心に据え、身体の動かし方から、扇子の扱い方、音楽の聞き取り方、せりふ、着付などをビデオ・実際の舞台鑑賞などを加えて行う。		
全学共通科目	スポーツ・日本文化・ 日本文化(能)	【概要】 能は世阿弥により開花した室町初頭から600年に及ぶ。その間、権力者の後援を受け隆盛を誇り、又は応仁の乱や明治維新などで存亡の危機に陥ったり、徳川幕府からは古いままやれ、新しい工夫はするなど超保守的になる事(伝統芸能)を強いられた。その結果として内面を熟成し芸術美を深め象徴的な能が出来上がった。 中世にはほぼ確立した能はその後歌舞伎、日本舞踊等演劇や文学にも大きな影響をあたえ、現代に継承されている。 能はもともと室町時代という短い期間に書かれたものが主体であるから、能の中の文章やストーリーに分らない所があるのは当たり前で、この時代の日本人と今の日本人の感性には隔りがありすぎる。宗教観、生活観、男女のこともそうである。 能を理解することを目的とし、そのために能の基礎知識を学び、能を鑑賞し、能の真髄に触れ、日本文化の理解と国際文化の理解と国際交流に役立てるようにする。		
全学共通科目	スポーツ・日本文化・ 日本文化(歌舞伎)	【概要】 日本のオリジナルの演劇である歌舞伎を通し、日本人の美意識や表現方法、思考形態などを学び、日本文化を理解する。また、歌舞伎とシェイクスピアなど欧米の演劇や、歌舞伎と現代演劇などを比較研究することで、日本だけでなく、世界の舞台芸術にも影響を与えつつある歌舞伎の表現方法の普遍性と独創性、素晴らしさを学ぶ。		
全学共通科目	スポーツ・日本文化・ 日本文化(陶芸)	【概要】 人間(ひと)と陶芸(やきもの文化)の関わりは極めて幅広く奥の深いものである。この講座ではその歴史、技術の習得はもとより人間にとって重要である豊かな感性の形成を目指す。		
全学共通科目	スポーツ・日本文化・ 日本文化(武道)	【概要】 柔道は、昔からわが国に伝えられた柔術を嘉納治五郎が、人間形成の教育法として集大成し、柔道として創始されたものである。現在ではオリンピック種目にも採用され、柔道が国際化するのに伴って、日本文化としての柔道がその内容を失う危惧がある。「精力善用・自他共栄」を 特性とする柔道は、技術の原理を習得するものではなく、精神と身体力を有効に使用することを本質としている。 本授業は、柔道の伝統文化としての歴史、柔道独特の人間形成としての意味を加えながら、柔道の理解を深めていくことを目的とする。		
全学共通科目	キャリア	キャリアデザインⅠ	【概要】 キャリアデザイン、すなわち自分自身をよく理解し、将来の社会人としての「なりたい自分」のイメージを描くための講座である。 「なりたい自分」をイメージするには、まず自分自身の「興味」や「価値観」について知ることが大切である。そして自分の興味や価値観が、世の中にある職業とどうつながるのかを様々な課題を通して考えていく。 また、「なりたい自分」だけではなく、ビジネス社会で求められる「社会人基礎力」という観点から自分の強み・弱みを知り、今後の対策を考えていく。 本講座は、カードやセルフチェックテストといった親しみやすいツールを使って楽しみながらキャリアデザインができるような構成になっている。自分と仕事についての理解を深め、さらに自分自身の可能性を広げることにより、あなたが充実した学生生活を送れるようにすることがこの授業の目的である。	
全学共通科目	キャリア	キャリアデザインⅡ	【概要】 キャリアデザイン、すなわち自分自身をよく理解し、将来の社会人としての「なりたい自分」のイメージを描くための講座である。 「なりたい自分」をイメージするには、まず自分自身の「興味」や「価値観」について知ることが大切である。そして自分の興味や価値観が、世の中にある職業とどうつながるのかを様々な課題を通して考えていく。 また、「なりたい自分」だけではなく、ビジネス社会で求められる「社会人基礎力」という観点から自分の強み・弱みを知り、今後の対策を考えていく。 本講座は、職業を通して社会参加することの意味、就職に対する意識付け・自己分析・自己理解等を理解させて再確認させる。同時に企業研究・業界分析の仕方を始め、学生自身の適職探しに至ることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	キャリア	キャリアサポートⅠ	<p>【概要】 この講義の目的は、就職活動に対する基礎的な考え方と能力を身につけることを目指している。就職活動を開始する前に、じっくり時間をかけて職業意識を養いながら、就職活動中または就職後に必要とされる基本的な知識やスキルを涵養することで、社会人としての素地を形成することができ、スムーズに就職活動に移行することができる。</p> <p>具体的には、就職試験対策としてのSPI2や一般常識、Webテストに準拠した内容で講義は展開。また、社会において必要とされるコミュニケーション能力やビジネスマナーを身に付けるとともに、職業人意識を醸成する。</p>
全学共通科目	キャリア	キャリアサポートⅡ	<p>【概要】 この講義の目的は、就職活動に対する基礎的な考え方と能力を身につけることを目指している。就職活動を開始する前に、じっくり時間をかけて職業意識を養いながら、就職活動中または就職後に必要とされる基本的な知識やスキルを涵養することで、社会人としての素地を形成することができ、スムーズに就職活動に移行することができる。</p> <p>具体的には、就職試験対策としてのSPI2や一般常識、Webテストに準拠した内容で講義は展開。また、社会において必要とされるコミュニケーション能力やビジネスマナーを身に付けるとともに、職業人意識を醸成する。</p>
全学共通科目	キャリア	キャリアサポートⅢ	<p>【概要】 社会人として必要な「マナー」を、単なる机上の知識としてではなく、場面や役割に応じた生きた使い方をすることによって、「自分の働き方」に結びつけるための考え方を学ぶ講座である。</p> <p>ビジネスに限らず、人と人が出会い、より良い人間関係を築くためには「相手を思いやる気持ち」が大切である。この「思いやりの気持ち」を形に表わしたものが「マナー」である。いくら気持ちがあっても、形として表せなければ他者には伝わらない。マナーが身につくと人間関係は自然にスムーズになり、コミュニケーション力もアップする。</p> <p>また、社会人になる前にも、就職活動の場でビジネスマナーやコミュニケーション力が評価される。近年は、就職活動前に就労体験ができるインターンシップの機会も増えている。</p> <p>就職活動・インターンシップにおいても、まずは社会のルールやマナーを理解しているかが問われる。</p> <p>マナーに関する知識や考え方を習得し、就職活動やインターンシップに自信をもってチャレンジしよう。</p>
全学共通科目	キャリア	キャリア実践研究	<p>【概要】 実践的なスキルや技術の習得としてのインターンシップ（学生が在学中に、企業・団体等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと）に参加することにより、実社会に触れることによる学習意欲の向上を主たる目的とする。事前研修により、インターンシップ参加の心構えを身につける。インターンシップにおいて実社会の現状を把握する。インターンシップ終了後、自らの経験や今後の学生生活の取組方針について、まとめるとともに、プレゼンテーションができることを目指す。</p>
全学共通科目	キャリア	キャリア実務研究	<p>【概要】 実際の就職活動と並行して学ぶことで、学習内容をそのまま実践につなげられる就職活動支援講座である。</p> <p>就職活動のハウツーやテクニックばかりではなく、社会で求められる基本的な能力（コミュニケーション力・実行力・思考力）を実際の就職活動を進めながら体系的に身につけられる構成になっている。</p> <p>本講座では、自分自身が抱えている不安や課題の解決への道を探りながら、ゴールを目指している。そのために必要な、行動計画、情報収集、業種・企業選択、自己分析・応募書類作成などを授業の中でこなしていく。</p> <p>毎回着実に自分が直面している就職活動の課題を達成していくことで、「やればできる」という自信にもつながる。</p>
全学共通科目	キャリア	情報リテラシーⅠ	<p>【概要】 今日の社会では、あらゆる場面においてパソコンなど情報機器の使用やインターネットを利用した情報収集が不可欠になっている。このような情報化社会において、一般的な機器やソフトウェアの基本操作のほかに、ネット社会の一員として良識ある態度や自己防衛策を身につける必要がある。そこで、情報リテラシーⅠでは4年間の大学生活を送るうえで、最低限、身につけておくべきコンピュータ・リテラシー（コンピュータを使いこなす能力）、及び情報リテラシー（情報を使いこなす能力）を学習する。</p>
全学共通科目	キャリア	情報リテラシーⅡ	<p>【概要】 現在では企業だけでなく様々な組織で、パソコンを用いたデータの分析・視覚化が必要とされるようになってきている。また、わかりやすく視覚的にもインパクトのあるプレゼンテーションも活用される場面は多い。そこで、情報リテラシーⅡでは、表計算ソフトによるデータの分析方法と、プレゼンテーション作成ソフトを使用した研究発表・企画提案の方法を学習する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	日本語 日本語表現法A(音声)	<p>【概要】 みんなの前で、3分程度の話や朗読をする。聞き手としてのレポートを提出する。</p> <p>【授業計画】 (第1回)声の文化(話しことばと書きことば) (第2回)自分探し(自分のことを表現する) (第3回)自分の言葉で話す (第4回)自分の声を点検する (第5回)聞きやすい声(共通語の発声) (第6回)言葉の粒立て(共通語の発音) (第7回)こちよく響くことば(鼻濁音) (第8回)歯切れよく話す(母音の無声化) (第9回)音としての日本語(アクセント、イントネーションなど) (第10回)声で読む (第11回)声で表現する (第12回)朗読、語りを聞く (第13回)みんなの前で声を出す (第14・15回)まとめ</p> <p>【授業方法】 講義及び実習を主とするが、適宜ビデオ教材も利用する。</p>	
全学共通科目	日本語 日本語表現法B(文章)	<p>【概要】 文章表現の基本を習得する。日常的・実用的な文章から創造的・芸術的な文章まで、いろいろな文章を書く。基本的な文章の書き方の習得が目的だが、書く事によって意外な自己を発見したり、文を書くことが楽しいという気持ちを感じられることを願う。</p> <p>【到達目標】 文章表現力の向上。テーマに沿って、自分の考えを文章で書けるようになる。</p> <p>【授業計画】 (第1回)目上の人宛に手紙を書く (第2回)相手を変えて手紙を書く (第3回)自分に関する短い文章を書く① 例「自己PR」「趣味」 (第4回)自分に関する短い文章を書く② (第5回)文章を書くための準備(メモ・下書き)について (第6回)与えられたテーマで文章を書く① 例「私の出会った人」「もう一人の自分」など (第7回)与えられたテーマで文章を書く② (第8回)与えられたテーマで文章を書く③ (第9回)文章の仕上げ(推敲)について (第10回)与えられた資料でレポートを作成する① (第11回)与えられた資料でレポートを作成する② (第12回)与えられた資料でレポートを作成する③ (第13回)与えられた資料でレポートを作成する④ (第14～15回)自由に文章を書いてみる 例「音楽を文章にする」「水の入ったコップ」</p> <p>【授業方法】 実作とその添削が中心。文章を書く上での欠点は各人異なる。man-to-manで指導する。従って作品を提出すればよいのではなく、毎時出席して指導を受けながら制作することが重要である。</p>	
全学共通科目	外国語 総合英語Ⅰ	<p>【概要】 本演習では、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、聞く・読む・書くという英語技能の向上を目指し、総合的な英語学習を行う。 なお、英語の学習を効果的にすすめるために、クラス編成は学年当初のプレースメントテストによる到達度別とし、授業内容と教科書は、それぞれのクラスに応じ異なる。</p>	
全学共通科目	外国語 総合英語Ⅱ	<p>【概要】 本演習では、総合英語Ⅰに引き続き、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、聞く・読む・書くという英語技能の向上を目指し、総合的な英語学習を行う。 なお、英語の学習を効果的にすすめるために、クラス編成は学年当初のプレースメントテストによる到達度別とし、授業内容と教科書は、それぞれのクラスに応じ異なる。</p>	
全学共通科目	外国語 総合英語Ⅲ	<p>【概要】 本演習では、「総合英語Ⅰ・Ⅱ」に引き続き、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、特に聞く・読む・書くという英語の技能の向上を目指し、総合的な英語学習を行う。 なお、英語の学習を効果的にすすめるために、クラス編成は、1年学期末に行ったプレースメントテストによる到達度別とし、授業内容と教科書は、それぞれのクラスに応じ異なる。</p>	
全学共通科目	外国語 英会話Ⅰ	<p>【概要】 英語で基礎的なコミュニケーションを取れるように、必要な会話力を養う。とくにスピーキングを強化し、会話を練習する。なお授業の効率化のために、クラス分けテストにより、能力別クラス編成とし、5グループ7クラスに分ける。</p>	
全学共通科目	外国語 英会話Ⅱ	<p>【概要】 この授業は「英会話Ⅰ」で修得した技能をさらに伸ばし、英語の理解を深めることを目的とする。学生が外国人に会った時、コミュニケーションが取れるようにトレーニングする。なお、前期(春)と同じクラス編成である。</p>	
全学共通科目	外国語 英会話Ⅲ	<p>【概要】 1) 英語の様々な文の形を理解しながら、実用的な英会話能力を養う。 2) コミュニケーションの道具としての英語の重要性を理解する。 3) 楽しく英語を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	基礎中国語Ⅰ	【概要】 外国語としての中国語を理解し、使用できるようになるために、初歩的な基礎の習得を目的とする。ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。特に、正確な発音と、聞くことのできる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。
全学共通科目	外国語	基礎中国語Ⅱ	【概要】 外国語としての中国語を理解し、使用できるようになるために、初歩的な基礎の習得を目的とする。ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。特に、正確な発音と、聞くことのできる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。
全学共通科目	人文	哲学	【概要】 哲学は、常識や科学的な判断などをそのまま受けいれずにその前提にまでさかのぼって吟味しようとする。新しい考え方をつかんだ、と思った人がいても、既に過去の哲学者や思想家が同じようなことを考えていた、ということによくある。したがって、新たなアイデアを模索するだけでなく、過去の学説を学び、考え方の基本に立ち返ることによって難局が開かれることもある。そこで、この講義では、西洋哲学の歴史を振り返りながら、基本となる事柄を考え直してみることにしたい。
全学共通科目	人文	倫理学	【概要】 何が「よい」(「悪い」)ことかを研究するのが倫理学である。主として西洋のアリストテレス以来の倫理思想の紹介を目的とするが、比較対照のために東洋の倫理学説にもふれたい。また近年、新しい問題群として注目を集めている「生命倫理」や「環境倫理」の主なテーマについても説明する。特に重点をおきたいのは、諸学説に関する単なる事典的知識の習得ではなく、何が問題となっているか、どういう考え方がいるのか、という内容的な理解である。
全学共通科目	人文	心理学	【概要】 心理学は一般に生活体の行動の科学と言われる。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにしていく学問が心理学である。心理学には、認知心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など多くの分野がある。この講義ではこれらの分野の理解に必要な基礎的な知識をとりあげ、心理学が扱う問題と考え方について学ぶことを目的とする。
全学共通科目	人文	日本史	【概要】 「日本」という国家、「日本人」という民族の形成を主軸として日本古代・中世を概観、日本社会に対する基本的認識力を養う。前半ではまず東アジアの二大文化圏の存在、律令国家形成による7～10世紀の在地社会との対立の歴史を通して、「日本」「日本人」の原型の形成を論じる。後半では院政期における中世封建制社会の開花・鎌倉時代中期以後の社会変動を、東アジア貨幣経済圏の展開というグローバルな視点に留意して論じる。 多様な東アジア社会の一部としての列島社会の原像と、そこからの離脱のプロセスを認識することを通して、アジア社会の一部としての「日本」を認識する。
全学共通科目	人文	世界史	【概要】 グローバル化時代を生きる現在、環境・政治・経済・文化など、あらゆる分野において地球規模で世界を理解することが、時代の要求として求められている。世界はただ一つであり、そこで生じる問題には地球人みんなが一体となって取り組まなければならないからである。そのためには、これまでの一国や狭い地域の枠を超えた地球主義の世界史を構築することが必要となる。本講座ではこうした地球市民意識にもとづく新しい世界観に立って、古代から現代までの人類の歩みを、大きな流れのなかで理解することに重点を置いて見ていく。15回の講義では地球人の歴史を丸ごとカバーすることは不可能ですので、一神教の世界である西ユーラシア(西欧・中東地域)を中心に見ていくことにします。この地域の躍動する歴史を理解することは、現在の世界を理解するうえで欠かせないからである。他の地域は、教科書の自習によって、必要な知識を習得しよう。
全学共通科目	人文	日本文学	【概要】 この講義では、日本の近代・現代文学について、特に「文学と風土」に焦点をあて、学ぶ。 文学作品の舞台となったところを訪ねたり、作家が生まれ、暮らした土地を知ることにより、それまでとは違った読み方ができる。土地の景色、風、空気などその風土を知り、背景を知ることによって、文学をより深く読む。
全学共通科目	人文	外国文学	【概要】 現代社会においても、世代から世代へと語り継がれている公的な精神上的文化遺産である神話・伝説・民話・迷信・俗信等の民間伝承が生活に溶け込んでいる。伝承文学は民間伝承の一つで、神話、伝説、民話、昔話がそれにあたる。 本授業では、伝承文学のうちの英米の民話について概観し、その歴史的・現代的意味を探ることを目的とする。

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	人文 異文化理解	<p>【概要】</p> <p>家族関係であれ、友人関係であれ、もっとも近くにいる人物を理解できなければ円滑な長い付き合いはできない。企業活動でも同じである。国際化したビジネス環境において隣人であり、最も関係の深い中国人やアメリカ人がどういう考え方を好むかは、それらの国の文化である。また日本の経済や外交や防衛にとっても世界屈指の2大強国については、どれほど勉強してもし過ぎることはないはずだ。それなのに今日の高校までのカリキュラムはこのことを必ずしも重視していないため、企業に就職してから隣国のことに音痴であることに気づいてあわてる日本人があまりにも多い。そのことにより日本の経済ははかりしれぬ損失をしている。近未来でこれら強国とときに共生しときに熾烈な競争をしなければならぬ日本人にとって、中国とアメリカの文化の本質を知ることは、単なる教養ではなく「死活問題」と知るべきであろう。</p>	
全学共通科目	人文 日本文化論	<p>【概要】</p> <p>日本人が暮らしのなかに伝えてきた「祭り」を通して「祭祀儀礼」、ことに稲作儀礼について学び、稲作をめぐる古代神話と信仰について考える。</p>	
全学共通科目	人文 仏教文化史	<p>【概要】</p> <p>この授業では仏教と日本文化の関わりについて考える。日本人の宗教は一般的に仏教だと言われているが、そもそも仏教の目指していたものは何からか考えを始めて見たい。世界史で学んだ仏教を基にどこまで仏教について知っているかを考え、みんなの仏教観の再検討から始めてみたい。インドから中央アジアを経て漸く日本にたどり着いてきた仏教。それがどのように日本文化に影響を与えてきているかを考えるものである。ある意味では「日本の民俗」を考える授業にもなるが、それだけ日本文化は仏教の影響を受けていたかが知れるものである。それは日本人のものの見方、考え方にも様々に影響を与えたわけであるが、日本人の精神性を知るためには重要な要素でもある。</p>	
全学共通科目	社会 憲法と基本権	<p>【概要】</p> <p>日本国憲法が施行されて半世紀以上になる。その間、平和主義を規定した第9条の解釈をはじめとして、憲法そのものの評価をめぐってさまざまな議論がなされ、昨今は憲法改正も取りざたされている。こうした憲法のあり方について最終的な決定権を持つわれわれは、憲法の理念を正しく理解しておく必要がある。憲法は、憲法総論、基本的人権、統治機構の3つの学習分野に大別できるが、最も重要なのは基本的人権の分野であり、基本的人権についての学習が憲法学習の中心となる。そこで、授業では、基本的人権の保障とその内容を中心に解説をし、基本的人権についての理解を深めることを目的とする。なお、憲法総論、統治機構の分野についても必要な限り説明をする。</p>	
全学共通科目	社会 社会生活と法	<p>【概要】</p> <p>法律は「最低限の道德」といわれる存在です。本講義「法学」では主に3つの事項を講義します。一番目：法と法律、法と正義、法律と憲法、憲法と憲法制定権力との関係・相違はどこにあるのだろうか、といった抽象的問題。二番目：①交通事故に遭ったら法律的にはどのように処理されるのだろうか？②16歳の日本人の男性と婚姻適齢にあるアメリカ人の女性とは結婚できるのだろうか？前者は不法行為等の問題であり、後者は国際法・抵触法の問題というように、具体的問題の処理の方法。三番目：法の解釈の方法（法解釈学・文理解釈・論理解釈、類推解釈・反対解釈・拡張解釈・縮小解釈等）など、法技術的な問題。これらの事項に関する講義を通じて、出席者が法的思考・リーガルマインドを少しでも身につけて、生活者として必要となる法律についても学ぶ場とする。出席者が身の回りの事象に対して問題意識をもって分析・検討すれば、法的思考の更なる向上にも資することとなると思われる。</p>	
全学共通科目	社会 暮らしと経済	<p>【概要】</p> <p>経済学の基礎的概念を平易に理解することを講義の目的としたい。経済学という「資源配分」、「経済主体」の行動、「経済的豊かさ」の指標、消費経済、公共経済のあり方について講義する。また、戦後の日本経済の成長、金融危機、成熟社会における経済的諸問題を社会との関係で講義する。</p>	
全学共通科目	社会 市民社会と政治	<p>【概要】</p> <p>現代は、メディア等から国内外の政治に関する情報を受けつつも、国民の“政治不信”や“政治無関心”が叫ばれる時代である。しかし、政治は人間の行為から生まれたものであり、現在も有り続け、密接に我々の生活と関係している。そうした中で、政治は過去・現在においてどのように我々と関係し、役割を果たしてきたのであろうか。そこでこれらを、授業を通じて学びつつ、最終的には政治の将来や、どのようにひとりひとりが政治との関わりをもつかを学生自身に考えてもらいたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	社会 社会の成り立ち	<p>【概要】 この授業は、家族や地域社会、企業、学校、サークルなどの人と人とのつながりについて考えていく。 たとえば、家族を一つの集団としてとらえ、それにはどのような機能があるのか、歴史的にどう変わってきたのか見るとともに、具体的に現在の日本社会で少子化や晩婚化などがどのような状況にあるのかを具体的に見ていく。また、格差社会と言われる日本で、階層とは何か、貧困の実態はどうか、女性の働き方にはどのような特徴があるのか、企業の組織にはどのような特徴があるのか、地域社会でのつながりはどのように変化しているのかなどについて見ていく。 今は、人と人とのつながりが薄れている時代、無縁社会とも言われている。自分の身の回りから、人とのつながりを考え、そこからさらに想像力をふくらまして、社会のいろいろな人々のつながりはどうなっているのか、さらに日本社会全体はどのような変化を遂げようとしているのか、いっしょに考えていこう。 授業では日常生活のなかに社会学を見出していけるようにしていく。また統計数値を見ながら、事実即して、社会の構造をとらえるようにしていく。</p>	
全学共通科目	社会 高齢者と福祉	<p>【概要】 年を重ねることの素晴らしさ。それを表現・実感できる社会とはどんな社会だろうか。すべての人が最後まで自分らしく生き続けるための条件整備の課題(福祉)とそれを促す価値観(哲学)が問われている。この講義では、加齢に伴う心身機能の低下や生活スタイルの変化についての理解を基礎にしながら、高齢者福祉の制度の理想と現実、高齢者であっても社会運営の主人公であり続けられる新しい社会組織原理・老年文化をともに考える。</p> <p>【到達目標】 高齢者の生活実態の特徴が把握できること。また、現状の高齢者福祉制度の概要が説明できること。以上2点を基本目標にして、さらに高齢者福祉の国際比較の視点を獲得すること。</p> <p>【授業計画】 (第1回)「若い」の理解…身体の変化 (第2回)「若い」の理解…心の変化、痴呆のメカニズム (第3回) 高齢者の生活…家族生活、家族関係、血縁、近隣関係など (第4回) 高齢者の生活…年金制度の概要 (第5回) 高齢者の生活…高齢者の仕事・職種 (第6回) 高齢者の生活…「ひとりで生きる」、死を巡る社会環境、葬式、死生観 (第7回) 施設福祉と在宅福祉…老人ホームの体系(老人福祉制度の歴史・変遷と施設福祉) (第8回) 施設福祉と在宅福祉…在宅福祉の現状とマンパワー(保健・医療・福祉の連携) (第9回) 施設福祉と在宅福祉…シルバービジネスを考える (第10回) 余暇と「生きがい」…情報化社会のなかの高齢者、孤立と孤独、老人クラブとテレビ (第11回) 余暇と「生きがい」…高齢者の性とパートナーシップ (第12回) 世界の高齢者福祉事情…福祉先進国の場合(スウェーデン、デンマーク、ドイツなど) (第13回) 世界の高齢者福祉事情…アジアの高齢者と福祉制度 (第14回) 高齢者福祉にみる比較文化論(ポランディアの位置付けと福祉原理のタイポロジー) (第15回) まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行うが、適宜視聴覚教材も活用する。視聴覚教材に対しては必ずレポート提出を求める。授業時間以外に各自で施設あるいは機関を見学してもらう。</p>	
全学共通科目	社会 国際事情	<p>【概要】 グローバル時代の現代のビジネスでは、国内外の企業において、さまざまな国と文化出身の従業員や顧客に対応する異文化経営が必要である。それには各国の政治的・社会的・文化的事情に関する知識とそれに対応する能力が必要である。 本授業では、異文化経営の基礎知識として世界の概況を地域別に学んだ後に、日本と関連のある世界の国々の事情を地域に分けて学ぶ。 諸外国に関心を持ち、国際事情に敏感な態度を身につけるよう努力して欲しい。</p>	
全学共通科目	社会 社会保障論	<p>【概要】 現在、日本では人口の高齢化が、人類史上かつてないスピードで、かつてない水準に向かって進みつつある。この結果、老人医療費や老人を介護するための費用を中心として社会保障に必要な費用が急増しつつある。「揺りかごから墓場まで」人びとの生活が国によって保障されていること自体は喜ばしいことであるが、その費用は結局は国民それぞれが負担しなければならない。かつてのように経済が高いテンポで成長していた時代には、高度成長の果実によって、この費用のかなりの部分をまかなうことができたが、もはやこのようなことを期待することはできない。今や、国民ひとりひとりが、自らの負担の限界と関連させて、福祉における給付のあり方を考えなければならない時代を迎えているのである。本講義では、学生が社会保障制度についてより正確な理解を有するようになることを目指して、社会保障制度の歴史と現状を論ずる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	社会 社会と福祉	<p>【概要】</p> <p>社会福祉の基本的な考え方や21世紀における新しい社会福祉のあり方、方向性について概括的に学習をすすめていきます。具体的には、新しい社会福祉の全体像の理解や個別の諸課題、例えば、高齢者問題（雇用・生きがい・介護など）、障害者問題（自立・就労・社会参加など）、児童問題（虐待・養護など）について、社会的な事例を可能な限り利用しながら考えたいと思います。社会福祉の課題は、自分達とは異なる外界の出来事として、客観的に捉える視点も時には大切ですが、どこかで自分達とは繋がっているかもしれないといった主観的な観点から理解することもとても重要であると思います。そこでは、社会福祉を学習するひとり1人が、自分に向き合う勇気と他者を受け入れる大きな器が求められてきます。授業を通して目的とする点は、そうした事柄に一人でも多くの学生が気づいてもらうことと、これからの社会にとって社会福祉の必要性や重要性についてしっかりと考えてもらう点にあります。</p>	
全学共通科目	自然 健康と運動	<p>【概要】</p> <p>超高齢化社会を迎えて、健康に長生きすることは個人にとっても社会にとってもますます重要になっている。そして、そのためには運動が極めて大切であることが多くの科学的研究によって実証されている。本講義では運動と健康との関係について理解を深めるために、各ライフステージにおける運動の意義や生活習慣病予防のために必要な運動を中心に概説する。受講生諸君が近い将来、社会に出て活躍するためにはまず、自らの健康管理能力を身につける必要がある。そのためにはどのような運動をすべきか、また、適正な身体組成を保つためには何をすべきかといった、実践能力を身につけてもらうことを目的としたい。</p>	
全学共通科目	自然 生活と環境	<p>【概要】</p> <p>私たちを取り巻く環境は、自然からの影響はもちろんのこと、時代的・社会的な影響を受けながら変化してきている。また、見方を変えると私たちのライフスタイルの変化等が環境に影響を及ぼしているといえる。本講義では、身近な生活における環境の現況とそこでのニーズや課題について論じ、今後私たちが考え、取り組むべき事柄についての理解を深めることを目的とする。</p>	
全学共通科目	自然 自然と環境	<p>【概要】</p> <p>我々を取り巻く自然は日々変貌を遂げているが、これまで人類が自然に及ぼした変化は、21世紀に入り急速に危機的な様相を深めている。環境問題は我々人類が21世紀において直面する最大の課題の一つで、地球上に棲息するすべての生物の命に関わる重要な問題である。この講義では、地球環境破壊の現状を分析して、原因の究明、自然破壊防止、自然との共生と復活のために、われわれ一人ひとりが何ができるかを考え、果たすことができる役割を探る。</p>	
全学共通科目	自然 生命の科学	<p>【概要】</p> <p>前半8回の授業は、人体の構造と機能について、大学生に望まれる教養程度の知識を得ると同時に、各機能が破綻した状態である病気について理解することを目的とする。後半では、微生物のような単細胞生物から、人のような多細胞生物にいたる多くの生命に共通する事項について学び、生命の多様性についての理解を深めることを目的とする。</p>	
全学共通科目	自然 生物学Ⅰ	<p>【概要】</p> <p>この講義では、生物に特徴的な現象のうち、私たちの身近なことや私たち自身にかかわること、すなわち、遺伝子やゲノム、個体の発生などについて理解するための基本的知識を学び、同時に生命の営みに対する科学的見方を深めることを目的としている。すなわち、私たち生物（ヒト）の基本単位である細胞やゲノム、生物の発生・分化などについて学ぶとともに、くらしの中に見出される生物学、クローン、遺伝子組換え、テラーメイド医療など、最近の話題も加えながらともに学んでいく。</p>	
全学共通科目	自然 生物学Ⅱ	<p>【概要】</p> <p>細胞は生物の基本的単位である。そこで、この講義では、最初に細胞の一般的構造を学び、次いで主として動物細胞の細胞膜、核、および種々の細胞小器官について個別にその構造と機能を学んでいく。さらに、生命現象をささえる物質（糖質、アミノ酸・タンパク質、脂質など）の代謝やエネルギー代謝についても学び、生化学的基礎を養っていく。これらが、私たちのくらしや私たち自身とどのように関連するか、バイオ関連の身近な例や様々な話題を挙げて理解を助ける。</p>	
全学共通科目	自然 化学Ⅰ	<p>【概要】</p> <p>人間の健康に関わる仕事を志す者にとって、日常生活が健康的で豊かであるように心がけることは極めて重要である。この点、近年の科学技術の発展が果たしてきた役割は大変大きいと言える。科学の進歩は多くの物質を生み出し、生活を便利に、且つ、快適にしてくれた。従って、人々を取り囲む環境中にはさまざまな物質がある。私たちの体も物質からできており、日常生活は物質との相互作用の上で成り立っていると言える。この講義では、専門分野の生化学、栄養学、生理学などの理解をたすけるため、物質の成り立ちや性質に関する化学の基礎的な考え方や知識を学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	自然 化学Ⅱ	<p>【概要】 私たち人間のみならずあらゆる生物は、有機化合物が中心になって作られている。21世紀は生命科学が大発展をした世紀と言われ、多くの新しい学問分野が発達した。私たち自身の生活をよりよいものにするために、特に人間の健康に関わる仕事を志す者にとっては、生物が示すさまざまな生命現象を、有機化合物の構造と機能を学習し、その知識に基づいて分子レベルで理解しようとするのが大切である。この講義では、有機化学の基礎的な知識と代表的な有機化合物について学ぶ。この講義は、生化学、栄養学、生理学などの理解をたすけ、より深めるのに役立つ。</p>	
全学共通科目	自然 物理学	<p>【概要】 これは、高校で物理を学ばなかった、あるいは十分に学ばなかった学生のための授業である。勉強したからといって「お金になる」ものではないが、やれば必ず人生の財産になると気付くものである。“基礎”学習は、潜在能力を高めてくれるのである。予備知識は仮定しないが、なにしろ土台から順に“組み立てられていく”ものであるから、復習は必要である。それを支えるのは“やる気”だろう。高校で物理は暗記科目のようだったと思った人も多いだろうが、そうでないことを示すのが私の課題である。 まず見慣れた(耳慣れた)現象として、ドップラー効果を取り上げ“簡単な数学処理”で理解できることを実感してもらいたい。続いて力学及び流体力学についての話をする。数学的処理は少々難しいので、それにはあまり立ち入らずに学習する。</p>	
全学共通科目	自然 数学	<p>【概要】 「何のために数学を勉強するのか」。それは「役に立つものだからある」と説明する人もいるが、実益を求めて講義で勉強すると、数学は、たいがい挫折する。御存じのとおり、わからないと頭が痛くなり、やる気がなくなるが、それを超えてわかってくると、何んともいえない爽快感があり“面白い”のである。結局、「山を超えると気持ちいい」という体験のために勉強するのである。 今回は、中学の連立方程式の解法を、現代数学的に書きなおしてみた。目新しい方法であるから、学習した後はきっと自慢できるものだと思う。指数及び三角関数は“知らない恥をかく”という種類のものであるから、高校でのことは忘れて、新しい気持ちで挑んでほしい。高校の授業とは、ちょっと違う展開の仕方である。</p>	
専門科目	基礎科目 教育原理	<p>【概要】 1. 教育の意義・目的・役割について学ぶ。なぜ人間に教育が必要とされるのか、ヒトと他の動物との本質的な相違について学習する。2. 家庭・学校・地域における教育の特質について理解する。これらの場にかなる役割が存在するのか、また各々の問題点について考える。3. 古代ギリシャから近代にいたる、教育に関する歴史及び思想を学び、教育学に関する体系的知識を習得する。 【到達目標】 1. 教育の意義・目的・役割及び家庭・学校教育について理解している。2. 教育に関する歴史及び思想について理解している。3. 教育学的な思考や態度を身につけている。 【授業計画】 <第1回> ガイダンス (授業構成、評価方法、受講時留意点)、教育学の位置づけ<第2回> 教育の意義と目的、必要性<第3回> 教育の2つの役割 -個人への成長への援助・文化伝達機能-<第4回> 家庭教育の諸機能<第5回> 家庭教育における現在の課題について<第6回> 学校教育の諸機能<第7回> 学校教育の問題点<第8回> 地域における教育のあり方、現在の課題について<第9回> 家庭・学校・地域の連携<第10回> 教育思想の源流 -古代ギリシャの教育-<第11回> 中世・近世の教育思想 -近代教育の礎-<第12回> 近代の教育思想① -「子ども」の発見-<第13回> 近代の教育思想② -科学的教育学の成立-<第14回> 現代における教育理論<第15回> 教職の意義と特質 【授業方法】 講義形式を中心にして進めます。また、ビデオ、OHC、スライドなどを利用して視聴覚教材を提示します。各回の授業において、出欠の確認を行うとともに、授業内容に関する感想・考察などを提出して頂くことがあります。また、適宜、小テストを行い、知識・技術の定着をはかります。</p>	
専門科目	基礎科目 保育原理	<p>【概要】 保育は、主に乳幼児を保護・養育し、より望ましく育成する営みである。保育はさまざまな場でなされるが、児童福祉施設とりわけ保育所における保育に重点をおいて講義を進める。様々な場で行われる保育の特徴、役割、意義について検討し、保育の理念と目標、保育の方法原理と保育内容、保育環境や保育形態について理解させる。さらに、保育思想及び保育施設の歴史と現状について学習し、社会制度としての保育所保育の意義と役割、保育の原理と内容、保育士の役割について十分な理解を図る。 【到達目標】 保育所保育の意義と役割、保育の原理と内容、保育士の役割について理解する。 【授業計画】 <第1回> 保育の意義 <第2回> 保育の目標とねらい <第3回> 保育の思想 <第4回> 保育の制度 <第5回> 子ども理解の重要性 <第6回> 子どもの発達の特性 <第7回> 保育の領域と統合性 <第8回> 保育内容・保育指導 <第9回> 教育課程・保育計画 <第10回> 指導計画の実際 (幼稚園・保育所) <第11回> 保育における環境の意味 <第12回> 保育の方法原理 <第13回> 保育の形態 <第14回> 保育者のアイデンティティ <第15回> 各学生によるふりかえり及び反省 【授業方法】 講義を中心として行うが、学生自身が調べたことを発表したり、学生を交え討議したりして授業を進める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基礎科目	健康教育概論	<p>【概要】 常に時代と直面している健康問題をどのように把握し、対処し、予防していくかを学ぶのが健康教育である。自分の健康を自己評価し、自分の健康は自分で守るという自覚を促し、望ましい行動に変容させるにはどのような教育方法と技術が必要かを学習する。</p> <p>【到達目標】 ①現在直面している健康問題を把握している。 ②健康問題の対処方法、予防について説明できる。 ③望ましい健康教育方法・技術について考えることができる。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 健康と病気 <第2回> 健康教育の歴史 <第3回> 健康問題の把握とその対応 (1)グループワーク <第4回> 健康問題の把握とその対応 (2)発表 (パワーポイント) <第5回> 健康問題の把握とその対応 まとめ <第6回> 健康リテラシーとは <第7回> 健康教育の理論とモデル <第8回> 演習 意識改革をもたらすには <第9回> 演習 食の実態を見直す <第10回> 演習 ライフスタイルを見直す <第11回> ストレスマネジメント (1) <第12回> ストレスマネジメント (2) <第13回> 健康教育の実際 (シナリオ作成) <第14回> 健康教育の実際 (ロールプレイ) <第15回> まとめワークショップ</p> <p>【授業方法】 講義および演習形式とする。</p>	
専門科目 基礎科目 こころ	教育心理学	<p>【概要】 学校、地域社会、および家庭において子どもが直面している様々な教育的な問題について、心理学など実証科学の視点から合理的に理解させる。保育者や教育者の立場として、子どもの健全な発達・成長および学びの機会を保証し、支援するための実践的な知識や汎用性の高い技能を習得させる。さらに、教育者の抱える諸問題やそれらの背景などについても、心理学的な観点から理解させ、教育者の有るべき姿について理解を深めさせる。</p> <p>【到達目標】 子どもの個性化や社会化に影響を及ぼす教育的働きかけの意義を心理学的理論や実証的研究成果から理解し、教育実践に活かそうとする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 発達の形成要因 <第2回> 発達課題と発達の諸原理 <第3回> 母親的養育の剥奪 <第4回> 学習指導法 <第5回> 学習意欲 (動機づけの発達と動機づけの理論) <第6回> 学習の準備性と早期教育の問題点 <第7回> 子どもの適応の問題 (適応の基礎的理解) <第8回> 子どもの適応問題 (いじめや不登校およびそれらの対策) <第9回> 教育臨床の基礎的理解 <第10回> 個人差を理解する I (知能と創造性) <第11回> 発達の筋道の違いを理解する (障がい児とどう向き合うか) <第12回> 学習環境としての学級集団を理解する <第13回> 学級崩壊や授業崩壊はどうしておこるのか <第14回> 環境としての教育者・保育者 <第15回> 教育評価を理解するとまとめ</p> <p>【授業方法】 講義形式で授業は進行する。身近な問題やエピソードを足がかりにして、教育心理学の理論や知見をわかりやすく解説したい。また、学習の理解を促すために、視聴覚のメディアを積極的に活用したい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	基幹 科目 こころ	発達心理学	<p>【概要】本講義では(1)乳幼児から青年期へと至る発達段階ごとの特徴を論じる。(2)いくつかの重要な行動的特徴をとりあげ、それぞれの構造や機能の発達的变化について論じる。(3)発達心理学の基礎を担う研究方法を論じる。このような発達心理学の体系的な知識や技能を学ぶことを通じて、保育者・教育者として必要な保育や教育実践力の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】①乳幼児期から青年期にいたる、人間の持つ心の諸機能や構造の変化について理解できる。②発達研究の手法について理解できる。③保育・教育実践や諸相を発達心理学の観点から理解できる。</p> <p>【授業計画】</p> <p><第1回>生涯発達心理学の視点と考え方 <第2回>遺伝と環境 <第3回>発達段階と発達課題 <第4回>発達心理学の研究手法(家系法や双生児法、その他の方法) <第5回>初期経験や親子関係の重要性 <第6回>児童期の特徴 <第7回>青年期の特徴 <第8回>知覚と記憶の発達 <第9回>思考発達 <第10回>ことばとコミュニケーション能力の発達 <第11回>知能と創造性の発達 <第12回>道徳性と思いやりの発達 <第13回>仲間関係の発達 <第14回>社会的スキルの発達 <第15回>子どもの障がい理解</p> <p>【授業方法】講義形式で授業は進行する。身近な問題やエピソードを足がかりにして、発達心理学の理論や知見をわかりやすく解説したい。また、学習の理解を促すために、視聴覚のメディアを積極的に活用したい。</p>
専門 科目	基幹 科目 こころ	臨床心理学	<p>【概要】本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。</p> <p>【到達目標】学習を通じて、臨床心理学の概念や心理的問題の理解や臨床心理学的技法について全体像を確かなものにする。</p> <p>【授業計画】</p> <p><1週>オリエンテーション：臨床心理学とは何か? <2週>臨床心理学の基礎理論①：精神分析学 <3週>臨床心理学の基礎理論②：認知行動論 <4週>臨床心理学の基礎理論③：人間性心理学 <5週>臨床心理学の対象①：適応障害・神経症 <6週>臨床心理学の対象②：人格障害・精神病 <7週>臨床心理学の対象③：発達障害 <8週>ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児・児童期 <9週>ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 <10週>ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・高齢期 <11週>臨床心理学的アセスメント①：観察法・面接法 <12週>臨床心理学的アセスメント②：検査法 <13週>臨床心理学的援助の技法① <14週>臨床心理学的援助の技法② <15週>臨床心理行為と倫理</p> <p>【授業方法】講義形式で進める。必要に応じて、視覚的教材を導入する。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学部教育学科)				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目	からだ 生理学	<p>【概要】 複雑な生命現象を解析し、生命に関するあらゆる謎を分子レベル、細胞レベルおよび固体レベルから解き明かす。人体やそれを構成する各要素（細胞、組織、器官）は、それぞれが目的をもった固有の働き、あるいは役割をもち、生きていくための営みをしている。本講義では、まず、人体を構成する各要素の機能を追求し、人間のからだの仕組みと働きを理解する。そして、それらを総合して、からだの働きがバランスを失ったとき、からだの機能がどのように生理学および生化学的变化をし、病的な症状が現れてくるかなど、そのからくりを知り、薬理理論などとも関連させながら総合的な医学知識を身につける。</p> <p>【到達目標】 からだのしくみと働きを科学的に理解し、学校保健室、教育現場、医療現場、スポーツ関連施設などで日常よく見られる疾病を生理学的に理解した上で、その予防や治療など「正しい健康管理」の指導ができることを到達目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 生理学とは <第2回> 神経系のしくみと働き（神経の興奮と伝達） <第3回> 中枢神経系のしくみと働き <第4回> 自律神経系のしくみと働き <第5回> 感覚のしくみと働き（視覚と聴覚） <第6回> 筋肉のしくみと働き <第7回> 血液・免疫のしくみと働き <第8回> 循環器系のしくみと働き <第9回> 呼吸器系のしくみと働き <第10回> 消化器系のしくみと働き（消化と吸収） <第11回> 消化器系のしくみと働き（栄養と代謝） <第12回> 泌尿器系のしくみと働き（尿の生成と排泄） <第13回> 内分泌系（ホルモン）のしくみと働き <第14回> ホメオスタシスのしくみと働き（体温とその調節） <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 学内ネットワーク上にリンクした講義資料をパソコンで活用しつつ、ビデオ・DVDなどの視覚教材を通して理解を深めながら進める。また、レポート提出や小テストなどで学習の到達度を確認しながら進めたい。</p>	
専門科目	基幹科目	からだ 解剖学	<p>【概要】解剖学は人体の基本構造を学び、形態が機能と密接な関係がある事を知る学問である。ここであつかう形態とは、肉眼的あるいは顕微鏡的にみる構造も含む。したがって、肉眼解剖学、組織学はもとより、発生学ときには人類学他も含む広範囲におよぶものになる。具体的には、細胞生物学から始まり、骨学、靭帯学、筋学、脈管学（血管系、リンパ系、神経系）、内蔵学（消化器系、呼吸器系、尿生殖器系）、感覚器学など系統別にその構造と機能を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 人間健康学士に必要な人体の基本的構造と機能に関する知識を修得し、これらを説明できるようにする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 細胞～人体 (1) : 総論 <第2回> " (2) : " <第3回> 骨・靭帯・筋 (1) : 骨・筋の構造と機能、発生・成長 <第4回> " (2) : " <第5回> 消化器 : 消化器の構造と機能 <第6回> 呼吸器 : 呼吸器の構造と機能 <第7回> 脈管 (1) : 心臓、血管、リンパ <第8回> " (2) : " <第9回> 泌尿器 : 腎臓～膀胱の構造と機能 <第10回> 男性生殖器 : 男性生殖器の構造と機能 <第11回> 女性生殖器 : 女性生殖器の構造と機能 <第12回> 内分泌 : 内分泌組織の構造と機能 <第13回> 感覚器 : 外皮、視覚器、平衡聴覚器等 <第14回> 神経 : 脳・脊髄、脳神経、脊髄神経、自律神経 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 power pointを使用。授業の進行によっては、小テストをしたり、レポート提出を求める場合がある。</p>	
専門科目	基幹科目	からだ 栄養学	<p>【概要】ヒトは摂取した食物成分を利用し、生きていくために必要な物質を補っている。また食物成分の中には、ヒトが健康に生活することに関わる成分があることがわかってきている。本講義では、それら食物中の成分がヒトの体内でどのように変化し、どのように利用されているのかという、栄養学における基礎を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 食物成分に関する情報が氾濫する今日、情報を的確に判断し、実践の礎とできるような身近な科学的常識を身につける。</p> <p>【授業計画】 <第1回> オリエンテーション <第2回> 食物成分のヒトとの関わり <第3回> さまざまな食品 <第4回> ヒトの体の組成 <第5回> 糖質の消化と吸収 <第6回> 糖質の代謝 <第7回> タンパク質の消化と吸収 <第8回> タンパク質の代謝 <第9回> 脂質の消化と吸収 <第10回> 脂質の代謝 <第11回> 無機質・ビタミンの吸収 <第12回> 無機質・ビタミンの利用 <第13回> 非栄養成分の利用① <第14回> 非栄養成分の利用② <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行う。それぞれのテーマの理解を深めるため、また最新の情報などについては、補助教材としてプリントを配布する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基幹科目 環境	保育環境論	<p>【概要】 現在我々が生活している環境は、これまでの科学技術等の著しい進歩により、経済的にも物質的にも非常に豊かになった。しかし、現代社会ではこの『豊かさ』により、社会構造をはじめ、その中で生活する大人は勿論のこと、幼い子どもたちにまで大きな影響を及ぼし、様々な問題が露出してきている。そこで、現代の子ども（特に乳幼児）を取り巻く環境を社会環境と自然環境に大別し、各々の環境において、特に注目すべき事象や問題点を明らかにしながら理解を深める。</p> <p>【到達目標】 幼い子どもを取り巻く、現代の社会環境及び自然環境におけるさまざまな事象について明らかにするとともに、そのメカニズム、そしてそれらが幼い子どもにどのような影響を及ぼすのか理解をする。さらに今後の課題について整理し、家庭と保育現場が連携しながら、どのように取り組むべきかを検討を加える。</p> <p>【授業計画】 I. 社会環境 <第1回> 現代の家族と保育政策 幼稚園・保育所・認定子ども園(1) <第2回> 現代の家族と保育政策 幼稚園・保育所・認定子ども園(2) <第3回> 現代の家族と保育政策 幼稚園・保育所・認定子ども園(3) <第4回> 早期教育(1) <第5回> 早期教育(2) <第6回> 子どもの生活環境と生活リズム(1) <第7回> 子どもの生活環境と生活リズム(2) <第8回> 子どもの生活環境と化学物質(1) <第9回> 子どもの生活環境と化学物質(2) II. 自然環境 <第10回> 保育と紫外線(1) <第11回> 保育と紫外線(2) <第12回> 保育と紫外線(3) <第13回> 保育と環境ホルモン(1) <第14回> 保育と環境ホルモン(2) <第15回> 保育と環境ホルモン(3)</p> <p>【授業方法】 配布資料を中心に講義を行う。そして、より理解を深めるためVTRまたはDVDを活用する。また、このときにはレポートを求める場合がある。</p>	
専門科目 基幹科目 環境	子どもと環境	<p>【概要】 子どもを取り巻く身近な環境について多様な視点から学ぶ。すなわち、住まいの環境、教育施設の環境、公園等の遊び環境・地域の居住環境の現状と課題について学び、子どもが心身ともに健康で快適に過ごすことができる環境について理解し、よりよい環境づくりを考えていく力を養うことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 子どもを取り巻く身近な環境の現状と課題について理解すること。</p> <p>【授業計画】 1週 子どもの生活 現状と課題 2週 家庭での環境1 (住まいのデザイン 安全性の視点から) 3週 家庭での環境2 (室内の居住環境と住まい方) 4週 家庭での環境3 (子ども部屋) 5週 教育施設での環境1 (保育園、幼稚園) 6週 教育施設での環境2 (小学校空間の変遷 明治以降の教室空間の特徴と現在の動向) 7週 教育施設での環境3 (小学校の環境1 学校環境衛生基準 教室等の基準と配置計画) 8週 教育施設での環境4 (小学校の環境2 居場所づくり、心身への配慮) 9週 教育施設での環境5 (小学校の環境3 遊び場、食環境) 10週 遊びの環境1 (公園と遊具) 11週 遊びの環境2 (プレイパーク) 12週 子どもと地域環境1 (子どもの安全を守る取組み、仕組み1 交通事故) 13週 子どもと地域環境2 (子どもの安全を守る取組み、仕組み2 犯罪) 14週 子どもと地域環境3 (子どもの居場所づくり) 15週 まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体として行うが、</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基幹科目 環境	家族関係論	<p>【概要】みなさんにとって、「家族」とはどのようなものですか？ 家族は、一番身近なものであるからこそ、あまりじっくりと考えたことがないかもしれません。けれども、みなさんの日常生活とそこにおけるさまざまな悩みや葛藤は、家族と密接に関わっています。この授業では、家族を社会的な視角から学ぶことで、家族を相対化して捉えなおし、自ら「家族」について考える力を養うことを目的とします。家族をとりまく社会環境の変容とともに、家族のあり方や家族に対する考え方も変容してきています。家族の歴史や家族に関する理論を学ぶことは、現代における家族を考察するうえで必ず必要となります。家族を考えるためには、社会や人間の関係性についても広い視野をもつことが重要です。本授業は、家族を考えることを通して、人間のあり方そのものについても深く考察する機会になることでしよう。</p> <p>【到達目標】 家族の歴史や家族に関する理論について理解し、図表や資料を的確に読み取ることができる。また、現代社会における家族をめぐる諸問題を把握し、そうした問題が生じてきた背景について分析し、問題の本質を捉えることができる。これらを踏まえて、自分なりの家族へのアプローチ視角を見出すことを到達目標とします。</p> <p>【授業計画】 《理論からみる家族》 <第1回> 家族とは(1) 一家族の定義・類型 <第2回> 家族とは(2) 一家族をみるさまざまな視座 <第3回> 家族の機能と構造一家族の役割・社会的ネットワーク 《歴史・ライフコースからみる家族》 <第4回> 家族の歴史(1) 一家父長制度とイエ制度 <第5回> 家族の歴史(2) 一高度経済成長とライフスタイルの変容 <第6回> 近代社会と家族(1) 一近代家族の成立 <第7回> 近代社会と家族(2) 一親子関係の変容 <第8回> 結婚と家族(1) 一配偶者選択の今と昔 <第9回> 結婚と家族(2) 一晩婚化・非婚化・国際結婚・離婚 《現代社会の諸問題からみる家族》 <第10回> ジェンダーと家族一夫婦・家族関係と女性の労働 <第11回> 家族と病理一DV(ドメスティック・バイオレンス)・虐待 <第12回> 現代家族のゆくえ(1) 一少子化をめぐる諸問題と家族 <第13回> 現代家族のゆくえ(2) 一高齢化をめぐる諸問題と家族 <第14回> 現代家族のゆくえ(3) 一格差をめぐる諸問題と家族 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心におこなうが、テレビドラマや映画などの視聴覚教材も適宜用いる。講義ではプリントを配布するが、板書もするので自分なりのノートをつくること望ましい。また、授業で提示したテーマに関する感想や意見を書いてもらう小レポートを4～5回程度実施するので、必ず提出すること。</p>	
専門科目 基幹科目 社会	国際理解	<p>【概要】 グローバル時代の現代のビジネスでは、国内外の企業において、さまざまな国と文化出身の従業員や顧客に対応する異文化経営が必要である。それには各国の政治的・社会的・文化的事情に関する知識とそれに対応する能力が必要である。本授業では、異文化経営の基礎知識として世界の概況を地域別に学んだ後に、日本と関連のある世界の国々の事情を地域に分けて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日本と関係の深い国々の事情を学習し、実践に役立てる。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 世界の概況 <第2回> 世界の概況 <第3回> 北米(1) <第4回> 北米(2) <第5回> 北米(3) <第6回> アジア(1) <第7回> アジア(2) <第8回> アジア(3) <第9回> ヨーロッパ: EUについて(1) <第10回> ヨーロッパ: EUについて(2) <第11回> ヨーロッパ: EUについて(3) <第12回> ヨーロッパ: イギリス(1) <第13回> ヨーロッパ: イギリス(2) <第14回> ヨーロッパ: イギリス(3) <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心に行う。</p>	
専門科目 基幹科目 社会	異文化コミュニケーション	<p>【概要】 文化の違いが対人コミュニケーションに及ぼす影響を理解する。</p> <p>【到達目標】 1) 自己と異なる文化への理解を深める。 2) 異なる文化を知ることにより自己をより豊かにする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 異文化コミュニケーションの基礎概念 <第2回> イントロダクション: 文化とは <第3回> 異文化コミュニケーションの目的 <第4回> 自己のアイデンティティと他との関係 <第5回> 言語コミュニケーション <第6回> 価値観 <第7回> 私の異文化コミュニケーション研究紹介(1) 「異文化体験アンケート」紹介 <第8回> グループ間の異文化コミュニケーション <第9回> 非言語コミュニケーション <第10回> 社会的アイデンティティ <第11回> 偏見・自己中心主義 <第12回> グループ間の衝突の解決 <第13回> アイデンティティの変容 <第14回> 文化を超える能力 <第15回> 私の異文化コミュニケーション研究紹介(2) 異文化会話の分析</p> <p>【授業方法】 講義を主体とし、毎回アクションシートにより理解をチェックする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 こころの理解の分野	社会心理学	<p>【概要】社会心理学とは、個人と他者や社会との関係、すなわち社会はどのように形成されていくのか、個人はどのように社会の一員となり、その社会の文化や価値観を習得していくのか、といった問題を科学的に研究する領域である。</p> <p>本年度の講義は、主に「人間関係」をテーマにして展開する。私たちは、明確に意識する意識しないにかかわらず、常に他者からの何らかの影響を受け生活している。また日常生活を営む上でも他者との関係を体験することで、人間関係についての一定の理解に基づいて行動している。他者や社会との関係を抜きにして人間や自己の問題を語ることは困難である。そこでこの講義では、人の知覚、感情、行動が他者との関係でどのように影響されているかを、身近な体験と具体的な実験を通して考察する。</p> <p>【到達目標】個人の行動が広い意味での社会の影響を受けていることを理解する。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉はじめに (心理学と社会心理学、社会心理学における社会の意味) 〈第2回〉人は世界をどう見るのか (対人認知の意味1) 〈第3回〉人は人をどう見るのか (対人認知の研究2) 〈第4回〉人と人とのかかわり方 (対人認知の研究3) 〈第5回〉人はなぜ人を好きになるのか (対人魅力の研究1) 〈第6回〉人はなぜ人を好きになるのか (対人魅力の研究2) 〈第7回〉女性と男性 (恋愛行動における性差の研究) 〈第8回〉人は人をどう説得するのか (態度変容の研究1) 〈第9回〉人は人をどう説得するのか (態度変容の研究2) 〈第10回〉人助けと攻撃 (援助・攻撃行動の意味) 〈第11回〉人はなぜ人を助けるのか (援助行動の研究1) 〈第12回〉人はなぜ人を助けるのか (援助行動の研究2) 〈第13回〉人はなぜ人を傷つけるのか (攻撃行動の研究1) 〈第14回〉人はなぜ人を傷つけるのか (攻撃行動の研究2) 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】授業方法は講義形式で行うが、受講生諸君に身近で具体的な問題を例に挙げてなるべく一方通行的な講義に終わらないようにしたい。自分の身の回りの出来事を意識しながら受講すれば内容が理解しやすいので、そうした態度で望んでほしい。この講義は複数開講されるので受講人数によっては履修を制限する場合がある。</p>
専門科目	展開応用科目 こころの理解の分野	カウンセリング	<p>【概要】自分自身や他者との間において起こっていることに気づくとともに、保育や教育現場で心理的援助を行う際に身につけておかなければならない基本的な姿勢・技法を習得することを目指すものである。現代社会が抱える問題を背景に、子どもやその家族も生きづらさを感じることが増えているといえよう。このような適応上の問題に対応する手だての一つとして、カウンセリングの有用性が広く認識されてきている。子どもやその家族を対象とする心理的援助の方法として、カウンセリングの技法として来談者中心療法・行動療法の理論と基本的技法を講義や演習を通して学ぶ。さらに、予防的カウンセリングについても学習する。</p> <p>【到達目標】①来談者中心療法および認知行動療法の基本的理論を習得する。②来談者中心療法の基本的技法を演習し、身につける ③主にSSTを演習し、現場で実践できるようにする。</p> <p>【授業計画】〈1週〉来談者カウンセリングの考え方と技法 〈2週〉：紙上応答訓練 〈3週〉～〈5週〉：技法の演習 〈6週〉不安と条件付け理論 〈7週〉行動の成り立ち 〈8週〉行動変容法 〈9週〉不適切行動の変容 〈10週〉認知療法の考え方と不安 〈11週〉事例から学ぶ①自閉症児の行動変容 〈12週〉事例から学ぶ②不登校児の認知行動療法 〈13週〉構成的エンカウンターグループ 〈14週〉SSTを知ろう 〈15週〉SSTを実践してみよう</p> <p>【授業方法】講義を主体とし、必要に応じて演習を組み合わせる</p>
専門科目	展開応用科目 こころの理解の分野	子ども理解	<p>【概要】子どもを理解するとき、その時々印象や感覚のみで判断することはできない。そこで、この授業では、子ども理解の助けとなる、発達についての基礎的な理論と子ども理解の方法を提供する。そして、子ども理解の方法としては、臨床心理学的アセスメントと発達相談を取り上げ、その実際について学ぶ。臨床心理学的アセスメントについては、乳幼児から児童期に適用される主な個別発達検査・知能検査・描画検査を取り上げ、概説すると共に実習も取り入れる。さらに、発達相談の事例を学びその実際に触れる。</p> <p>【到達目標】①子ども理解の助けとなる、発達についての基礎的な理論について理解する。②子ども理解の方法としての臨床心理学的アセスメント (発達検査・知能検査・描画検査) と発達相談について学ぶ。</p> <p>【授業計画】〈1週〉 子ども理解の理論その1 -臨床心理学のこころの考え方- とらえ方総論- 〈2週〉 子ども理解の理論その2 -心理社会的発達理論 (エリクソン) ①- 〈3週〉 子ども理解の理論その3 -心理社会的発達理論 (エリクソン) ②- 〈4週〉 子ども理解の理論その4 -心理社会的発達理論 (エリクソン) ③- 〈5週〉 子ども理解の理論その5 -心理社会的発達理論 (マラー、ボウルビー) - 〈6週〉 子ども理解の方法 -投影法と質問紙法、バウムテストの体験学習- 〈7週〉 子どもの心理的問題 〈8週〉 遊戯療法を知ろう -遊戯療法について- 〈9週〉 遊戯療法の事例を学ぶ1 〈10週〉 遊戯療法の事例を学ぶ2 〈11週〉 子ども理解の理論その6 -行動心理学の立場から レスポンドント学習理論- 〈12週〉 子ども理解の理論その7 -行動心理学の立場から オペラント学習理論- 〈13週〉 発達とその問題理解・早期発見・早期療育 -1歳6ヶ月児検診・3歳児検診、就学相談- 〈14週〉 発達検査その1 -発達検査概説・遠城寺式乳幼児分析的発達検査・新版K式発達検査- 〈15週〉 発達検査その2 -田中ビネー式知能検査・WISC III-</p> <p>【授業方法】講義と検査の実習を組み合わせる。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 こころの理解の分野	精神保健	<p>【概要】 現代社会の問題点を視野に入れて、自らの精神健康に留意しつつ、ストレス社会の中でよく生きるために必要な知識を少しでも身につけることを目指す。</p> <p>【到達目標】 心の健康や心の問題について理解する</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞ 心の健康とは ＜第2回＞ 心の問題について ＜第3回＞ 心の発達1 ＜第4回＞ 心の発達2 ＜第5回＞ 心の発達3 ＜第6回＞ 神経症について ＜第7回＞ 人格障害について ＜第8回＞ 精神病について ＜第9回＞ 心の治療1 ＜第10回＞ 心の治療2 ＜第11回＞ 心のアセスメント1 ＜第12回＞ 心のアセスメント2 ＜第13回＞ 心理的適応について ＜第14回＞ 家族と心の健康 ＜第15回＞ 地域社会と心の健康</p> <p>【授業方法】 一方通行ではなく、学生の見解を求めて相互交流をはかりながら、体験的な学習も取り入れて知的レベルのみではない理解を目指す。</p>	
専門科目 展開応用科目 こころの理解の分野	発達臨床心理学	<p>【概要】生まれてから死に至るまで、人の発達は決して順調に進行するわけではなく、急激な変化を特徴とする現代社会にあっては、私たち自身もあるいは身近な人に関してもその発達過程で心理的問題に遭遇する機会が増えている。このような状況においては、心身の発達過程に関する研究領域と心理的問題の理解と解決の援助を行う臨床心理学とは独立性を保ちつつ相互に交流し合うことが求められる。発達臨床心理学は発達心理学と臨床心理学が協働する学問として、発達過程において生じる様々な心理的問題や課題を発達心理学と臨床心理学の理論から理解し、さらにその対応について概観する。</p> <p>【到達目標】 ①発達過程において生じる様々な心理的問題や課題を知識として習得する ②それらの問題や課題への対応について基礎的な内容を身につける</p> <p>【授業計画】 <1週>胎児期：出生前診断について考える <2週>乳児期：情動調律と母子相互交流 <3週>幼児期：虐待と心理的影響・心理的援助 <4週>学童期・思春期：不登校 <5週>発達障害①：発達障害の概念 <6週>発達障害②：広汎性発達障害 <7週>発達障害③：学習障害・注意欠陥多動障害 <8週>運動障害 <9週>視覚障害・聴覚障害 <10週>青年期：アイデンティティの危機 <11週>成人期：中年期の危機 <12週>老年期：認知症 <13週>対象理解と援助のための臨床心理学的アプローチ①緘黙児の遊戯療法 <14週>対象理解と援助のための臨床心理学的アプローチ②虐待を受けた子どもの遊戯療法 <15週>特別支援教育</p> <p>【授業方法】講義を基本とし、視聴覚教材も使用する。</p>	
専門科目 展開応用科目 こころの理解の分野	保育心理学演習	<p>【概要】保育実践において必要な発達心理学全般の基礎概念、知見について学ぶ。各発達段階の子どもの心理的特徴について理解し、正常な発達に加え不適応的な発達の諸相としての発達障害について理解し、それに対する援助について学ぶ。特に、子どもの遊びと学び、子どもの思考の発達、身体的発達、言語発達、親子関係や仲間関係の対人関係について学び、現代社会における保育の課題についての意識を高め、それへの対応を検討していく。</p> <p>【到達目標】 1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。 3. 保育における発達援助について学ぶ。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞子ども理解における発達の把握 ＜第2回＞個人差や発達過程に応じた保育 ＜第3回＞身体感覚を伴う多様な経験と環境の相互作用 ＜第4回＞環境としての保育者と子どもの発達 ＜第5回＞子ども相互の関わりと関係作りおよび自己主張と自己統制 ＜第6回＞子ども集団と保育の環境 ＜第7回＞子どもの生活と遊び ＜第8回＞子どもの遊びと学び ＜第9回＞生涯にわたる生きる力の基礎を培う ＜第10回＞基本的生活習慣の獲得と発達援助 ＜第11回＞自己の主体性の形成と発達援助 ＜第12回＞発達課題に応じた援助やかかわり ＜第13回＞発達の連続性と就学への支援 ＜第14回＞発達援助における協働 ＜第15回＞現代社会における子どもの発達と保育の課題</p> <p>【授業方法】授業は演習形式で行われる。現代保育において重要な子ども理解と主体性を育てる保育の在り方を切実な課題意識を持ちながら深めていく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目	ヘルスカウンセリングⅠ	<p>【概要】IT時代の訪れで、コミュニケーションのあり方やこどもの遊び、生活様式が急速に変化してきている。それとともに、対人関係の病理や不登校、家庭内暴力など家庭・学校での問題や精神病理による企業内でのメンタルヘルスなどの問題が山積みされている。ここでは心の健康の援助をするのに役立つカウンセリングの理論と技術、問題行動への理解と援助、専門家との連携を学ぶ。またエンカウンター・グループを体験し、心理的安全感のある共感的で信頼感のある集団的雰囲気をつくる能力を養うとともに、行動変容を支援するヘルスカウンセリングの方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ヘルスカウンセリングを知る。 ② 問題行動と必要な援助、連携がわかる。 ③ 自己理解を深め、他者理解に努める。 <p>【授業計画】</p> <p><第1回> ヘルスカウンセリングとは <第2回> 自己理解のためのチェックリストと遺伝的気質ガイダンス <第3回> カウンセリングと理論と技術(リスニング・スキルとブロッキング) <第4回> 健康問題行動の理解(ストレスと疾病、問題行動) <第5回> 健康問題行動への対応(1) SAT自己イメージ連想法 <第6回> 健康問題行動への対応(2) SAT未来自己イメージ連想法 <第7回> 健康問題行動への対応(3) SAT感情の明確化 <第8回> エンカウンター・グループ(1) <第9回> エンカウンター・グループ(2) <第10回> エンカウンター・グループ(3) <第11回> エンカウンター・グループ(4) <第12回> エンカウンター・グループ(5) <第13回> エンカウンター・グループ(6) <第14回> エンカウンター・グループ(7) <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】講義・演習形式とする。</p>	
専門科目 展開応用科目	ヘルスカウンセリングⅡ	<p>【概要】IT時代の訪れで、コミュニケーションのあり方やこどもの遊び、生活様式が急速に変化してきている。それとともに、対人関係の病理や不登校、家庭内暴力など家庭・学校での問題や精神病理による企業内でのメンタルヘルスなどの問題が山積みされている。ここでは心の健康の援助をするのに役立つカウンセリングの理論と技術、問題行動への理解と援助、専門家との連携を学ぶ。またエンカウンター・グループを体験し、心理的安全感のある共感的で信頼感のある集団的雰囲気をつくる能力を養うとともに、行動変容を支援するヘルスカウンセリングの方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①セルフコントロールの方法を知る。 ②問題行動と必要な援助がわかる。 ③問題行動や相談内容から、望ましい対応について考えることができる。 <p>【授業計画】</p> <p><第1回> 自己理解のためのチェックリストと遺伝的気質ガイダンス <第2回> リスニング・スキル、イメージスクリプト <第3回> SAT宇宙自己イメージ連想法 <第4回> SAT感情の明確化(リスニング・スキル) <第5回> 具体策の小目標化(自己一致、コーチング) <第6回> 対人関係改善尺度 <第7回> SAT心傷風景連想法、癒し技法① <第8回> SAT心傷風景連想法、癒し技法② <第9回> SAT再養育化イメージ法 <第10回> 逐語記録の検討① <第11回> 逐語記録の検討② <第12回> SAT進化適及イメージ連想法 <第13回> ソーシャル・スキル・トレーニング <第14回> リラクゼーション・トレーニング <第15回> まとめワークショップ</p> <p>【授業方法】講義・演習形式とする。</p>	
専門科目 展開応用科目	健康相談活動の理論及び方法	<p>【概要】近年児童生徒をめぐる社会問題は、いじめ、自殺、児童虐待、不登校、摂食障害、心身症等様々であるが、これらの問題の初期対応を養護教諭が担うことが少なくない。この講義では、養護教諭としての健康相談活動(ヘルスカウンセリング)能力を身につけることを目的に、ロールプレイング、逐語記録の作成、事例検討などを通して学習を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 相談の基本であるリスニング・スキルを身につけ、相談者の気持ちを理解する。 ② ヘルスアセスメントにより、心因性の訴えであるか予測ができる。 ③ 相談内容から望ましい対応、事後措置について考えることができる。 <p>【授業計画】 <第1回> 健康相談活動とは：健康相談、教育相談との違い <第2回> 健康相談活動の進め方と連携 <第3回> ヘルスアセスメントの実際と気質ガイダンス <第4回> リスニング・スキルとブロッキング <第5回> SAT感情の明確化 <第6回> 逐語記録の作成① <第7回> 逐語記録の検討(傾聴とブロッキング) <第8回> 具体策の小目標化とポジティブ・フィードバック <第9回> 逐語記録の作成② <第10回> 逐語記録の検討②(共感・反映・自己一致) <第11回> 健康相談活動の実際(事例ロール) <第12回> 逐語記録の作成③(健康相談活動) <第13回> 事例検討会の実際(ロールプレイング) <第14回> 事例検討会の課題と学び <第15回> 災害時の心理的ケア、まとめ</p> <p>【授業方法】講義・演習形式とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目	こころの理解の分野 教育相談(幼・小)	<p>【概要】幼稚園・小学校の子どもたちの心理的・発達的問題をとりあげ、それらの理解と教育相談的援助について具体的な例を挙げて論じ、その対応の基本を学習する。また、子どもの問題は子どもを取り巻く環境とのかかわりが特に深い。ここでいう環境とは担任や幼稚園・学校・地域、同級生、保護者も含まれる。また、必要に応じて関係機関との連携も欠かせない。これらのことを念頭に置いた教育相談活動が求められる。このことも含めて、教育相談活動のあり方や方法について、実践に結びつくよう学習を深める。</p> <p>【到達目標】①幼児期・児童期の心理的・発達的問題についての知識を身につける ②教育相談の実際について事例から学ぶ ③予防的観点から、日常的教育活動に教育相談的な援助をどのように活かすかを習得する。</p> <p>【授業計画】<1週>教育相談の概念と意義 <2週>子どもの心理的問題と要因 <3週>心理的問題の理解と対応① 神経性習癖 <4週>心理的問題の理解と対応② 登園渋り・不登校 <5週>心理的問題の理解と対応③ 緘黙 <6週>心理的問題の理解と対応④ 学級崩壊 <7週>心理的問題の理解と対応⑤ いじめ <8週>保護者支援 <9週>気になる子ども <10週>扱いにくさを感じるとき <11週>発達障害とは <12週>発達障害児への対応のポイント <13週>保護者理解と支援 <14週>相談のあり方 <15週>チームで対応、他機関連携</p> <p>【授業方法】講義形式を主とする。必要に応じて、演習を取り入れることがある。</p>	
専門科目 展開応用科目	こころの理解の分野 教育相談(カウンセリングを含む)(中・高・養)	<p>【概要】学校現場では児童生徒の心理的・発達的問題が顕在化して久しい。従来から指摘されている不登校、学力不足、友人・教師関係の問題、非行、特別支援など、教育相談の対象は幅広い。対象の幅広さと相まって、相談の方法も問題に応じたアプローチが必要となるが、相談の基本的技法としてカウンセリング技法は必要不可欠なアプローチ法である。そこで、方法論としてカウンセリングを中核に据え、問題理解の仕方と方針の立て方、それらの基づいた相談の実際を学ぶ。また、軽度発達障害を有する児童・生徒に対する特別支援教育のあり方については、その理解と共に行動変容法や環境再構成に基づいたアプローチ法を紹介し実践に結びつける。さらに、忘れてはならないことは、問題の予防である。この点についても、開発的カウンセリングおよび保健室をはじめとする教職員や保護者との連携の観点から論じる。</p> <p>【到達目標】教育相談の対象となる学校教育現場の諸問題について理解を深め、その方法としてのカウンセリング技法の習得を目指す。併せて、軽度発達障害児の特別支援教育についても学習し、障害理解と対応について基礎的知識を習得する。また、心理的問題の予防的な視点も培う。</p> <p>【授業計画】<第1回> 教育相談の概念と意義 <第2回> 児童・生徒の問題理解と対応 <第3回> 不登校の理解と対応 <第4回> いじめの理解と対応 <第5回> 学級崩壊の理解と対応 <第6回> 反社会的問題行動の理解と対応 <第7回> 神経症の問題の理解と対応 <第8回> 教育相談活動の基礎的技法 -カウンセリングを学ぶ- <第9回> 「聴くこと」を学ぶ -ロールプレイ- <第10回> 特別な支援が必要な児童生徒の理解 -軽度発達障害- <第11回> 特別支援教育のあり方と方法 -行動変容法と環境構成- <第12回> 保護者に対する援助 <第13回> 問題の予防と校内の協力体制 <第14回> 他機関との連携と教師のメンタルヘルス <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】講義形式および演習形式。演習には真面目に積極的に取り組むこと。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 健康教育の分野 医学概論	<p>【概要】 医学は、病気の治療・予防のみならず、健康の増進、福祉・介護をも含む幅広い学問であり、医療はその実践体系である。現代社会において医学が関わる分野は、多岐にわたり複雑化し、ヒトの一生全てに関わるといっても過言ではない。昨今の生命科学分野における目覚ましい発展は、医療における診断・治療の飛躍的な向上をもたらし、さらに遺伝子治療や再生医療の具現化を果たそうとしているが、その一方で、子孫の自由な選択や、臓器移植、安楽死など様々な倫理的問題が生じてきている。「医学一般」においては、医学・医療の社会的意義、疾病のなり立ち、健康との対比、心と身の関連、疾病一般と社会・生活習慣との関連等についての基本的な知識を修得することによって、医学・医療について自らの倫理観、人生観をもって深く考えることの出来る能力を身につける。</p> <p>【到達目標】 医学、医療制度の概要や基礎を学んだ上で、生活習慣病、悪性腫瘍、循環器、呼吸器、神経、代謝疾患、感染症などの病態と原因を理解する。基本的な疾病を含む医学知識を学んだ上で、病気の予防や健康の増進、医療に関わる倫理的問題について自らの意見を携え、考察できるようにする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 オリエンテーション、医学、医療について 〈第2回〉 医学・医療の変遷と疾病構造の変化 〈第3回〉 医療職とチーム医療、日本の医療制度 〈第4回〉 健康障害(疾病)とその原因 〈第5回〉 病気の診断と検査法 〈第6回〉 生活習慣と病因、内臓肥満症候群 〈第7回〉 生活習慣病：高血圧、心疾患、脳血管疾患 〈第8回〉 生活習慣病：糖尿病、高脂血症、痛風 〈第9回〉 悪性腫瘍：総論 〈第10回〉 悪性腫瘍：各論 〈第11回〉 消化器疾患、肝・胆道疾患、呼吸器疾患 〈第12回〉 感染症、アレルギー疾患、自己免疫疾患 〈第13回〉 女性の病気、遺伝子異常による疾患 〈第14回〉 こころと病気、認知症、損傷の種類と病態 〈第15回〉 各種疾患の予防と治療について対処法と応用</p> <p>【授業方法】 教科書を用いて、講義主体に進める。適宜、医学関連のビデオを供覧し、毎時間授業内容等についての小テスト等を行う。</p>	
専門科目	展開応用科目 健康教育の分野 健康管理論	<p>【概要】健康は、人間の幸福にとって最も重要なことの一つであり、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件である。国民一人ひとりが毎日の生活を健康に暮らしていくため、健康の意義、健康の指針、疾病の現状、予防法および健康づくりの実際について学習する。</p> <p>【到達目標】 日常生活において、自らの健康を管理し、運動、栄養、休養を中心とした健康増進の実践を習慣化する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 健康とは 〈第2回〉 健康の指標 〈第3回〉 余命、寿命、死因 〈第4回〉 健康づくり施策 〈第5回〉 疾病の予防法 〈第6回〉 運動基準運動指針 〈第7回〉 生活習慣病と運動疫学 〈第8回〉 健康の概念、医事法規。 〈第9回〉 生活習慣病概論 〈第10回〉 介護予防概論 〈第11回〉 健康づくりの運動、健康の概念、健康管理。 〈第12回〉 生活習慣病とその予防、メディカルチェック 〈第13回〉 地域・学校の健康管理と精神保健、歯科保健 〈第14回〉 職場の健康管理 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 授業は、健康管理論を系統的にまとめた適切な教科書を基本にして、解説内容、まとめ等を板書しながら講義の形式で進行する。毎週の授業において、各テーマが持つ意義、目的、解説を習得していく。毎週授業の最後に授業内容に関する課題を2題程小テストの形で提示するので、各自それに対する解答を書いて必ず提出する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目	健康教育の分野 予防医学	<p>【概要】学校、社会、家庭等において、養護教育、健康管理、衛生管理を行う上で、予防的観点からこれらを捉えて行くことが重要である。例えば、感染症や伝染病の早期発見と伝染の予防、疾病発生時の処置と対策、生活習慣病の予防等について適格な判断が出来なければならない。本授業では、このための基本的な予防医学の知識を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 学校や職場、さらには家庭等に発生する各種の疾病の概要と原因、発生した場合の対処と予防教育の基本を理解するとともに、養護教諭、健康管理士、健康運動指導士、衛生管理者等の役割を把握する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 予防医学の意義と役割について学ぶ。 <第2回> 感染症の発生と予防方法の総論について学習する。<第3回> 学校における伝染病対策の概要を理解する。<第4回> 免疫のしくみを学習し、疫学調査の実際について学ぶ。<第5回> 第1種学校伝染病の実態と予防方法について学習する。<第6回> 第2種学校伝染病の実態と予防方法について学習する。<第7回> 第3種学校伝染病の実態と予防方法について学習する。<第8回> その他の学校伝染病の実態と予防方法を学ぶ。<第9回> 性感染症および寄生虫症の実際について学習し、予防方法を把握する。<第10回> 食中毒の実際について学習し、その予防方法を理解する。<第11回> アレルギー疾患の実態について学習し、予防方法を把握する。<第12回> 生活習慣病とは何かを理解し、その予防方法について学ぶ。<第13回> メタボリックシンドロームとは何かについて理解し、予防と改善の方法を学ぶ。<第14回> 日本人の死亡原因上位3位までの疾患について学び、その予防方法を把握する。<第15回> 予防医学の観点から養護教諭、健康管理士等の職業人の役割を総括的に理解する。</p> <p>【授業方法】 教科書を用いて授業をすすめ、毎時間の最後に授業内容の課題について小テストを行う。</p>	
専門科目 展開応用科目	健康教育の分野 病理学	<p>【概要】「疾病の成因、病態、診断、治療」を総合的、体系的に理解するため、疾病はどのような原因でおきるか、疾病にはどのような種類があり、どのように発症し、どのような転帰をとるかなどを学び、疾病の概要、診断・治療そして予防、健康の管理維持についての基礎知識を習得する事を目的とする。病理学の知識は、疾病を論理的に理解するために必須であり、医療スタッフを目指す人たちは勿論のこと、広く企業や研究所等においても医学・医療に関する知識を備えた専門職（管理栄養士）が求められている現在、避けては通れない重要なものである。膨大な医学・病理学の知識を、ごく短時間で習得することは大変困難であり、講義内容を理解することに加え、自学自習の態度を培っていくことが肝要である。また、「人体の構造と機能」を学ぶ解剖学、生理学、生化学や臨床栄養学を十分理解しておくことが、医学・病理学を学ぶ上で必須であることを銘記しておいて欲しい。</p> <p>【到達目標】 ヒトの各種臓器（消化器、循環器、呼吸器、神経系、内分泌系、泌尿器・生殖器、運動器、皮膚、血液、感覚器など）における疾患の原因、発症、経過、転帰を理解する。「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の分野に関して、必要十分な知識を身につけ、医療スタッフ、企業の専門職として十二分に活躍できる下地を固める。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 疾患診断の概要 <第2回> 疾患治療の概要 <第3回> 疾患による細胞・組織の変化（1） <第4回> 疾患による細胞・組織の変化（2） <第5回> 栄養と代謝、代謝性疾患（1） <第6回> 栄養と代謝、代謝性疾患（2） <第7回> 消化器系疾患 <第8回> 肝臓・膵臓疾患 <第9回> 循環器疾患 <第10回> 腎・尿路系、内分泌系疾患 <第11回> 神経・精神系疾患、呼吸器系疾患 <第12回> 血液・リンパ系、運動器系疾患 <第13回> 感染症、免疫疾患 <第14回> 悪性腫瘍 総論 <第15回> 悪性腫瘍 各論</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行う。医学、栄養学に関連するビデオの供覧も行う。また、国家試験対策用の問題、小テストも適宜行う。</p>	
専門科目 展開応用科目	健康教育の分野 衛生学	<p>【概要】衛生と云う字が、「いのちをまもる」と表されているように、衛生学は健康の科学といわれる。</p> <p>わたくしたちは、どうすれば病気に罹らないで健康でいられるのか、わたくしたちが生活している周りの身近な環境を視る目線を養い、基礎的な人体生理学の知識、また、環境保全のための処理・対策の科学的基礎的な知識、また、労働衛生について衛生管理の基礎的な知識などを考え、学ぶ場を与えたい。</p> <p>【到達目標】 衛生学は人の健康の科学という分野である。人の身近な生活環境と健康、労働環境の衛生管理、などの基礎的な知識を学び、考える視点を養うこと。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 衛生学とは何か-健康の科学 <第2回> 内分泌かく乱化学物質とエストロゲン <第3回> 河川・湖沼・沿岸海域の水環境の化学 <第4回> 生物をとりまく環境・生態学について <第5回> 大気汚染の化学物質 <第6回> 地球環境問題と炭酸ガス <第7回> のみ水の問題と水質管理 <第8回> 身の周りの環境汚染物質 <第9回> 労働衛生と作業健康管理 <第10回> 環境工学と処理・対策 <第11回> 疾病予防と感染症について <第12回> 発がんと食品衛生について <第13回> JAS法と食品衛生法の視点 <第14回> 衛生学演習問題とまとめ <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 プリントによるレジュメを配布して、講義する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	公衆衛生学	<p>【概要】公衆衛生学とは、人間集団を対象に、社会の組織的な努力を通じて、健康の保持・増進、寿命の延長を図る実践科学である。社会や環境のあり方は、我々の健康に大きく影響しており、健康を保持増進するために社会、環境がどうあるべきか理解することは極めて重要である。また、集団における健康問題の把握とその解決策を実践するためには、公衆衛生学の知識が必要不可欠である。本講義は、管理栄養士国家試験の出題基準に沿って進めるが、本講義をきっかけに健康に関わる社会全般の事象に興味を持ってもらいたい。</p> <p>【到達目標】1) 環境、社会と健康との関わり、2) 健康増進や疾病予防の考え方や実践方法、3) 保健・医療・福祉・介護システムなどを中心に理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉公衆衛生の意義 〈第2回〉衛生統計と疫学 〈第3回〉検(健)診の役割とスクリーニング理論 〈第4回〉わが国に医療保険制度と衛生関連法規 〈第5回〉環境と健康 I 〈第6回〉環境と健康 II 〈第7回〉生活習慣と健康 〈第8回〉感染症予防 〈第9回〉老人保健 〈第10回〉産業保健 I 〈第11回〉産業保健 II 〈第12回〉母子保健 〈第13回〉学校保健 〈第14回〉国際保健 〈第15回〉衛生法規</p> <p>【授業方法】指定教科書に従って進める。</p>	
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	微生物学	<p>【概要】微生物は人間生活のあらゆる方面で有効に利用されている一方、微生物による病気は人類にとって最も大きな脅威であった。抗生物質、化学療法の発達に伴って微生物学の重要性が低下したように思われた近年、新興感染症、薬剤耐性菌の出現により、感染症に対する概念は大きく変化した。SARSや腸管出血性大腸菌感染症(O-157)、鳥インフルエンザなどは新たな脅威となっている。我々の生活環境には無数の微生物群が存在する。人と微生物や微生物由来の毒性物質との相互関係について理解するとともに、病原微生物の感染から発症、感染防止・免疫による防御の機構を理解する。</p> <p>【到達目標】微生物の基本的な構造・代謝に基づき、微生物と食中毒との関連、感染症の病因・概要について学習することにより、ヒトと微生物の利害両面における関係を認識し、管理栄養士、養護・看護・保健教諭、食品衛生管理者等に必要基礎知識を習得し、健康な生活を維持する手だてを養うことを目標とする。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉微生物学の領域と歴史 〈第2回〉細菌の基本的形態と構造、代謝と増殖 〈第3回〉ウイルスの基本的形態と構造 〈第4回〉真菌の基本的形態と構造 〈第5回〉免疫と生体防御-自然免疫と獲得免疫 〈第6回〉体液性免疫と細胞性免疫 〈第7回〉抗原・抗体・補体 〈第8回〉アレルギー 〈第9回〉消毒と滅菌：物理的・化学的作用による殺菌法 〈第10回〉感染症の成立成因 〈第11回〉主要感染症各論1（細菌感染症-消化器系） 〈第12回〉主要感染症各論2（細菌感染症-呼吸器系） 〈第13回〉主要感染症各論3（皮膚・泌尿器系、血液・神経系） 〈第14回〉主要感染症各論4（真菌・ウイルス感染症） 〈第15回〉化学療法、微生物の利用-発酵食品、バイオテクノロジー</p> <p>【授業方法】教科書に準じた内容とするが、スライドなどを用いるとともに毎週授業の最後に授業内容についての小テストを実施する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 健康教育の分野 免疫学	<p>【概要】免疫と言えば予防接種が思い出されるように、免疫はわれわれの体を細菌やウイルスの感染から護る大切な働きをする。また、体内で日常的に発生するがん細胞を排除する機構が存在する。免疫なくして我々の生存はあり得ない。一方で、免疫システムが花粉、家の中のほこり、食品成分などに過敏な反応をする結果起きるアレルギーや、自分の組織に対して障害をもたらすような自己免疫疾患がある。さらに、エイズのように免疫システムそのものが正しく働かなくなる病気もある。このように免疫がとても身近なものであり、免疫の知識を得ることにより、予防接種の原理やアレルギー疾患の予防・治療を理解し、健康の維持増進に役立てることができる。それ故に、免疫学の授業では、健康関連の職業や学校での保健活動に関わる者にとって大切な事柄を学習する。このような免疫の実用的な側面に加えて、免疫システムがどのようにして自己・非自己を識別するのかと言う免疫学の基本についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 次の問題に答えられるようにする。免疫にどのような細胞に係るか。抗体の構造と働きは何か。獲得免疫と自然免疫の違いは何か。無数の抗原に対して免疫系が応答できるのはどうしてか。T細胞とB細胞の役割は何か。化膿菌とウイルスに対する生体防御はどのようなものか。アレルギーはどのように分類されるか。自己免疫疾患と免疫不全症はどのようにして起きるか。臓器移植が難しいのはなぜか。腫瘍細胞はどのようにして排除されるか。 新型インフルエンザ、肝炎、エイズはどのようにして発病するのか。等について説明できるようにする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 免疫とは(免疫学の歴史をふり返って) <第2回> 抗原と抗体(何が抗原になるか。抗体の構造と機能および種類)<第3回> 補体(補体とは何か。補体の活性化機構と働き)<第4回> 免疫を担当する細胞(種類、存在場所、機能)<第5回> B細胞の分化(無数の抗原に対する抗体がどうして作られるか。)<第6回> T細胞の分化(胸腺における分化、Th1とTh2への分化)<第7回> 自然免疫(どのような細胞や分子が関与するか。)<第8回> 化膿菌に対する生体防御(好中球の活躍と抗体産生)<第9回> ウイルスに対する生体防御(キラーT細胞の活躍)<第10回> I型アレルギー(発症のプロセスと疾患)<第11回> II、IIIおよびIV型アレルギー(発症のプロセスと疾患)<第12回> 自己免疫疾患(自己に対する免疫寛容、疾患)<第13回> 免疫不全(発症のプロセスと疾患)<第14回> 移植免疫と腫瘍免疫(自己・非自己の識別、免疫監視機構)<第15回> 新型インフルエンザ、A・B・C型肝炎、エイズなどウイルス性感染症の免疫について(総括)</p> <p>【授業方法】 教科書を使用して系統的に講義を行う。毎時間の最後に課題を2題ずつ出して小テストをする。</p>	
専門科目	展開応用科目 健康教育の分野 薬理概論	<p>【概要】熱がでる、頭が痛い、食欲がない、下痢や便秘をするなどの症状がなぜ起こるのか、その仕組みを知り、その意味づけを生理学的に正しく理解することは薬を使用する上で極めて重要なことである。薬は、使い方によってプラスの面と同時にマイナスの面も現れるため、正しく薬を理解し、意義づけなければならない。本講義では、薬が生体のどこで、どのような仕組みで作用を現すかについて、生理学的・薬理学的見地から口述するとともに、正しい薬の管理の仕方や使い方を学ぶ。</p> <p>また、学習指導要領改訂で、健康の保持増進や疾病の予防の一つとして「医薬品を正しく使用する」ことがあげられた。薬の働き、薬の上手な利用法など薬学の基礎を学び、健康と薬に関する知識を理解する。</p> <p>【到達目標】 学校保健室、教育現場、医療現場、家庭などにおける医薬品を正しく理解し、安全な使用法と保管法を習得する。同時に、疾病予防や応急処置など「正しい健康管理」の指導ができることを到達目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 薬とは <第2回> 薬はなぜ効くのか(薬の生体内運命) <第3回> 薬の効果に影響を及ぼす因子 <第4回> 自律神経系に作用する薬(その1) <第5回> 自律神経系に作用する薬(その2) <第6回> 消化器系に作用する薬 <第7回> 中枢神経系に作用する薬(その1) <第8回> 中枢神経系に作用する薬(その2) <第9回> 解熱鎮痛薬、抗炎症薬、抗アレルギー薬 <第10回> 循環器系および泌尿器系に作用する薬 <第11回> 治療用および防疫用消毒薬 <第12回> 学校保健室、職場および家庭における薬の管理 <第13回> かしこい薬の飲み方・つきあい方 <第14回> 薬物乱用の危険性(喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育) <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 学内ネットワーク上にリンクした講義資料をパソコンで活用しつつ、ビデオ・DVDなどの視聴覚教材を通して理解を深めながら進める。また、レポート提出や小テストなどで学習の到達度を確認しながら進めたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	看護学	<p>【概要】 看護は元来、傷病者に対していたわりの気持ちを持ち、患っている人が少しでも心身共に楽になるように、その人の日常生活を助けることにあった。時代とともにその社会生活や我々の考え方が変化し、看護に求める課題も異なってきた。ここでは、少子高齢化や国際化、情報化、生命倫理が問われる現代において、健康な生活に密着した看護のあり方について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 1) 看護の歴史を学び、その時代における健康とそれに関わる看護の必要性を知る。 2) 現代社会での健康と看護のあり方を学び、21世紀の健康と看護を考えることができる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉看護の概念-看護とは 〈第2回〉看護の歴史-わが国と外国の歴史的相違 〈第3回〉看護の目的と機能-教育・指導的役割、相談・直接的ケアによる役割、調整的役割 〈第4回〉看護の対象-発達から見た人間の理解 〈第5回〉看護の対象-健康障害のある人の理解、人間の総合的理解 〈第6回〉看護と健康-健康とは 〈第7回〉看護と健康-健康に影響する諸因子 〈第8回〉看護と健康-健康のレベルとその対応 〈第9回〉看護と健康-集団の諸因子とその対応 〈第10回〉看護の専門性と看護倫理-専門職と倫理 〈第11回〉看護の機能する場と役割-保健・医療・福祉システムと看護 〈第12回〉看護サービスの組織化-看護需要の変化と提供システムの組織化 〈第13回〉医療と生命倫理-臓器移植・不妊治療等に対する倫理 〈第14回〉21世紀に求められる医療と看護 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行う。YTR 視聴・討議・レポート提出等。</p>	
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	母子看護学	<p>【概要】母と子は、当然のことながら切り離して考えることはできない。看護の場面でも、妊娠・出産前後の時期はもちろんである。母性としての女性を思春期からとらえること、そして、生まれた子どもが親から自立し始める思春期までを大きな一つの流れの中でとらえることは、互いに深く影響し合う関係ゆえに重要である。</p> <p>本科目では、母子の望ましい健康の在り方を理解するとともに、状況に応じた看護の実際を理解する。</p> <p>【到達目標】母性および小児各期の健康障害の特徴、看護の原則、留意点が理解できる。看護を必要とする対象者を身体的、精神的、社会的側面から理解し、看護者として何が求められているのかについて、専門的に考察しまとめることができる。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉母子看護の目的と役割 〈第2回〉母性としての思春期の特徴と看護 〈第3回〉正常な妊娠の経過と看護 〈第4回〉妊娠の経過に問題のある場合の看護 〈第5回〉正常な分娩の経過と看護 〈第6回〉分娩の経過に問題のある場合の看護 〈第7回〉産褥期の経過と看護 〈第8回〉小児の成長発達と看護 〈第9回〉小児の健康障害と看護 〈第10回〉小児の治療に伴う看護 〈第11回〉小児の主要な症状と看護 〈第12回〉心身障害児の看護 〈第13回〉家族支援 〈第14回〉母子をとりまく社会環境と看護の役割 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】講義を主体に行う。VTR 視聴・討議・レポート提出等。</p>	
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	学校保健	<p>【概要】「学校保健」は「学校における保健教育と保健管理をさす」と規定されている。学校では、教育活動の円滑な実施のために、児童生徒の健康や安全を保持するという保健管理面だけではなく、より健康的な生活を営むために保健教育を積極的に実施していくことが重要である。これらの学校保健活動は、全教職員によって組織的に行われるべきものであるが、養護教諭や保健体育教員は、その中核的な役割を担うことが求められている。本授業では、学校保健活動全般について理解を深めるとともに、具体的な実践方法を体得することを目標としている。</p> <p>【到達目標】本講義では、学校における学校保健の重要性と関係職員の役割を理解し、学校保健の推進役となって学校保健活動を実践できる力を身につけることを目標とする。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉オリエンテーション(講義の進め方・学習方法) 〈第2回〉学校保健の目的と意義、法的な位置づけ 〈第3回〉学校保健安全計画と組織的活動 〈第4回〉子どもの発育・発達 〈第5回〉学校環境衛生の実際 〈第6回〉定期健康診断の計画とすすめ方 〈第7回〉学校感染症に関する理解とその予防 〈第8回〉保健室の機能と役割 〈第9回〉学校における安全管理と危機管理 〈第10回〉保健学習と保健指導 〈第11回〉学校保健に関わる組織活動 〈第12回〉特別支援教育の現状と今後の課題 〈第13回〉学校保健活動の評価 〈第14回〉まとめ 〈第15回〉試験</p> <p>【授業方法】講義及び演習を中心にすすめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	養護実務演習Ⅰ(健康管理)	<p>【概要】養護教諭の行う学校保健活動を法的根拠をもとに学び、養護教諭としての基礎的な知識・技術を身につける。</p> <p>【到達目標】法令を理解した上で、健康管理に関する具体的な活動ができる。</p> <p>【授業計画】<第1回> オリエンテーション/歯科検診実習 <第2回> 学校保健計画・安全計画 <第3回> 保健室経営 <第4回> 健康診断の計画と実践 (1) 測定 <第5回> 健康診断の計画と実践 (2) 検査 <第6回> 健康診断の計画と実践 (3) 検診 <第7回> 健康診断の計画と実践 (4) 就学児・職員 <第8回> 健康診断の記録・書類管理 <第9回> 健康診断の事後措置 (1) 受診の勧め <第10回> 健康診断の事後措置 (2) 慢性疾患の管理指導 <第11回> 学校環境衛生の計画と実践 <第12回> 感染症・食中毒発生時の対応 <第13回> 安全管理と危機管理 <第14回> 救急処置と事故発生時の事後措置 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】講義と演習</p>	
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	養護実務演習Ⅱ(健康教育)	<p>【概要】養護教諭が日常行う職務の背景には、教育的な配慮が求められる。したがって、日々の実践活動が常に健康教育の視点からアプローチできるよう、具体的な手法やスキルを身につけ、トレーニングしておくことは非常に大切である。</p> <p>本授業では演習やロールプレイを通じて、養護教諭として様々な場面で健康教育が実践できる力を育むことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につける。 ・具体的な場面を想定した健康教育の実践をシュミレーションできる。 <p>【授業計画】<第1回>授業オリエンテーション(授業の進め方、学習の方法等について) <第2回>養護教諭の健康観とセルフマネジメント能力 <第3回>保健室におけるコミュニケーション (1) 聴く力 <第4回>保健室におけるコミュニケーション (2) 話す力 <第5回>保健室におけるコミュニケーション (3) 共感する力 <第6回>保健室におけるコミュニケーション (4) 質問力 <第7回>健康教育の具体的実践方法 (1) 保健室 <第8回>健康教育の具体的実践方法 (2) 教室 <第9回>健康教育の具体的実践方法 (3) 屋外 <第10回>けがや病気の手当と健康教育 <第11回>健康診断と健康教育 <第12回>ロールプレイ (1) …個人に対して行う健康教育 <第13回>ロールプレイ (2) …集団に対して行う健康教育 <第14回>ロールプレイ (3) …保護者に対して行う健康教育 <第15回>健康教育の評価</p> <p>【授業方法】演習・ロールプレイ</p>	
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	保健統計学	<p>【概要】学校現場では児童生徒の成長や健康状態を把握するために、健康診断やさまざまな調査を行い、得られた「データ」を考察する。これらのデータを有効に活用するためには、適切な統計処理を行って多角的に検討しなければならない。そうすることによって保健指導や保健学習の資料として、また疾病予防や健康増進などの対策の根拠とすることができる。</p> <p>これまでの学習を踏まえて、本講義では統計学の基礎的知識、データの見方や基本的な統計処理の方法を確認し、データを適切に分析・考察できる能力を身につけることを目標としている。</p> <p>【到達目標】基本的な統計処理の方法を理解して、数量データに適切に応用できることを目的とする。</p> <p>【授業計画】<第1回> 記述統計と推測統計 <第2回> 尺度分類と分布型 <第3回> 横断的調査と縦断的調査 <第4回> グラフの作成と活用 <第5回> 傾向分析 <第6回> 母平均と標本平均の比較 <第7回> 対応のない2つの標本の平均の差の検定 <第8回> 対応のない2つの標本の平均の差の検定 <第9回> カイ自乗検定(その1) <第10回> カイ自乗検定(その2) <第11回> カイ自乗検定(その3) <第12回> ノンパラメトリック <第13回> 一元配置分散分析 <第14回> 回帰分析 <第15回> 重回帰分析・共分散構造分析の考え方</p> <p>【授業方法】各週、講義のうち実際にグラフの作成やデータ処理の計算をし、解釈・考察の文章表現を行う。但し、パソコン処理は既習であるので、それとの重複は避ける予定である。指定された教科書に沿って予習しておくことは望ましいが、むしろ前回の学習内容を繰り返し学び、しっかり理解し、定着させておくことを期待する。授業の中で文献リストを配布する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	救急処置法	<p>【概要】救急処置法に関する知識・技術は日ごろから研鑽を積んでおくことが望まれる。運動中のケガや病気と救急処置（RICE、救急箱）に対応するための基礎的な知識を身をもって体験するとともに、バイタルサインと心肺蘇生、内科的障害（熱中症（熱疲労、熱痙攣、熱射病、過換気症候群）及び整形外科的障害（突き指、骨折、捻挫、頭部外傷）の救急処置の基本と、症状や本人の訴えから想定される傷病と適切な処置について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ① 救急処置の範囲がわかる。 ② 蘇生法に必要なバイタルサインを把握することができる。 ③ 症状から傷病を予想し、望ましい救急処置を考えることができる。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉救急処置とは〈第2回〉傷病者の観察（バイタルサイン）とトリアージ〈第3回〉救急蘇生法（人工呼吸、胸骨圧迫心臓マッサージ）〈第4回〉救急蘇生法（異物除去、AED）〈第5回〉救急蘇生法（幼児、乳児）〈第6回〉止血法、包帯法〈第7回〉固定法、運搬法、保温、連絡通報〈第8回～第9回〉内科的傷病の応急手当（熱中症、胸痛、腹痛、過換気症候群）〈第10回～第11回〉外科的傷病の応急手当（捻挫、骨折、頭部外傷等）〈第12回〉スポーツにおける事故と法的責任〈第13回〉学校管理下における事故と法的責任〈第14回〉教員や指導者の法的責任と判例〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】講義、実習、演習形式とする。</p>	
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	子どもの保健Ⅰ	<p>【概要】急速な高齢化と少子化社会の到来、食文化、食生活の変化を基礎とする小児における生活習慣病の増加などの疾病構造の変化を理解し、対応するため、小児の身体精神発育、栄養、疾患について学び、さらに母子保健事業、児童福祉法などについても知識を深める。</p> <p>【到達目標】小児保健のうち、身近なものについて学び、育児の手助けとなり、また保健・保健体育などの教育において、小児を理解し、健全な子どもの育成のための基礎知識を習得する。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉序一保健・健康・福祉 〈第2回〉疾患構造の変遷—小児に関する統計 〈第3回〉胎児期の疾患 〈第4回〉周産期の疾患 〈第5回〉新生児期・乳幼児期の疾患 〈第6回〉学童期の発育と疾患 〈第7回〉学校における問題1（知的障害、自閉症） 〈第8回〉学校における問題2（ADHD、LD） 〈第9回〉思春期の疾患 〈第10回〉学校感染症と予防接種 〈第11回〉小児心身症1（摂食障害） 〈第12回〉小児心身症2（睡眠異常、呼吸器異常など） 〈第13回〉チック、PTSD 〈第14回〉児童虐待（被虐待児童症候群、代理ミュンヒハウゼン症候群） 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】プリントを配布した講義を主体に行うが、参考図書の資料（統計データなど）、スライドなどを用いる。</p>	
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	子どもの保健Ⅱ	<p>【概要】一生のうちで最も著しい発育・発達を遂げる乳幼児期の健康は、小児期だけでなくその人の生涯に大いに影響を及ぼす。保育士は、家族や地域と連携し子どもの健やかな育ちを護るチームの一員としての役割を果たすことが求められている。そのため、小児の発育・発達の過程とそれに影響を及ぼす要因、病気や事故への対応について学ぶことが必要になる。授業では、おもに乳幼児の「健康」の基本的理解と、健康や安全について学習する。</p> <p>【到達目標】大人とは異なる子どもの特徴について理解し、発育・発達の原則と身体発育経過の概要を知る。また乳幼児のかかりやすい病気や症状について学習し、簡単な応急処置にも対応できるようにする。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉小児保健概論 〈第2回〉小児の発育・発達 〈第3回〉委託保育における小児保健上の留意点 〈第4回～6回〉乳幼児の病気、異常、症状について（総論） 〈第7回〉事故と応急処置 〈第8回〉感染症と予防接種 〈第9回～11回〉乳幼児期の病気（各論） 〈第12回～13回〉精神、神経系の病気 〈第14回〉子ども虐待、SIDS 〈第15回〉知っておきたい子どもの看病 知っておきたい医学の言葉</p> <p>【授業方法】教科書に準拠し、スライドを併用した講義を行う。授業内に小テストで知識の確認をすることもある。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目	健康教育の分野 子どもの保健(演習)	<p>【概要】 成長発達段階にいる小児は、病気をしたり、けがをしたりすることが極めて多い。この段階をうまく乗り越えて、健全なからだをつくる力をつけるための援助や、保育者としての健康問題の捉え方や看護法を演習や実習を通して学ぶ。</p> <p>小児保健で学習した小児に関する基礎的な知識を踏まえた上で実際に実習を行う。</p> <p>【到達目標】 健康状態の観察(身体計測やバイタルサインの測り方)、生理機能の測定の実際と評価、子どもの生活と養護(小児の世話:沐浴・おむつ・衣服の着脱・清潔等)、子どもの健康を守る(異常に気づく観察と看護処置:発熱・痙攣等の処置・創傷・火傷・動物咬傷等の処置・応急処置)等の実際について、演習や実習を個人発表やグループ発表を通して保育の現場で生かすことができるよう理解を深める。</p> <p>【授業計画】 <第1回>小児保健の概念1(オリエンテーション・小児の健康状態の観察) <第2回>小児保健の概念2(健康観察の実際) <第3回>小児の身体発育(身体発育の評価とその基準・身体測定と体格の評価) <第4回>小児の生理機能1(生理機能の測定と観察:体温・脈拍) <第5回>小児の生理機能2(生理機能の測定と観察:呼吸・意識・血圧) <第6回>小児の生理機能3(生理機能の測定と観察:排泄・睡眠) <第7回>小児の生理機能4(生理機能の測定と観察:視力・聴力の実際と評価) <第8回>子どもの生活と養護1(保育環境を考える:手洗いの方法・掃除と消毒) <第9回>子どもの生活と養護2(小児の世話:沐浴・おむつ・抱き方・寝かせ方) <第10回>子どもの生活と養護3(母乳栄養・人工栄養・口腔清潔・歯磨き指導) <第11回>子どもの健康を守る1(異常に気づく観察と看護処置:発熱・熱中症) <第12回>子どもの健康を守る2(嘔吐・腹痛・下痢・脱水・痙攣) <第13回>子どもの健康を守る3(創傷、打撲の処置・火傷・昆虫・動物咬傷の処置) <第14回>子どもの健康を守る4(誤飲、異物と窒息、意識障害の応急処置:心肺蘇生) <第15回>集団保育における健康管理(感染症および感染の予防・事故防止と安全教育)</p> <p>【授業方法】 講義・演習・実習を中心に、個人発表やグループ発表なども組み合わせる。また、授業内でのレポート提出や小テストなどを行う。</p>	
専門科目 展開応用科目	健康教育の分野 子ども体育I	<p>【概要】 保育者には、子どもを理解し受容し敏感に反応する身体的レスポンス性が何にもまして必要である。また子どもの自発的な動きを誘発したりより発展させるための指導力も求められる。とりわけ今日においては、運動的な遊びや活動を通してコミュニケーション能力を育成・向上させるための指導技術が求められる。この授業では、これらを保育に必要なとされる基礎技能(身体・運動面)として捉えて育成するとともに、幼児の体育指導における教材の選択・工夫とその具体的な指導の方法を学習する。</p> <p>【到達目標】 前半は、動きの基本的レッスンやゲームなどを通して、保育者に必要なレスポンス性と基本的な体づくりをする。</p> <p>後半では、具体的な幼児体育の教材を取り上げ、園での指導の在り方や具体的な指導内容、方法について学習する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 授業の目標と概要 <第2回> 動きのレッスン① <第3回> 動きのレッスン② <第4回> 鬼遊びの指導① <第5回> 鬼遊びの指導② <第6回> 鬼遊びの指導③ <第7回> 物を使った遊びの指導:ボール遊び① <第8回> 物を使った遊びの指導:ボール遊び② <第9回> 物を使った遊びの指導と展開:なわ遊び① <第10回> 物を使った遊びの指導と展開:なわ遊び② <第11回> 移動遊具を使った遊びの指導:跳び箱 <第12回> 移動遊具を使った遊びの指導:平均台、マット <第13回> 固定遊具を使った遊びの指導 <第14回> 水遊びの指導 <第15回> 身体表現遊びの指導と展開とまとめ</p> <p>【授業方法】</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	子ども体育Ⅱ	<p>【概要】子ども体育Ⅰの内容を踏まえ、幼児から児童期における運動遊びの役割と具体的な指導法について学ぶ。Ⅱの授業では、特に器械運動（器械・器具を使つての運動遊び）を中心に、体づくり運動の内容も加味しながら、実技を通して実践的・理論的能力を高めていくことを目的とする。また、体育・スポーツあるいはからだ、といったことについての考え方に触れ、これらを通して子ども体育の重要性を再確認しつつ、授業を展開していく。</p> <p>【到達目標】器械運動では、安全面にも配慮する必要がある。そのためには、単に技ができるだけではなく、技術的理解や補助法も獲得し、指導に活かしていくことが必要となる。したがって、マット・跳び箱・鉄棒の各運動において、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的技の習得 ・技の技術的ポイントの理解 ・技の補助方法の獲得 <p>の3点を到達目標とする。</p> <p>【授業計画】</p> <p><第1回> ガイダンス：体育・スポーツの見方について <第2回> 体づくり運動：みんなできいしょにからだを動かす運動 <第3回> マット運動1) 回転系1（前転、後転、側転など） <第4回> マット運動2) 回転系2（開脚前転、伸膝前転、伸膝後転など） <第5回> マット運動3) 回転系3（頭はねおきなど） 巧技系1（壁登り逆立ちなど） <第6回> マット運動4) 回転系4（側方倒立回転など） 巧技系2（倒立） <第7回> マット運動5) まとめ <第8回> 跳び箱運動1) 反転系（開脚跳びなど） <第9回> 跳び箱運動2) 回転系（台上前転など） <第10回> 跳び箱運動3) まとめ <第11回> 鉄棒運動1) ぶら下がり 上がり技（逆上がりなど） <第12回> 鉄棒運動2) 支持回転技（後方支持回転など） <第13回> 鉄棒運動3) まとめ <第14回> 体づくり運動：縄跳び運動など <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】授業は実技形式を主とする。したがって、運動ができる服装および体育館用シューズを準備すること（裸足で行うこともある）。服装については、だぶつかないもの、フードの無いものが好ましい。時計・アクセサリ類については身に付けないこと。必要に応じ、ビデオ撮影によって学習成果の確認を行うこともある。また、毎時、実技終了時にレポートを課すので、筆記用具を持参すること。早退・遅刻に関しては必ず申し出ること。</p>	
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	レクリエーション論	<p>【概要】レクリエーション活動の考え方は、時代とともに変遷してきた。その背景や現在の活動展開を学び、時代や社会のニーズに適したレクリエーション活動について学ぶ。各自が、本時での学びを生かした社会における活動のあり方や展開方法について考える機会とする。</p> <p>【到達目標】レクリエーション活動の展開方法を学ぶ事によって、どの世代や場面においてもその活動を支えることができる知識を習得する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> ガイダンス・レクリエーション概論 <第2回> 子どもの発達とレクリエーション <第3回> 生活行動とレクリエーション <第4回> 体力づくりとレクリエーション <第5回> レクリエーション援助プロセス <第6回> 福祉分野でのレクリエーション <第7回> セラピューテイツク・レクリエーション <第8回> グループワーク・トレーニング <第9回> レクリエーション活動Ⅰ（屋内活動） <第10回> レクリエーション活動Ⅱ（野外活動） <第11回> レクリエーション活動の安全管理 <第12回> レクリエーションのマネジメント <第13回> レクリエーション活動の企画・運営 <第14回> 広報活動について考える <第15回> 地域社会におけるレクリエーション</p> <p>【授業方法】講義を主体に行うが、グループ討議、レポート作成等も行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	子どもの食と栄養	<p>【概要】 急速な高齢化と少子化社会の到来、食文化、食生活の変化を基礎とする小児における生活習慣病の増加などの疾病構造の変化を理解し、対応するため、小児の身体精神発育、栄養、疾患について学び、さらに母子保健事業、児童福祉法などについても知識を深める。</p> <p>【到達目標】 小児保健のうち、身近なものについて学び、育児の手助けとなり、また保健・保健体育などの教育において、小児を理解し、健全な子どもの育成のための基礎知識を習得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 序—保健・健康・福祉 〈第2回〉 疾患構造の変遷—小児に関する統計 〈第3回〉 胎児期の疾患 〈第4回〉 周産期の疾患 〈第5回〉 新生児期・乳幼児期の疾患 〈第6回〉 学童期の発育と疾患 〈第7回〉 学校における問題1 (知的障害、自閉症) 〈第8回〉 学校における問題2 (ADHD, LD) 〈第9回〉 思春期の疾患 〈第10回〉 学校感染症と予防接種 〈第11回〉 小児心身症1 (摂食障害) 〈第12回〉 小児心身症2 (睡眠異常、呼吸器異常など) 〈第13回〉 チック、PTSD 〈第14回〉 児童虐待 (被虐待児童症候群、代理ミュンヒハウゼン症候群) 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 プリントを配布した講義を主体に行うが、参考図書の資料 (統計データなど)、スライドなどを用いる。</p>	
専門科目 展開応用科目 健康教育の分野	食品学	<p>【概要】 食品に関する基礎を習得することを目的に、食品の成分とその栄養について学ぶ。各種食品素材について、成分や栄養面の特徴を学び、食べ物と健康の関わりについて、実践的な学識を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 食品の成分と栄養について学び、各種食品素材の特徴から食品の基礎的な学識を習得することを到達目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 食品の歴史の変遷 〈第2回〉 食品と環境 〈第3回〉 食品の分類と成分 〈第4回〉 食品成分と栄養素1 〈第5回〉 食品成分と栄養素2 〈第6回〉 食品成分の変化 〈第7回〉 農産食品素材 〈第8回〉 畜産食品素材 〈第9回〉 水産食品素材 〈第10回〉 食用油脂素材 〈第11回〉 調味料食品素材 〈第12回〉 香辛料食品素材 〈第13回〉 嗜好飲料食品素材 〈第14回〉 調理加工食品素材 〈第15回〉 食品の機能性</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行う。</p>	
専門科目 展開応用科目 社会と福祉の分野	社会的養護	<p>【概要】 本講義では、虐待や発達障害等の養護問題が発生している今日、児童福祉施設の役割を中心に理解を深める。それと、児童養護の明治期以降の歴史をふまえて今日的な時代の要請にもつなげて理解する。また、児童福祉法の基本的な理念や児童福祉六法など子どもにかかわる法律についても取り上げる。特に、保育士養成にとまなう施設実習の事前指導にもなるように内容と方法に工夫をもたせ進めていく。</p> <p>【到達目標】 ・社会的養護が必要となる養護問題の現状や社会的な背景を理解する。 ・社会的養護の体系を理解する。 ・児童福祉施設の役割を理解する。 ・施設実習に向けての心構えをもつ。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 オリエンテーション (受講上の諸注意、養護問題の発生について) 〈第2回〉 現代社会と児童養護 〈第3回〉 児童養護の体系と領域 〈第4回〉 児童養護の歴史① 明治期から大正期及び戦前まで 〈第5回〉 児童養護の歴史② 戦後から今日まで 〈第6回〉 児童福祉法、児童福祉六法、その他の子どもに関する法体系 〈第7回〉 児童福祉施設の役割と対象児 〈第8回〉 児童福祉施設の各論① 乳児院、児童養護施設 〈第9回〉 児童福祉施設の各論② 知的障害児施設、知的障害児通園施設 〈第10回〉 児童福祉施設の各論③ 児童自立支援施設、母子生活支援施設など 〈第11回〉 施設養護の基本原則 〈第12回〉 ノーマリゼーションの理念 〈第13回〉 今日的な児童養護の特徴 (地域小規模施設、里親制度) 〈第14回〉 施設職員の専門性 〈第15回〉 まとめ (児童養護問題の今後)</p> <p>【授業方法】 講義を中心として、身近な養護を取り上げたVHSビデオをあわせて視聴する。また、教科書のほかに資料を配布してわかりやすい授業を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目	社会と福祉の分野 社会的養護内容	<p>【概要】 児童養護の概念について、社会的養護の体系や児童福祉施設の役割を中心に理解を深める。施設養護においては、自立への援助のために必要な役割について学ぶ他、各施設の運営、管理や援助技術の使い方について体系的に学んでいく。</p> <p>【到達目標】 ・ 児童福祉施設を利用している児童の立場や援助の方法及び内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の心身の成長や発達を保障するための知識や技術を習得する。 現代の児童観や施設養護観を養う。 <p>【授業計画】 1. 児童福祉施設利用者について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 家庭環境により家庭で生活することが困難な子どもたち 心身に障害があるために専門的なケアを必要とする子どもたち <p>2. 援助(養護)の内容を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 基本的な日常生活の援助 心の傷を癒したり、心を育む援助 親子関係を調整するための援助 学校や地域などとの関係を調整するための援助 自己実現・自立への援助 <p>3. 援助(養護)の理念を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもの最善の利益 生存と発達の保障 権利擁護 <p>4. 児童福祉施設援助者としての資質と技術を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童福祉施設の援助者としての資質と倫理 個別援助技術や集団援助技術などの専門援助技術 事例検討 事例検討 <p>5. まとめと今後の課題</p> <p>【授業方法】 講義および演習</p>	
専門科目 展開応用科目	社会と福祉の分野 社会福祉論	<p>【概要】 本授業では、社会福祉の基本的な考え方や21世紀における新しい社会福祉のあり方、方向性について概括的に学習をすすめていきます。具体的には、新しい社会福祉の全体像の理解や個別の諸課題、例えば、高齢者問題(雇用・生きがい・介護など)、障害者問題(自立・就労・社会参加など)、児童問題(虐待・養護など)について、社会的な事例を可能な限り利用しながら考えたいと思います。</p> <p>社会福祉の課題は、自分達とは異なる外界の出来事として、客観的に捉える視点も時には大切ですが、どこかで自分達とは繋がっているかもしれないといった主観的な観点から理解することもとても重要であると思います。そこでは、社会福祉を学習するひとり1人が、自分に向き合う勇気と他者を受け入れる大きな器が求められます。授業を通して目的とする点は、そうした事柄に一人でも多くの学生が気づいてもらうことと、これからの社会にとって社会福祉の必要性や重要性についてしっかりと考えてもらう点にあります。</p> <p>【到達目標】 ①社会福祉全体を理解する ②社会福祉への関心を抱く ③社会福祉的な考え方を学ぶ</p> <p>【授業計画】 <第1回>社会福祉の基礎 <第2回>社会福祉基礎構造改革 <第3回>貧困問題と社会福祉 <第4回>子どもの家庭福祉 <第5回>障害(児)の福祉 <第6回>高齢者の福祉 <第7回>在宅福祉と施設福祉 <第8回>社会福祉従事者の専門性 <第9回>直接援助技術 <第10回>間接援助技術 <第11回>精神障害者への福祉 <第12回>社会福祉の歴史① <第13回>社会福祉の歴史② <第14回>わが国の社会福祉と国際化 <第15回>まとめ</p> <p>【授業方法】 講義形式で進めていきます。テキストは必ず購入して下さい。必要に応じて、授業の中でレジュメやコピー資料等を配布します。社会福祉に関心を持つひとは、身近な事柄や普段の生活の中から絶えずテーマを見だし、自分なりの考えを持つ姿勢が大切であると考えています。その中で疑問に思ったことや関心を持ったことについては、社会福祉の目線でお考え、また自己学習する際の手掛かりとしてみましよう。</p>	
専門科目 展開応用科目	社会と福祉の分野 児童家庭福祉	<p>【概要】 児童福祉法や子どもの権利条約などの理念をもとに児童福祉の今日的な理念と概念について理解する。児童福祉に関連する6つの法律、児童福祉施設の種別や役割、児童福祉専門職の種類とその専門性と関連する諸問題について学んでいく。また、最新の保育施策や子育て支援施策についての知識も身につける。</p> <p>【到達目標】 ・ 児童福祉の基本制度、法令について理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童を取り巻く環境や諸問題について理解し、考えを述べることができる。 児童福祉施設や福祉専門職の役割を理解する。 <p>【授業計画】 <第1回>子ども福祉学の考え方 <第2回>子どもと家庭の福祉 <第3回>制度・政策、母子保健 <第4回>障がいやリスクのある子ども <第5回>子どもの健全育成、保育、子育て支援 <第6回>ひとり親家庭 <第7回>子どもの非行 <第8回>子どもと虐待 <第9回>子どもの社会的養護 <第10回>制度と政策 <第11回>乳児期 <第12回>幼児期 <第13回>少年期 <第14回>青年期に向かって <第15回>まとめ</p> <p>【授業方法】 講義形式、適宜、視聴覚教材を用いる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 社会と福祉の分野	相談援助	<p>【概要】 社会福祉推進のための相談支援（ソーシャルワーク）の意義・形体・方法を明確にし、ソーシャルワーク実践のために必要な知識と方法論を教授する。また、相談援助活動における展開過程の事例研究・分析を通してケースマネジメントの手法を学ぶとともに実践に必要な知識や技術を教授する。</p> <p>【到達目標】 1. 相談援助の概要について理解する。 2. 相談援助の方法と技術について理解する。 3. 相談援助の具体的展開について理解する。 4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉相談援助の理解 〈第2回〉相談援助の意義 〈第3回〉相談援助の機能 〈第4回〉相談援助とソーシャルワーク 〈第5回〉保育とソーシャルワーク 〈第6回〉相談援助の対象 〈第7回〉相談援助の過程 〈第8回〉相談援助の技術・アプローチ 〈第9回〉計画・記録・評価 〈第10回〉関係機関と協働 〈第11回〉多様な専門職との連携 〈第12回〉社会資源の活用、調整、開発 〈第13回〉虐待の予防と対応等の事例分析 〈第14回〉障害のある子どもの保護者への支援等の事例分析 〈第15回〉ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析</p> <p>【授業方法】 講義及びケーススタディーを中心に行う。</p>	
専門科目 展開応用科目 社会と福祉の分野	障がい児保育	<p>【概要】障害をもつ子どもは、年々増加する傾向にあり、その定義の範囲も広がってきている。 保育所のみならず乳児院や児童養護施設等の保育・養護の現場においても障害を持つ児童を扱うことが多くなってきている。障害児が抱える様々な問題を探りながら、障害児保育の展開過程を追いつつ、一般の保育と障害児保育との関連性に気付かせ、障害児保育を支える理念、その目的、対象、意味、役割、課題等について検討し、統合保育の考え方と方法を理解し、合せて障害児保育に携わる者のあり方について演習をとおして学ぶ。</p> <p>【到達目標】保育現場で診断名を理解することと同時に指導計画の立案と実践のあり方を身につける。目の不自由な子・耳の不自由な子・発達に遅れの子・自閉児・学習障害・ADHD・選択性場面緘黙の子などの特性と保育実践について理解する。また、一人ひとりの発達を大切にするために養護に包まれて自立する力を見つける方法を身に付けるとともに指導計画において健常児とのかかわりも理解できること。統合保育の中で障害のある子を含んだ月案や週案・日案の立案ができることを到達目標としている。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉教育課程・保育課程として園の理念・目的・目標を大切に障がい児への保育のあり方 〈第2回〉目標をより具体化した「ねらい」の重要性が障がい児には特に大切 「発達の方向性を持つこと」〈第3回〉障がい児へもっとも大切な養護に包まれて教育とは「生きる喜びを味あわせる」〈第4回〉障がい児に対する環境の再構成とは「障がい児の目・耳・鼻・口・手・足になること」〈第5回〉障がい児と健常児に生きる力を与える援助「共感・問いかけ・励まし」など〈第6回〉複数担任の連携について「障がい児の立場になった共通の保育観のため」〈第7回〉ラポート「心理的融和感」づけでなくラポートを味わうとは「子どもにレッテルを貼らない」〈第8回〉障がい児の保育児童要録への記入実践「子ども最善の利益となること」〈第9回〉眼の不自由な子への保育実践 〈第10回〉耳の不自由な子への保育実践 〈第11回〉肢体不自由な子への保育実践 〈第12回〉自閉児への保育実践 〈第13回〉知恵遅れの子への保育実践 〈第14回〉選択性場面緘黙の子への保育実践 〈第15回〉多動といわれる子など気になる子への保育実践</p> <p>【授業方法】障がい児を理解するために講義と演習を行います。できるだけ障がい児の立場になったつもりで保育室にてどのような行動をするか、また保育者として援助をするか体験を通して理解します。目や耳、肢体の不自由な時の立場を含め、障がい児の種類と程度を味わうことで保育の実践が幅広くできるような演習もします。さらに指導計画の立案ができるようなグループ討議を取り入れます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 社会と福祉の分野	生涯学習論	<p>【概要】 個性や能力を見つけ出し、かつ存分に発揮できる人生をおくるための学びについて理解をはかります。</p> <p>【到達目標】 生涯学習の概要を理解し、公教育としての学習権を保障する、現代社会における生涯学習のための学びの内容や方法、そして社会のシステムについて、理解することを目標にします。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション、生涯学習とは？① 〈第2回〉生涯学習とは？② 〈第3回〉生涯学習のあしあと① 〈第4回〉生涯学習のあしあと② 〈第5回〉生涯学習に関する法律①：憲法、教育基本法、社会教育法など 〈第6回〉生涯学習に関する法律②：博物館法、図書館法、生涯学習振興法など 〈第7回〉生涯学習支援施設のしくみ 〈第8回〉生涯学習のすすめ方および学びのすすめ方 〈第9回〉ライフステージを通しての学び 〈第10回〉生涯学習を支援する計画とその評価 〈第11回〉現代的課題と生涯学習実践①：子ども、女性を中心に 〈第12回〉現代的課題と生涯学習実践②：高齢者、障害者、在日外国人を中心に 〈第13回〉現代的課題と生涯学習実践③：NP0や地域づくりを中心に 〈第14回〉諸外国における生涯学習 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 講義が中心となります。講義では視聴覚教材(ビデオ・DVD)などを使用します。また、毎回、コメントカードを配布するとともに、適宜レポートの提出や小テストを行います。</p>	
専門科目 展開応用科目 表現の分野	音楽 I	<p>【概要】 小学校・幼稚園教諭、保育者に必要とされる音楽指導の基礎的なピアノ演奏技術を習得する。</p> <p>音楽表現に必要な基礎的な知識、読譜力等、音楽理論を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 小学校・幼稚園、保育所において必要とされる音楽表現を援助できる人材を目指し、ピアノの基本的な演奏技術の習得と音楽の基礎知識、読譜力等を理解することを目標とする。本授業は、ピアノレッスン室にて複数ピアノ教員による「ピアノ」の個人レッスンとML教室にて「音楽理論」の集団授業を行う。1クラスを2班に、また1コマ(90分)の授業を前半後半に分け、各班が交互にピアノ・音楽理論を受講する。小学校・幼稚園教諭、保育士としてのピアノの基礎技能の習得を図る。なお、学生のピアノ習熟度には個人差があるため、グレード制を取り入れ、各学生の進度にあったテキスト使用、個人の進度に合わせてきめ細かいレッスンを行う。初心者、バイエルの80番程度まで習得すること。経験者は、より多くの曲と高い演奏技術の習得を目指す。ピアノ実技では、ピアノ練習曲と「子どもの歌」も併用して進める。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション〈第2回〉ピアノレッスン、理論(楽典とは) 〈第3回〉ピアノレッスン、理論(譜表と音名) 〈第4回〉ピアノレッスン、理論(変化記号) 〈第5回〉ピアノレッスン、理論(音の長さ) 〈第6回〉ピアノレッスン、理論(リズムと拍子) 〈第7回〉ピアノレッスン、理論(リズムと拍子) 〈第8回〉ピアノレッスン、理論(長・短音階) 〈第9回〉ピアノレッスン、理論(長・短音階) 〈第10回〉ピアノレッスン、理論(移調と転調) 〈第11回〉ピアノレッスン、理論(いろいろな調) 〈第12回〉ピアノレッスン、理論(音程) 〈第13回〉ピアノレッスン、理論(音程) 〈第14回〉ピアノレッスン、理論(音楽用語と演奏記号) 〈第15回〉ピアノ実技試験・音楽理論</p> <p>【授業方法】 ピアノレッスン室にて複数ピアノ教員による「ピアノの個人レッスン」とML教室にて「音楽理論」の集団授業を行う。1クラスを2班に、また1コマ(90分)の授業を前半後半に分け、各班が交互に「ピアノレッスン」と「音楽理論」を受講する。「ピアノ」では、進度別のテキストで一对一の指導を受ける。また「音楽理論」ではMLを使用して音楽の基礎知識を学ぶ。音楽プリント課題の小テストを頻りに行って問題に慣れる(理解度チェック)。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 表現の分野 音楽Ⅱ	<p>【概要】小学校・幼稚園教諭、保育者に必要な基礎的なピアノ演奏技術の習得。歌唱では声楽の基礎技術を習得し、様々な幼児歌曲や歌曲を歌う楽しさを通して、創造的な歌唱表現力について学ぶ。</p> <p>【到達目標】「音楽Ⅱ」は、「音楽Ⅰ」で習得したピアノ演奏技術と音楽理論をもとに、小学校・幼稚園、保育所の保育、教育現場において必要とされる基本的なピアノ演奏技術と「歌唱」は声楽の基礎技術の習得を目標とする。なおピアノの初心者には「バイエル終了程度」、音楽経験学生は、さらにより多くの曲を学習し高いピアノ演奏力を目指す。「歌唱」は明るく響く声で歌える歌唱力の習得である。特に歌唱技術（姿勢、呼吸、発声法）の習得と様々な幼児歌曲、歌曲等の独唱、合唱活動を通じて歌唱表現の技術を学ぶ。更にソルフェージュ（初見・視唱練習）を通して音程やリズムなど基礎的な読譜力、視唱力を養う。本授業は、ピアノレッスン室にて複数のピアノ教員によるピアノの個人指導とMLの教室にて歌唱の集団授業を行う。1クラスを2班に、また1コマの授業を前半後半に分け、各班が交互にピアノ・歌唱を受講する。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉オリエンテーション〈第2回〉ピアノレッスン、歌唱（呼吸法）〈第3回〉ピアノレッスン、歌唱（発声法）〈第4回〉ピアノレッスン、歌唱（発音）〈第5回〉ピアノレッスン、歌唱（ソルフェージュ）〈第6回〉ピアノレッスン、歌唱（ソルフェージュ）〈第7回〉ピアノレッスン、歌唱（独唱、斉唱）〈第8回〉ピアノレッスン、歌唱（独唱、斉唱）〈第9回〉ピアノレッスン、歌唱（重唱、合唱）〈第10回〉ピアノレッスン、歌唱（重唱、合唱）〈第11回〉ピアノレッスン、歌唱指導（伴奏）〈第12回〉ピアノレッスン、歌唱指導（合唱指揮法）〈第13回〉ピアノレッスン、歌唱（実技試験）〈第14回〉ピアノレッスン、歌唱（実技試験）〈第15回〉ピアノ実技試験</p> <p>【授業方法】ピアノレッスン室にて複数のピアノ教員によるピアノの個人指導とMLの教室にて歌唱の集団授業を行う。1クラスを2班に、また1コマの授業を前半後半に分け、各班が交互にピアノ・歌唱を受講する。「ピアノ」では、初心者、経験者に合わせ進度別のテキストと一対一の指導を行う。「歌唱」では、声の出し方の基礎を学び、子どもの歌、わらべうた、遊び歌、合唱など歌って歌唱表現を学ぶ。</p>	
専門科目	展開応用科目 表現の分野 音楽Ⅲ	<p>【概要】小学校・幼稚園教諭、保育者に必要とされる基礎的なピアノ演奏技術の習得。コードネームによる簡易伴奏法を習得し、子どもの歌の「弾き歌い」曲のレパートリーを広げる。</p> <p>【到達目標】到達目標「音楽Ⅲ」は、「音楽Ⅰ・Ⅱ」で習得したピアノの演奏技術をもとに、小学校・幼稚園、保育所の保育、教育現場において必要とされるピアノの基本的な演奏技術の習得と子どもの歌のピアノ伴奏を通して、歌いながら弾くという「弾き歌い」の技術（伴奏法）を習得する。「弾き歌い」では、基本的和声理論や知識を理解し、簡単なコードネームによる伴奏付けの演習をする。特にコード機能と主要三和音と属七のコード（ハ・ト・ヘニ長調）の理解、片手・両手伴奏などを学習する。本授業は、ピアノレッスン室にて複数のピアノ教員によるピアノの個人レッスンとML教室にて「弾き歌い」の集団授業である。1クラスを2班に、また1コマの授業を前半後半に分け、各班が交互にピアノ・弾き歌いを受講する。小学校・幼稚園教諭、保育士としてのピアノの演奏技術力と「弾き歌い」の演奏能力の習得を図る。</p> <p>【授業計画】*(レッスンはピアノレッスンのことである) 〈第1回〉レッスン、弾き歌い(コードネームの基礎知識)〈第2回〉レッスン、弾き歌い(コード機能と主要三和音・属七のコード)〈第3回〉レッスン、弾き歌い(ハ・ト長調主要三和音と属七のコード)〈第4回〉レッスン、弾き歌い(ニ・ヘ長調主要三和音と属七のコード)〈第5回〉レッスン、弾き歌い(コード進行)〈第6回〉レッスン、弾き歌い(コード進行)〈第7回〉レッスン、弾き歌い(片手伴奏)〈第8回〉レッスン、弾き歌い(両手伴奏)〈第9回〉レッスン、弾き歌い(伴奏形)〈第10回〉レッスン、弾き歌い(あそびの歌)〈第11回〉レッスン、弾き歌い(季節の歌)〈第12回〉レッスン、弾き歌い(生活の歌)〈第13回〉レッスン、弾き歌い(行事の歌)〈第14回〉レッスン、弾き歌い(実技試験)〈第15回〉ピアノ実技試験</p> <p>【授業方法】ピアノレッスン室にて複数ピアノ教員による「ピアノの個人レッスン」とML教室にて「弾き歌い」の集団授業を行う。1クラスを2班に、また1コマ(90分)の授業を前半後半に分け、各班が交互に「ピアノレッスン」と「弾き歌い①」を受講する。「ピアノ」は、進度別のテキストと一対一の指導を行う。また「弾き歌い①」ではMLを使用してコード伴奏法を学び、子どもの歌が簡単に弾けるよう実践を中心に授業を進める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 表現の分野 音楽Ⅳ	<p>【概要】小学校・幼稚園教諭、保育者に必要とされる基礎的なピアノ演奏技術の習得。コードネームによる簡易伴奏法を習得し、子どもの歌の「弾き歌い」曲のリパートリを広げる。</p> <p>【到達目標】到達目標「音楽Ⅳ」は、「音楽Ⅰ～音楽Ⅲ」で習得した音楽技術を踏まえ、小学校・幼稚園、保育所の保育、教育現場において必要とされるピアノの演奏技術と子どもの歌の「弾き歌い」を演習する。子どもの歌を習得する中でコードネームによる伴奏を定着させ、更に伴奏の変奏、移調奏などを体験する。コードはコード機能と長調(変ロ・変ホ・)と短調(イ・ニ・ホ)の主要三和音と属七の和音との和音と片手・両手伴奏を演習する。本授業は「ピアノ」の個人レッスンと子どもの歌と「弾き歌い」のMLでの集団授業で行う。1クラスを2班に、また、1クラスを2班に、また1コマの授業を前半後半に分け、各班が交互にピアノ・弾き歌いを受講する。保育・教育者として必要な音楽的な表現力・創造性を育むための伴奏法の基礎を学習する。</p> <p>【授業計画】(*レッスンはピアノレッスンのことである) <第1回> レッスン、弾き歌い(変ロ長調の主要三和音・属七コード進行) <第2回> レッスン、弾き歌い(変ホ長調の主要三和音・属七コード進行) <第3回> レッスン、弾き歌い(短調の主要三和音・属七コード進行) <第4回> レッスン、弾き歌い(ハ・へ長調副三和音) <第5回> レッスン、弾き歌い(ト・ニ長調副三和音) <第6回> レッスン、弾き歌い(片手伴奏) <第7回> レッスン、弾き歌い(移調、応用課題) <第8回> レッスン、弾き歌い(両手伴奏) <第9回> レッスン、弾き歌い(移調、応用課題) <第10回> レッスン、弾き歌い(あそび歌) <第11回> レッスン、弾き歌い(季節の歌) <第12回> レッスン、弾き歌い(生活の歌) <第13回> レッスン、弾き歌い(行事の歌) <第14回> レッスン、弾き歌い(実技試験) <第15回> ピアノ実技試験</p> <p>【授業方法】ピアノレッスン室にて複数ピアノ教員による「ピアノの個人レッスン」とML教室にて「弾き歌い」の集団授業を行う。1クラスを2班に、また1コマ(90分)の授業を前半後半に分け、各班が交互に「ピアノレッスン」と「弾き歌い②」を受講する。「ピアノ」は、進度別のテキストと一対一の指導を行う。また「弾き歌い」ではMLを使用してコード伴奏法や変奏、移調奏などを学び、子どもの歌が簡単に弾けるよう実践練習を中心に授業を進める。</p>	
専門科目	展開応用科目 表現の分野 保育内容の研究・表現	<p>【概要】乳幼児の音楽的発達の特徴を理解し、乳幼児の音楽的成長を促すに必要な、様々な音楽表現活動の援助・指導のあり方を学習する。</p> <p>【到達目標】「保育内容の研究・表現Ⅰ」は、「豊かな感性を育て、感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにする」をめざしている。そして、この乳幼児の豊かな感性・創造性は、豊かな生活経験によって養われるのである。そこで保育者は、乳幼児の豊かな感性を育むことのできる環境、自由な心で感じたことや考えたことを意欲的に表現できる環境を準備しなくてはならない。そのためには、乳幼児の成長・発達の過程の中で適切な援助ができる保育者でなければならない。また、保育者自身が色々な表現に親しみ、自ら豊かな表現ができることが重要である。本授業では、乳幼児の音楽的発達の特徴を理解し、乳幼児の音楽的成長を促すに必要な、様々な音楽表現活動の援助・指導のあり方を学習する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 「表現」の意義とねらい <第2回> 子どもの遊びにおける音楽的表現 <第3回> 子どもの発達と音楽表現 <第4回> 歌あそびと伴奏法 <第5回> 外国の子どものあそび <第6回> 日本の子どものあそび <第7回> わらべ歌で遊ぶ <第8回> わらべ歌によるアンサンブルの創作 <第9回> 歌唱活動と指導法 <第10回> 楽器奏法と指導法 <第11回> 身体表現と即興伴奏 <第12回> 絵本とバイエルによる伴奏法 <第13回> 音楽的表現と保育者の援助 <第14回> 課題の取り組み <第15回> まとめ(あそびの創作・発表)</p> <p>【授業方法】講義及び演習。</p>	
専門科目	展開応用科目 表現の分野 図画工作Ⅰ	<p>【概要】子どもの心身の全体的発達を促すことを念頭において、子どもの造形表現活動について考える。子どもの造形発達の理解と図画工作の実技指導法の両面から学ぶ。子どもの生活場面の中で造形表現をいかに取り入れて展開していけばよいか、発達理論を概観する中で考察する。子どもが制作した作品から何をいかに読み取るか、子ども理解の手立てとなる見方を考察する。毎回、多彩な造形活動を紹介する。実習し、各人の技能の向上に役立てる。</p> <p>【到達目標】子どもの造形活動に関する教材研究を行う基礎的能力を養う。子どもの造形表現の理解を図るとともに実技の基礎的な技能を深める。</p> <p>【授業計画】 <第1回> オリエンテーション <第2回> 子どもの心身の発達と造形発達1 <第3回> 造形の指導法1 <第4回> 造形の指導法2 <第5回> 紙の工作技術1 <第6回> 紙の工作技術2 <第7回> 紙の工作技術3 <第8回> 子どもの心身の発達と造形発達2 <第9回> 子どもと造型活動1 <第10回> 子どもと造型活動2 <第11回> 壁面装飾製作1 <第12回> 壁面装飾製作2 <第13回> 壁面装飾製作3 <第14回> 壁面装飾製作4 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】講義及び演習。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 表現の分野	図画工作Ⅱ	<p>【概要】子どもの心身の全体的発達を促すことを念頭において、子どもの造形表現活動について考える。子どもの造形発達の理解と図画工作の実技指導法の両面から学ぶ。子どもの生活場面の中で造形表現をいかに取り入れて展開していけばよいか、発達理論を概観する中で考察する。子どもが制作した作品から何をいかに読み取るか、子ども理解の手立てとなる見方を考察する。毎回、多彩な造形活動を紹介する。実習し、各人の技能の向上に役立てる。</p> <p>【到達目標】子どもの造形活動に関する教材研究を行う基礎的能力を養う。子どもの造形表現の理解を図るとともに実技の基礎的な技能を深める。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉オリエンテーション〈第2回〉平面造形技法〈第3回〉平面造形技法の展開1〈第4回〉平面造形技法の展開2〈第5回〉平面造形技法の展開3〈第6回〉立体造形技法〈第7回〉立体造形技法の展開1〈第8回〉立体造形技法の展開2〈第9回〉子どもの遊びと絵本制作の実際〈第10回〉絵本制作のまとめ〈第11回〉指人形製作1〈第12回〉指人形製作2〈第13回〉指人形製作3〈第14回〉指人形製作4〈第15回〉発表とまとめ</p> <p>【授業方法】講義及び演習。ビデオ資料や、パワーポイントによるスライド資料を適宜用いて進める。</p>	
専門科目 展開応用科目 表現の分野	言語表現	<p>【概要】パネルシアターと人形劇の基礎を学び、実際に簡単な作品を上演できるようになる。子供の前での上演や子供と一緒に作ることを考えて作品をつくることで、子供の感受性、想像力について理解を深める。</p> <p>【到達目標】実際に子どもたちが観たり、作って遊んだりして表現することの楽しさを味わうことができるように、実際に脚本、人形作り、演技、演出、上演、公演作りに必要な基礎を実技を通して学ぶ。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉ガイダンス〈第2回〉パネルシアターとは何か、実際の上演を観て理解する〈第3回〉紙人形を作ってみる〈第4回〉紙人形を動かしてみる〈第5回〉上演と合評〈第6回〉人形劇のいろいろ—どんな人形劇を作るか—〈第7回〉脚本を書く〈第8回～10回〉人形と舞台装置を製作する〈第11回〉演出と場面作り〈第12回〉演出と通し稽古〈第13回〉見せる劇作り—効果、公演の構成、幕間（手遊び）〈第14回〉上演と合評〈第15回〉まとめ（作品鑑賞）</p> <p>【授業方法】人形劇とパネルシアターの鑑賞から製作、上演までを、一通り行う。両方ともグループで作るが、個人個人がきちんと役割を果たすことを求める。</p>	
専門科目 展開応用科目 保育の分野	保育者論	<p>【概要】保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけを理解し、乳幼児の成長発達過程及びその各時期の保育のねらいと内容、保育をする際の視点と保育者の姿勢、保育計画の作成原則、実践上の留意事項等について理解し、さらに保育をめぐる現代的な課題や保育をめぐる現代的課題や保護者・家庭との連携協力、保育に関する相談援助の在り方、保育者の研修等についての認識を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育者の協働について理解する。 4. 保育者の専門職的成長について理解する。 <p>【授業計画】</p> <p>〈第1回〉保育者の役割 〈第2回〉保育者の倫理 〈第3回〉保育士の資格 〈第4回〉保育士の要件 〈第5回〉保育者の責務 〈第6回〉養護と教育 〈第7回〉保育士の資質・能力 〈第8回〉知識・技術及び判断 〈第9回〉保育の省察 〈第10回〉保育課程による保育の展開と自己評価 〈第11回〉保育と保護者支援にかかわる協働 〈第12回〉保護者及び地域社会との協働 〈第13回〉家庭的保育者等との連携 〈第14回〉保育者の専門的成長 〈第15回〉専門性の発達 生涯発達とキャリア形成</p> <p>【授業方法】講義中心に行い、保育計画を実際に作成しながら授業を展開する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 保育の分野	保育課程論	<p>【概要】幼稚園の教育課程と保育所の保育計画における保育目標の設定の重要性と指導計画の結びつきについて理解する講義とする。また、年間指導計画・月案指導計画・週案指導計画書を作成するにあたって「ねらい」「内容」「環境構成」「予想される活動」「援助」の立案について、子どもの発達をおさえた記入とは何かを深く研究する講義としたい。特に、幼稚園と保育所の共通点と養護と教育の記入を正しく理解することを視点としたい。</p> <p>【到達目標】 幼稚園・保育所には、教育課程・保育計画、指導計画があり、実際の保育はそれらの計画に基づいて展開されています。その関係を学び、特に、計画をたてるときの基盤となる子どもの姿や活動のとられ方、保育者の援助の視点などに注目しながら、子どもにふさわしい生活が展開される保育の計画について考えます。</p> <p>【授業計画】 幼稚園・保育所には、教育課程・保育計画、指導計画があり、実際の保育はそれらの計画に基づいて展開されています。その関係を学び、特に、計画をたてるときの基盤となる子どもの姿や活動のとられ方、保育者の援助の視点などに注目しながら、子どもにふさわしい生活が展開される保育の計画について考えます。</p> <p>＜第1回＞ 保育の計画とは、教育課程（保育計画）と指導計画 ＜第2回＞ 3歳未満児の指導計画とは養護と教育の両面がおさえられているか ＜第3回＞ 3歳以上児の指導計画とは ＜第4回＞ 年間指導計画の立案について（保育計画との結びつき） ＜第5回＞ 年間指導計画の評価について ＜第6回＞ 月間指導計画の立案について（年間計画を利用しているか） ＜第7回＞ 月間指導計画の評価について ＜第8回＞ 週案の立案について ＜第9回＞ 週案の評価について ＜第10回＞ 日案、デイリープログラムについて ＜第11回＞ 保育目標と指導計画について ＜第12回＞ 指導計画-実践-反省・評価について ＜第13回＞ 教育課程の評価について ＜第14回＞ 地域にふさわしい立案とは ＜第15回＞ まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心とする。</p>	
専門科目 展開応用科目 保育の分野	保育内容総論	<p>【概要】幼稚園や保育園における教育や保育活動には、そのねらいや方針が理解しにくいように思いますが、5領域のねらいによって活動の方針が定められていることを理解して、その領域各々が重なりあい共存することによって教育と保育が成り立っていることを学ぶ。乳幼児が健康で安全な生活を営み、十分に自己を発揮し安定した情緒をもち、生きる力、主体的な活動による充実感を育てることの重要性について理解する。</p> <p>【到達目標】この講義は「保育内容」とは「一人ひとりの子どもの家庭、地域での育ちの実情、発達の実態を押さえ『保育所保育の目標』を実現するために、選ばれた内容」として定義したものという考えで幼稚園との役割・機能を見直すことにする。</p> <p>保育の内容は、「ねらい」及び「内容」から構成されるもので養護と教育によって保育所保育指針は示している。幼稚園の教育と保健所の教育は同質であるという考えの元、5領域の内容の捉え直しと保育士が子どもの状況に応じて適切に行う事項「基礎的事項」に関する内容について幅広い講義にしたい。</p> <p>【授業計画】＜第1回＞ 保育内容指導法 総論とは何か ＜第2回＞ 養護と教育を一度分けて考えてみる。 ＜第3回＞ 「一人ひとりの発達」を大切にするといった指導法となる、ビデオを通して考える。 ＜第4回＞ 総合的保育とは何かを Group で考える。「紙芝居」を通して。 ＜第5回＞ 「手あそび」の実践の中から立案と評価する。 ＜第6回＞ 「折り紙」の実践から「ねらい」とは何かを考える。 ＜第7回＞ 「絵」の指導の中で問題点をさぐる。 ＜第8回＞ 「散歩」の指導の中で環境とは何か。人的環境とはを考える。 ＜第9回＞ 「おやつ」の指導から「ねらい」と「内容」を考える。 ＜第10回＞ 「予想される活動」の重要を認識するには ＜第11回＞ 「ねらい」「内容」にふさわしい援助について ＜第12回＞ 保育の内容と保育形態 ＜第13回＞ 保育の評価と記録について ＜第14回＞ 幼稚園実習の評価・反省とまとめ ＜第15回＞ 保育所実習の評価・反省とまとめ</p> <p>【授業方法】 グループに分れて保育を体験してねらい、内容、環境構成、予想される活動、援助までを考える。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 保育の分野 保育内容の研究・健康	<p>【概要】 幼児の発達と教育を健康の側面から理解し、幼児の健康指導の具体的な内容や方法について学習する。</p> <p>【到達目標】 まず領域「健康」についての基本的理解をする。それに基づいて、幼児の心身の発達や興味・関心をふまえ、幼児が自ら意欲的に取り組むことができる運動指導や健康・安全に関わる生活習慣の指導のあり方について学ぶ。また、領域「健康」に関わっての指導計画の立案や、部分指導案を実際に作成する。</p> <p>【授業計画】 <第1回>領域「健康」の意義、領域「健康」のねらいと内容 <第2回>「健康」概念の変遷と幼児の健康、幼児の健康をめぐる今日の状況 <第3回>幼児の身体・運動面の発達の特性 <第4回>幼児の発達と運動遊び <第5回>乳児期の運動指導〔1～2歳児〕 <第6回>3歳児、4歳児、5歳児の運動指導 <第7回>運動遊びと環境、領域「健康」に関する行事（遠足、運動会など） <第8回>遊びと生活習慣のつながり、生活習慣の発達の意味 <第9回>健康な生活習慣の指導・援助（清潔、衣服の着脱、食事、片付け、排泄、睡眠、歯磨き） <第10回>安全な生活習慣の指導・交通安全指導・避難訓練 <第11回>自律的生活習慣の指導・援助 <第12回>幼児の生活習慣の指導と環境づくり <第13回>園での保健指導、健康管理 <第14回>健康指導の指導計画（運動、健康、安全） <第15回>部分指導案の作成（運動遊びに関して）</p> <p>【授業方法】 講義及び演習</p>	
専門科目	展開応用科目 保育の分野 保育内容の研究・人間関係	<p>【概要】 「人間関係の発達と援助のあり方」を考える。○人間関係の理論研究として、0歳児から5歳児の人間関係の発達の姿を把握する。○0歳児から5歳児の実践事例を通して、領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」を理解する。○幼稚園の幼児のVTRを視聴し、互いに意見交換をして発達や援助のあり方を追求する。</p> <p>【到達目標】 人間関係の発達の姿をとらえ、保育者や親の適切な援助はどのようにするとよいかを学ぶ。</p> <p>【授業計画】 <第1回>家庭環境、地域環境、幼稚園保育所の環境の視点から子どもを取りまく人間関係を考える <第2回>0歳児の人間関係:個の安定感、1歳児の人間関係:自己の芽生え、2歳児の人間関係:自己中心性と自己主張の始まり <第3回> 仲間遊びの保育、幼稚園のVTRを視聴・意見交換 <第4回>役割分担、ルールづくり-自己コントロールの基礎づくり、幼稚園のVTRを視聴・意見交換 <第5回>「保育実践と幼稚園教育要領・保育所保育指針のかかわり-領域「人間関係」を核として <第6回>「人間関係」の保育計画と保育方法 <第7回>実践事例を協議し、援助の仕方を学ぶ(次回以降同じ)。「おもちゃの取り合い」「かみつく、たたく、ける」 <第8回>「簡単なおっこ遊び」「見ため遊び」 <第9回>「兄弟げんか」 <第10回>「友達を自分の思い通りに動かす」 <第11回>「自分の思いを出せない」 <第12回>「友だちを自分の思い通りに動かす」 <第13回>「いじめ」 <第14回>「友達ができない」「ルール約束を守れない」 <第15回>「自己コントロールができない」</p> <p>【授業方法】 講義、学生同士の意見交換。</p>	
専門科目	展開応用科目 保育の分野 保育内容の研究・言葉	<p>【概要】 私たちは、日常あたりまえのように「ことば」をつかって生活している。だがここで、原点にもどりヒトが生まれて、言語コミュニケーションがとれるようになるまでのことばが発達する道すじを学び、ことばの大切さをあらためて意識してみよう。そのうえで、保育の基本と保育内容「言葉」理解をとおして、保育者の役割について学び、子どもたちの言語力を支える保育者の資質をさまざまな角度から身に付けることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 言葉の発達の道すじの学び、保育内容「言葉」の内容を理解し、子どもたちの生活が楽しく豊になる方法を演習体験を通して探り身に付ける。</p> <p>【授業計画】 <第1回>保育内容「言葉」を学ぶ：オリエンテーション <第2回>ことばをめぐるワークショップ <第3回>ことばの育つ道すじを学ぶ <第4回>ことばの特徴と発達について学ぶ <第5回>ことばが育つ環境について学ぶ <第6回>ことばをめぐるワークショップ <第7回>保育内容「言葉」とは何かを学ぶ <第8回>保育内容「言葉」とは何かを学ぶ <第9回>保育内容「言葉」とは何かを学ぶ <第10回>ことばをめぐるワークショップ <第11回>幼児理解をとおして保育者の役割と援助を学ぶ <第12回>幼児理解をとおして保育者の役割と援助を学ぶ <第13回>幼児理解をとおして保育者の役割と援助を学ぶ <第14回>ことばをめぐるワークショップ <第15回>まとめ</p> <p>【授業方法】 ・講義及び演習 ・グループワークで気づきや学びを深める</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 保育の分野	保育内容の研究・環境	<p>【概要】 幼児教育における領域「環境」を中心に、その意義、ねらい、内容、指導計画の考え方などを解説するとともに、具体的な保育の指導計画や実践記録・考察の事例をあげる。また、保育のための指導技術においては実際の保育に役立つ教材や内容を解説する。これらの内容は、保育者養成という立場から、領域「環境」を理論的、実践的に理解することを目指す。</p> <p>【到達目標】 幼児が身近な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うためには、どのように幼児に関わればよいかを理解する。</p> <p>【授業計画】 <第1回>保育における環境の役割、領域「環境」のねらいと内容 <第2回>領域「環境」の指導計画とその展開 <第3回>乳幼児の自然認識の発達と「環境」 <第4回>保育の実際- 0, 1, 2歳児の保育活動- <第5回>3歳児の保育活動 <第6回>4歳児の保育活動 <第7回>5歳児の保育活動 <第8回>野菜を栽培する-ナス、ピーマン <第9回>昆虫と遊ぶ-チョウ、カブトムシ、セミ <第10回>動物と遊ぶ-チャボ、ウサギ、キンギョ <第11回> 保育のための技術・資料-植物と遊ぶ- <第12回> 草花と遊ぶ <第13回> 食べる・生きるを中心とした保育実践のために <第14回> 地域環境の活用・田んぼ、お宮の探検 <第15回> 学生各自の振り返りと反省</p> <p>【授業方法】 講義を中心に行う。</p>	
専門科目 展開応用科目 保育の分野	幼児教育指導法	<p>【概要】 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本的原則を理解し、保育における具体的な指導・援助のあり方について実践的に学び、理解を深める。</p> <p>【到達目標】 ○ 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基盤となる考え方を理解する。 ○ 幼稚園教育の特質を理解する。 ○ 幼稚園教育の実践上の指導・援助のあり方を具体的に理解する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 保育方法の基本と保育方法・幼児理解とその方法 <第2回> 幼児理解とその方法 <第3回> 環境の構成と保育の展開 <第4回> 一人一人に応じた指導 <第5回> 遊びの指導・生活の指導 <第6回> 0歳児の発達の特徴と保育のポイント <第7回> 1歳児の発達の特徴と保育のポイント <第8回> 2歳児の発達の特徴と保育のポイント <第9回> 3歳児の発達の特徴と保育のポイント <第10回> 4歳児の発達の特徴と保育のポイント <第11回> 5歳児の発達の特徴と保育のポイント <第12回> 接続期の発達の特徴と保育のポイント <第13回> 様々な指導形態 <第14回> 学び合い育ち合うクラスづくり <第15回> 保育者に求められる専門性</p> <p>【授業方法】 教科書や保育現場の実践記録から学んだりビデオからイメージを高めたりしながら、幼稚園教育の基本についての理解を深める。また、ビデオカンファレンスやロールプレイなどを活用して幼児理解や教師のかかわり、環境の構成、教師野援助、保護者とのかかわりなどを学んでいく。 毎回、廃材を利用した簡単制作や手遊び・絵本の読み聞かせなどを予定している。</p>	
専門科目 展開応用科目 保育の分野	乳児保育	<p>【概要】 ○ 子どもは一人ひとりかけがえのない生命をもち、個性ある存在であること、子ども自身が育つ力をもっていること、保育者のかかわりが子どもの育ちに大きく影響すること、家庭や地域の連携が必要なことなどを学び理解する。 ○ 特にめざましい成長を遂げる乳児期の育ちと援助方法について、理論と実践を通じて学んでいく。 ○ 保育の現場で乳児に接するとき、自信をもって関わられるように、心構えや保育技術など身につけるよう意欲的に学ぶ。 ○ 赤ちゃんの可愛さ、素晴らしさ、また逞しさなど講義を通して共感する。 ○ 子育てをしている親に対してどのような援助が必要か、事例から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①乳児保育の歴史にふれながら、乳児保育の意義について学ぶ。 ②乳児の心と体の発達を理解し、関わり方を身につける。 ③乳児期の健康と安全について学ぶ。 ④乳児保育の望ましい環境を学ぶ。 ⑤乳児保育の人的環境を学び、保育者のありかたを考える。</p> <p>【授業計画】 <第1回>乳児保育の基本(自分の生育歴)、乳児保育の歴史 <第2回>乳児保育の意義(保護者の就労支援、子どもの発達保障、地域の子育て支援) <第3回>乳児期における心身諸機能の発達Ⅰ <第4回>乳児期における心身諸機能の発達Ⅱ <第5回>健康と安全 <第6回>健康診断・予防接種 <第7回>乳児保育の環境(物的環境、人的環境) <第8回>受入れ準備、慣れ保育 <第9回>食事・授乳の演習、冷凍母乳 <第10回>おむつ交換の演習 <第11回>排泄の自立、清潔 <第12回>手遊び、わらべうた遊び <第13回>手作りおもちゃの製作 <第14回>指導計画、デイリープログラム <第15回>保育者の役割と心構え</p> <p>【授業方法】 春学期は講義を中心に授業をすすめる。 自分の生育歴をレポートして提出する。 毎回3人ほど、手遊びの発表をする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 保育の分野	保育相談支援	<p>【概要】 様々な保育相談に対応できる保育者として、子どもと保護者を含む家族の状況や社会的環境を学び、子どもの発達の特徴を理解する。さらに、他機関との連携の方法を学び、子どもと保護者両者を援助できる専門職を目指す。事例研究では、模擬面接を演じてみることで、実際の相談場面に対応できる能力を身につける。</p> <p>【到達目標】 1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保育者支援の基本を理解する。 3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉保護者の対する保育相談支援の意義 〈第2回〉保育の特性と保育士の専門性を生かした支援 〈第3回〉子どもの最善の利益と福祉の重視 〈第4回〉子どもの成長の喜びの共有 〈第5回〉保護者の養育力の向上に資する支援 〈第6回〉信頼関係を基本とした受容的なかわり、自己決定、秘密保持の尊重 〈第7回〉地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力 〈第8回〉保育に関する保護者に対する指導 〈第9回〉保護者支援の内容 〈第10回〉保護者支援の方法と技術 〈第11回〉保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス 〈第12回〉保育所における保育相談支援の実際 〈第13回〉保育所における特別な対応を要する家庭への支援 〈第14回〉児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援 〈第15回〉障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援</p> <p>【授業方法】 事例をあげながら、その対応方法を具体的に教授する。後半には模擬面接を中心に行い、保育相談を理解させる。</p>	
専門科目 展開応用科目 保育の分野	家族支援論	<p>【概要】 子どものいじめや、虐待、引きこもり、自殺なども増している現代はまさに、子どもと家族を取りまく状況をきちんと見据え、家族とは何かを考える。また、地域における子育て支援、子育て支援サービスの現状と支援が必要な家族の実際について様々な事例を通して検討し考えていく。</p> <p>【到達目標】 1. 家族の意義とその機能について理解する。 2. 子育て家族を取り巻く社会的状況等について理解する。 3. 子育て家族の支援体制について理解する。 4. 子育て家族のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。</p> <p>【授業方法】 〈第1回〉 家族の意義と機能 〈第2回〉 家庭支援の必要性 〈第3回〉 保育士等が行う家庭支援の原理 〈第4回〉 現代の家庭における人間関係 〈第5回〉 地域社会の変容と家族支援 〈第6回〉 男女共同参画社会とワークライフバランス 〈第7回〉 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 〈第8回〉 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 〈第9回〉 子育て支援サービスの概要 〈第10回〉 保育所入所児童の家庭への支援 〈第11回〉 地域の子育て家族への支援 〈第12回〉 要保護児童及びその家庭に対する支援 〈第13回〉 子育て支援における関係機関との連携 〈第14回〉 子育て支援サービスの課題 〈第15回〉 事例研究</p> <p>【授業方法】 講義を主体とし、VTR等視聴覚教材を通し、具体的なイメージが持てるように授業を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 教育基礎の分野	教職概論	<p>【概要】授業では、まず、自らの幼稚園生活・学校生活を振り返り、教員とはどのような存在かを考える。ついで、教職の意義、教員の使命と役割、教員の職務内容と責任、教員の研修・服務・身分保障等について学ぶことを通して、教職についての理解を深める。さらに、教員の採用・任用の仕方について理解することを通して、最終的な進路選択を考えたり、教職適性の自己点検を通して、教員としての適格性を保つため自分には何が必要かを考える。最後に、教員に関する現代的課題を検討することにより、教員はどうあるべきかを考える。</p> <p>【到達目標】 1 教職の意義や教員の役割・職務内容等を学習することを通して、教職に関する理解を深める。 2 進路選択に資する機会の提供を通して、教職への意欲を高め、教育者に求められる資質・能力を身につける。</p> <p>【授業計画】 <第1回> オリエンテーション-授業の概要と受講の心構え <第2回> 幼稚園生活の振り返り-教員とはどのような存在か <第3回> 学校生活の振り返り-教員とはどのような存在か <第4回> 教職の意義、教育職員の種類と職務 <第5回> 教員の使命と役割-教員には何が求められているのか <第6回> 教員の職務内容と責任 1-生活指導・学習指導 <第7回> 教員の職務内容と責任 2-生徒指導・教育相談 <第8回> 教員の資質向上と研修 <第9回> 教員の勤務と服務 <第10回> 教員の地位・待遇と身分保障 <第11回> 教員養成の制度と歴史 <第12回> 教員の採用・任用の仕方-採用試験の概略- <第13回> 教職適性の自己点検と今後の教職課程履修のあり方 <第14回> 幼稚園・学校の教員に関する現代的課題 1 <第15回> 幼稚園・学校の教員に関する現代的課題 2</p> <p>【授業方法】 講義を主体として行う。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育基礎の分野	養護概説	<p>【概要】近年における情報化の進展、科学技術の向上は生活の利便性をもたらしたが、人間関係の希薄化や性の逸脱行動など様々な問題を引き起こしている。そのため養護教諭は、子どもたちの健康を保持・増進するための専門的知識と専門性を生かした多岐にわたる対応が求められる。本講義では、養護教諭の歴史と職務内容の変遷を踏まえたうえで、学校現場での養護教諭が果たすべき具体的な職務内容と求められる能力について学ぶことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 養護教諭の職務内容と専門性および必要とされる能力について理解すること。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 養護の概念：養護と看護の違い、養護の基本理念 <第2回> 養護教諭の歴史と職務内容の変遷 <第3回> 養護教諭の専門性と必要な能力 <第4回> 養護教諭の教育（養成・現職） <第5回> 学校教育における養護教諭の役割 <第6回> 健康教育とヘルスプロモーション <第7回> 健康実態の把握と課題 <第8回> 救急処置、健康相談活動、感染症の予防と管理、学校安全 <第9回> 保健指導、保健学習、総合的な学習 <第10回> 健康診断と健康相談 <第11回> 学校環境衛生活動 <第12回> 保健目標と学校保健計画 <第13回> 組織活動および家庭・地域社会との連携 <第14回> 保健室の経営、養護活動の評価 <第15回> まとめワークショップ</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行うが、必要に応じてグループワークや小論文等の課題学習も行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 教育基礎の分野	教育制度論	<p>【概要】20世紀末に始まった教育制度改革は、今もとどまることを知らず、激しさを増すばかりである。教員を目指す人は、こうした教育制度改革を十分に理解する必要があるが、そのためには教育制度についての基礎知識が不可欠である。教育制度には、学校教育制度、社会教育制度、教育行政制度、教育財政制度が含まれるが、授業では教育制度の中核をなす学校教育制度を中心に、教育制度についての基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、まず現代の教育制度改革の動向、教育制度の意義、戦後の教育制度の基本原理について解説をする。ついで、就学前教育制度、初等教育制度、中等教育制度、高等教育制度について概説をする。そして、学校の仕組み、教員制度について、学校教育法・学校保健安全法・教育職員免許法などを中心に説明する。最後に、教育行政制度、教育財政制度、社会教育制度についても触れる。</p> <p>【到達目標】 教育制度についての基礎知識を身に付けるとともに、現代の教育制度改革の動向を理解する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> ガイダンス、現代の教育制度改革の動向 <第2回> 教育制度の意義-教育制度の概念と分類、教育制度の歴史 <第3回> 教育制度の基本原則(1)-教育を受ける権利の保障、教育の機会均等の保障、保護者の普通教育を受けさせる義務、義務教育の無償、教育立法の法律主義(憲法の教育条項) <第4回> 教育制度の基本原則(2)-教育の目的・目標、教育の機会均等、義務教育、学校教育など(教育基本法) <第5回> 教育制度の基本原則(3)-教員、家庭教育、幼児期の教育、政治教育、宗教教育、教育行政(教育基本法) <第6回> 教育体系の基本問題(学校体系の基本構造、日本の学校体系の変遷など)、就学前教育・初等教育制度-歴史と現状、幼稚園及び小学校の目的・目標・教育課程 <第7回> 中等教育制度-歴史と現状、中学校及び高等学校の目的・目標・教育課程 <第8回> 高等教育制度-歴史と現状、大学の目的、大学制度と問題点、大学院制度、高等教育改革 <第9回> 学校の仕組み(1)-学校の設置・管理、施設・設備 <第10回> 学校の仕組み(2)-学校規模、学級編制・規模、学校表簿、就学義務、出席督促・不登校・出席停止、懲戒 <第11回> 学校の仕組み(3)-学年・学期、授業日・休業日、教育課程、学習指導要領、教科書 <第12回> 学校の仕組み(4)-学校保健、学校安全、学校事故 <第13回> 教員制度-教職員の種類と職務、教員の資格と免許 <第14回> 教員制度-教職員の服務、身分保障、分限、懲戒 <第15回> 教育行政制度(中央教育行政機関・教育委員会制度と問題点)、教育財政制度、社会教育制度</p> <p>【授業方法】 講義を主体とし、適宜プリント・新聞記事を配付する。</p>
専門科目	展開応用科目 教育基礎の分野	教育法	<p>【概要】いまわが国では、教育のあり方や国民の教育に対する意識がさまざまに変化するとともに、教育に関する法(教育法)も大きく変わってきている。学校においては、あらゆることが教育法に結びついているといっても言い過ぎではない。それゆえ、われわれは、常に最新の教育法に関する知識を身につけることが不可欠である。そこで、講義では、以下の4テーマに分け、最新の教育法を理解するための手がかりを提供する。「教育法の基礎」では、教育法の意義について考察するとともに、教育法の最も基本となる日本国憲法-とくに26条-、教育基本法について検討・考察を加える。「学校と法」では、学校教育法・同法施行令・施行規則・各種学校設置基準などを中心に、学校のしくみや学校教育のあり方について検討・考察をする。また、ここでは学校保健や学校安全などについて学校保健安全法・同法施行令・施行規則などを中心に考察をする。「学校の教職員」では、教職員の種類と職務、資格・免許、服務・身分保障などについて、学校教育法・教育職員免許法・地方公務員法・教育公務員特例法などを中心に考察する。「教育行政機関」では、中央教育行政機関、地方教育行政機関(教育委員会)について文部科学省設置法や地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地教法)などを中心に考察をする。</p> <p>【到達目標】 到達目標 教職を目指す学生として必要不可欠な教育法に関する基礎知識を身につける。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 教育法の基礎① 教育法の意義と法源、日本国憲法26条、23条 <第2回> 教育法の基礎② 旧教育基本法、教育基本法1条(教育の目的)から4条(教育の機会均等) <第3回> 教育法の基礎③ 教育基本法5条(義務教育)から12条(社会教育) <第4回> 教育法の基礎④ 教育基本法13条(学校、家庭及び地域住民等の相互の連帯協力)から17条(教育振興基本計画)、児童の権利に関する条約、児童憲章 <第5回> 学校と法① 学校教育の目的・目標、学校の種類・設置、施設・設備(学校教育法・同法施行令・施行規則・各種学校設置基準) <第6回> 学校と法② 学校規模、学級編制・規模、学校表簿、入学・卒業、就学義務(学校教育法・同法施行令・施行規則・標準法) <第7回> 学校と法③ 出席督促・不登校・出席停止、懲戒(学校教育法・同法施行令・施行規則) <第8回> 学校と法④ 学年・学期、授業日・休業日、教育課程、学習指導要領、教科書・検定・教材(学校教育法・同法施行令・施行規則・教科書の無償に関する法律) <第9回> 学校と法⑤ 学校保健(健康診断・伝染病)、学校給食(学校保健安全法・学校給食法・食育基本法) <第10回> 学校と法⑥ 学校安全、学校事故、災害共済給付(学校保健安全法・国家賠償法・民法・日本スポーツ振興センター法) <第11回> 学校の教職員① 教職員の種類と職務、教員の資格と免許(学校教育法・教育職員免許法・同法施行規則) <第12回> 学校の教職員② 教職員の服務、身分保障・懲戒・分限(学校教育法・地方公務員法・教育公務員特例法) <第13回> 教育行政機関① 中央教育行政機関と地方教育行政機関(文部科学省設置法・同組織令・地教法) <第14回> 教育行政機関② 地方教育行政機関(教育委員会)(地教法) <第15回> まとめと児童福祉関連法(児童福祉法・少年法)</p> <p>【授業方法】 講義を主体とし、適宜プリントを配布する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 教育基礎の分野	教育史	<p>【概要】 本授業では、日本・西洋における、教育の歴史とその特質について考える。まず、我が国における古代・中世の教育について概説する。次いで、近代教育の萌芽に着目しながら近世の教育について考える。そして、西洋教育の受容に着目しつつ、近代教育の特質について考える。西洋教育については、近代以前の教育について概説し、その後、近代学校教育制度の特質について考える。また、制度史を講義するとともに、各時代の教育思想の特質についても、教育者たちの言葉から考える。</p> <p>【到達目標】 ・我が国における古代・中世の社会・文化について理解し、その特質について説明できる。 ・近世にみられる近代教育の萌芽について考察することができる。 ・我が国が西洋教育をどのように受容したのか考察することができる。 ・教育者たちの言葉から教育思想の特質を読み取ることができる。 ・教育史の学習を通して、現代教育の在り方、教師の在り方について考察することができる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 ガイダンス (教育史の意義等について) 〈第2～3回〉 古代国家の成立・官人養成、武家社会の教育 〈第4回〉 (日本) キリシタン文化、儒学の受容 〈第5～6回〉 (日本) 幕藩体制下の教育政策・学校、大衆文化、庶民教育の普及 〈第7～8回〉 (日本) 近代教育の萌芽、近代教育制度の成立・展開 〈第9回〉 大戦開期の教育、戦後の教育改革 〈第10～11回〉 ギリシア・ローマの教育 〈第12～13回〉 近世の西洋教育、科学的教育学の発展 〈第14～15回〉 国民教育制度の発展</p> <p>【授業方法】 制度史の講義が中心となるが、同時に各時代の教育思想についても考える。学生の考察を交えながら、教育者としての普遍的な要素とは何か、考察する機会をもうける。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育内容の分野	国語科研究 (書写を含む)	<p>【概要】 国語科では全ての教科の基礎となる言語能力を意図的・計画的に育成し、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる。「教材を教える」のではなく、「教材で」上記の能力や態度を育成するのである。まず、小学校国語科の目標及び内容構成について概要をつかむようにする。そして、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」の各指導事項について、具体的な指導場面(学年、教材)を提示しつつ、「どういう力を付けたいから、どういう指導の手だてが必要となり、その結果どういう児童の成長が見られたか」をできる限り分かりやすく示す。</p> <p>【到達目標】 小学校国語科学習指導要領に示されている目標と内容の全体像をつかみ、具体的な指導場面で評価意識を明確にもって指導に当たれるようにするための素地を育成する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 ガイダンス (授業の概要及び目標・計画について) 〈第2回〉 小学校国語科の目標(教科としての目標、各学年の目標)と内容構成について 〈第3回〉 「話すこと・聞くこと」領域の「話題設定や取材」に関する指導事項について 〈第4回〉 「話すこと・聞くこと」領域の「話すこと」に関する指導事項について 〈第5回〉 「話すこと・聞くこと」領域の「聞くこと」に関する指導事項について 〈第6回〉 「話すこと・聞くこと」領域の「話し合うこと」に関する指導事項について 〈第7回〉 「書くこと」領域の「課題設定や取材」に関する指導事項について 〈第8回〉 「書くこと」領域の「構成」「記述」に関する指導事項について 〈第9回〉 「書くこと」領域の「推敲」「交流」に関する指導事項について 〈第10回〉 「読むこと」領域の「音読」「効果的な読み方」に関する指導事項について 〈第11回〉 「読むこと」領域の「説明的な文章の解釈」に関する指導事項について 〈第12回〉 「読むこと」領域の「文学的な文章の解釈」に関する指導事項について 〈第13回〉 「読むこと」領域の「自分の考えの形成及び交流」「目的に応じた読書」に関する指導事項について 〈第14回〉 「伝統的な言語文化」「言葉の特徴やきまり」に関する指導事項について 〈第15回〉 「文字」「書写」に関する指導事項について</p> <p>【授業方法】 教材(教科書、ワークシート等)と指導場面(指導案、授業記録、授業の映像資料等)を提示して、指導事項を児童に身に付けさせるためにどのような工夫が必要であり、その工夫がどのような効果を上げて、児童の言語能力や言語感覚、国語を尊重する態度を育成していくかについて分かりやすく示す。常に指導目標を念頭に置いた、ねらいの明確な授業ができるようになるための、国語科教師としての基本的な指導姿勢を育成するようにする。全15回の授業計画を表にして掲示し、全体計画のうちのどこを学んでいるのか分かりやすく示す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 教育内容の分野 社会科研究	<p>【概要】 今日、学校教育に対して、現代社会の諸課題の問題解決力を育成することが要請されている。本授業は社会科教育の視点から、「生」と「性」と「死」をキーワードに、こうした課題に対応する様々な授業実践を参照し、豊かな教材作成能力を身につけ、従来の授業内容と教材の扱い方の見直しを図り、自らの視点から授業を構成する授業実践力を養成することを目標とする。テーマごとに模擬授業やグループ・ディスカッションを行い、意見表明力や合意形成力に関する理解を深め、授業観、教材観を養うことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 到達目標 社会科に関連する様々な課題を自らの問題として認識し、自らの言葉で問題意識や自分なりの解決法を表現することができる。社会科の授業を構想する上で必要な「ものの考え方」の基礎を身につけ、授業実践に対する理解を深める。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 導入、社会科で「生」と「性」と「死」を扱うことの意義。 <第2回> 学習指導要領と社会科の授業、「公的領域」と各校種における授業。 <第3回> 優れた授業実践に触れる。「屠畜体験授業」の試み。① <第4回> 優れた授業実践に触れる。「屠畜体験授業」の試み。② <第5回> 優れた授業実践に触れる。「屠畜体験授業」の試み。③ <第6回> 「生」と「性」と「死」を巡る現代的諸課題。「私」とは何か-「人間の在り方生き方」教育と実践。 <第7回> 人間の存在を考える-生殖補助技術 生まれてくるのは誰なのか-出生前診断 <第8回> 「死」について自己決定権はあるか-安楽死・尊厳死を考える <第9回> それは本当に「命の贈り物か」-「脳死」と「臓器移植」- <第10回> 社会科における「生」と「性」と「死」の授業と実践、学習指導案の作成。① <第11回> 社会科における「生」と「性」と「死」の授業と実践、学習指導案の作成。② <第12回> 社会科における「生」と「性」と「死」の授業と実践、模擬授業。① <第13回> 社会科における「生」と「性」と「死」の授業と実践、模擬授業。② <第14回> 社会科における「生」と「性」と「死」の授業と実践、模擬授業。③ <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 社会科教育の目的と基本理念を講義した後、「生」と「性」と「死」を主題とした優れた教育の実践記録に触れることによって、社会科教育の意義について考える。また、授業者がこれまで実践してきた様々なテーマについての授業案及び記録の検討を行う。受講者は任意に設定されたグループでディスカッションを行い、自分自身との関わりの中で意見をまとめ、プレゼンテーションを行う。</p>	
専門科目	展開応用科目 教育内容の分野 算数科研究	<p>【概要】 昨年、ノーベル賞を受賞した物理学者が「間違いこそが大切である」と言っている。間違いを踏み台にして試み、又、間違える。これを繰り返し、一つだけの得たことがノーベル賞に値する発見になったのであろう。</p> <p>「あっ、間違っている。恥ずかしい」、だから「すぐ消してしまおう」という弱みが内在する誤答の中には、素晴らしい学習素材が含まれており、大切にしていかなければならない。そこで、授業参加者から出てくる誤答を意図的に取り上げ、宝物として大切に授業を行い、その良さを体得させる。</p> <p>算数教育の究極的なねらいは、人間形成にある。誤答を大切にすることは、失敗を恐れずチャレンジしていく意欲と、成功失敗にかかわらず支え合う関係であることを学ぶことになる。算数指導では児童の発達段階に応じた手法が必要である。低学年・中学年・高学年それぞれの手法の違いを、実践例をもとに理解させる。</p> <p>先生役と児童役を体験することで、算数指導の進め方を具体的に理解させる。</p> <p>【到達目標】 指導要領をもとに、算数科の目標と特徴を具体的に理解させる。授業に主体的・積極的に参加できるようにするとともに、手を携えて課題を解決していく態度を養う。将来に生きる力・家庭の子育てに生きる力・子どもを通して学校を見る目を育てる。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 指導要領の内容をもとに、各学年の算数科の目標を説明する。算数の学習では、児童一人一人に「転移力」(既習の学習事項を生かして新しい学習課題の解決方法を生み出していく力)を持たせることが大切であることに気付かせる。 <第2回> 「小数のたし算」を例に、予想される誤答と一緒に考え、誤答を位置付けた授業を行う。 <第3回> 「四角形」を例に、予想される誤答と一緒に考え、誤答を位置付けた授業を行う。 <第4回> 誤答を宝物として位置付けた授業について感想を述べ合い、利点を考えさせる。他の単元の誤答例を考えさせる。 <第5回> 自作問題を作成させ、その利点を理解させる。 <第6回> 低学年では、具体的・体験的な活動が必要であることを具体的に理解させる。 <第7回> 中学年では、抽象化した操作が必要であることを具体的に理解させる。 <第8回> 高学年では、念頭操作に移行していくことを具体的に理解させる。 <第9・10回> 低学年・中学年・高学年にグループ分けをし、誤答を生かした授業の、実践計画を立てさせる。 <第11回> 低学年グループが先生役となり、他の授業参加者が児童役となり、授業実践をさせる。授業の反省と改善点を話し合わせる。 <第12回> 中学年グループが先生役となり、他の授業参加者が児童役となり、授業実践をさせる。授業の反省と改善点を話し合わせる。 <第13回> 高学年グループが先生役となり、他の授業参加者が児童役となり、授業実践をさせる。授業の反省と改善点を話し合わせる。 <第14回> 算数科の目標と特徴についてまとめさせる。 <第15回> 日本古来の算数を紹介したり、算数のおもしろさを味わわせる。</p> <p>【授業方法】 問答形式や演習を取り入れ、授業参加者が主体的・積極的に動く授業を行う。グループ活動を取り入れる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 教育内容の分野 理科研究	<p>【概要】小学校理科で取り扱われる内容について、その授業展開と評価、観察・実験の技能の習得を目指すとともに、取り扱いの留意点などについて述べるができる。</p> <p>【到達目標】新しい学習指導要領理科では、①「A物質・エネルギー」「B生命・地球」の2区分制、②理科の目標に「実感を伴う理解を加え実生活に生かす」、③6つの新単元、④各学年の主たる問題解決の能力の育成、などの特徴が見られる。これまで以上に、授業の進め方、授業計画、教材研究が求められる。そこで、理科の授業を進める上での基本的な技術・授業計画の立て方など、実際の教科書を基に演習を行う。ここでは、小学校理科を指導する上での基礎について、体験的に活動しながら解説する。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉小学校理科観察実験ガイダンス(授業の進め方、成績評価の説明) 〈第2回〉「A 生物とその環境」の基礎を学ぶ〈第3回〉・小3理科-植物のそだち方、昆虫を調べよう〈第4回〉・小4理科-生き物を調べよう・小5理科-生命のつながり・小6理科-からだのつくりとはたらき〈第5回〉「B 物質とエネルギー」の基礎を学ぶ〈第6回〉・小3理科-豆電球にあかりをつけよう・小3理科-じしゃくのふしぎを調べよう〈第7回〉・小4理科-電池のはたらきを調べよう・小4理科-ものあたたまりかたを調べよう・小4理科-変身する水を調べよう〈第8回〉・小5理科-てことつり合い・小5理科-ふりこの動きとおもりのしょうとつ・小5理科-もののとけ方〈第9回〉・小6理科-ものの燃え方と空気・小6理科-水よう液の性質〈第10回〉「C 地球と宇宙」の基礎を学ぶ〈第11回〉・小3理科-星や月〈第12回〉・小5理科-天気と情報〈第13回〉・小6理科-流れる水のはたらき〈第14回〉・小6理科-土地のつくりと変化〈第15回〉・小3理科-太陽のうごきをしらべよう</p> <p>【授業方法】</p>	
専門科目	展開応用科目 教育内容の分野 生活科研究	<p>【概要】生活科の学習内容のうち、自然や物を使ったあそびや動植物の飼育栽培などの技能を要する内容について具体的な活動を通した教材研究を行い、子どもの前で自信を持って指導ができるようにする。</p> <p>【到達目標】構内の教材園やプランターで栽培活動をしたり、簡易の飼育器具で小動物の飼育をしたりして飼育栽培の技能を高めると共に、身近な自然物を使って工夫すれば楽しい遊び道具ができることを実践的に理解する。具体的な実習活動をすることにより、実際に子どもの前に立ったとき自信を持って指導ができるようにする。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉野菜の栽培計画〈第2回〉野菜の栽培活動①〈第3回〉野菜の栽培活動②〈第4回〉野菜の栽培活動③〈第5回〉野菜の収穫と栽培活動のまとめ〈第6回〉子どもによる飼育活動の実際〈第7回〉小動物による飼育器具の違い〈第8回〉個別の飼育活動と記録①〈第9回〉個別の飼育活動と記録②〈第10回〉草花を使ったあそび①〈第11回〉草花を使ったあそび②〈第12回〉身近な物を使ったあそび①〈第13回〉身近な物を使ったあそび②〈第14回〉身近な物を使ったあそび③〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】</p>	
専門科目	展開応用科目 教育内容の分野 家庭科研究	<p>【概要】小学校家庭科では、「家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。」を最終のねらいとしている。そのために、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の習得、家庭を大切にしている心情を育み家族のかかわりを重視し、自ら進んで課題を解決する主体的な学習が求められている。</p> <p>本科目では、実践的・体験的な活動を通して、家庭生活と家族、食事と調理、衣服と住まい、消費生活と環境の学習内容の理解を深める。</p> <p>また、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と生活に活用できる力を身につけるために、課題解決的な学習を進め、観察・実験・実習を通し、家庭科学習の指導者としての資質を高める。</p> <p>【到達目標】小学校家庭科の目標及び内容を理解し、教材研究を深めることができる。布を使った小物の製作や栄養を考えた献立を作成することができる。環境・安全衛生に配慮した視点で学習の進め方を工夫することができる。生活に課題をもち、解決方法を工夫して考えをまとめることができる。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉家庭科教育の意義〈第2回〉小学校家庭科の目標と内容〈第3回〉小学校家庭科の指導計画と題材〈第4回〉小学校家庭科の内容構成〈第5回〉布を使った小物の製作計画〈第6回〉布を使った小物の製作〈第7回〉衣服の着方と手入れ〈第8回〉食事の役割〈第9回〉栄養と献立〈第10回〉調理の基礎〈第11回〉快適な住まい方〈第12回〉消費生活と環境〈第13回〉家庭生活と家族〈第14回〉安全・衛生に配慮した学習の進め方〈第15回〉課題研究報告とまとめ</p> <p>【授業方法】講義 製作・実験実習(小物の製作、調理の基礎) 課題研究と報告(各自の生活課題についてまとめ、発表する)</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 教育内容の分野	体育科研究	<p>【概要】体育科の役割を理解し、小学校教育のねらいにそった各種運動領域の内容の進め方や高め方について具体的に学ぶことができるようにする。</p> <p>【到達目標】 児童の身体の発達の特性や体力・運動能力の発達、及び運動への興味・関心・技能の習熟等の実態を理解し、小学校で行われる各種運動領域の特性や内容とその学習指導の要点・具体的展開を学び、実践に生かすことができる。</p> <p>【授業計画】 <第1回>：オリエンテーション(体育科研究の講座の進め方) <第2回>：体育科の目標論・内容論 <第3回>：体育科の教材論 <第4回>：体育科の学習指導論 <第5回>：体育科の教師論 <第6回>：低・中学年の「体づくり運動」の要点とその指導 <第7回>：低・中学年の「ゲーム」の要点とその指導 <第8回>：中・高学年の「表現運動」の要点とその指導 <第9回>：中・高学年の「器械運動」の要点とその指導 <第10回>：高学年の「水泳」の要点とその指導 <第11回>：高学年の「体づくり運動」の要点とその指導 <第12回>：高学年の「陸上運動」の要点とその指導 <第13回>：高学年の「ボール運動」の要点とその指導 <第14回>：中・高学年の「保健」の要点とその指導 <第15回>：まとめ</p> <p>【授業方法】 講義形式・ビデオ視聴と実技形式で行う。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育内容の分野	外国語活動研究	<p>【概要】小学校における外国語活動の目的は、中学校で行なわれる英語教育の前倒しではなく、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うこととされている。他者を理解し、自己を表現するといったコミュニケーション能力が、現在の子どもたちには欠如していることが指摘されている。同時に、社会のグローバル化に伴い国際コミュニケーションを視野に入れたコミュニケーション能力の育成が必要であるとされている。小学校の教員免許状取得を目指すものは、外国語活動の全面実施に至るまでの様々な議論や背景を理解した上で、その現状や問題点を把握する必要がある。また、子どもの言語発達理論、第二言語習得理論、コミュニケーション理論など、理論的背景についても基本的な知識を身に付けておく必要がある。</p> <p>【到達目標】 小学校外国語活動の導入の背景、目的、意義、現状、問題点などを理解するとともに、子どもの言語やコミュニケーション能力の発達に関する理解を深める。</p> <p>【授業計画】 <第1回>オリエンテーション、『小学校学習指導要領解説一外国語活動編』 <第2回>外国語活動導入の経緯 <第3回>過去の実践例とその分析① <第4回>過去の実践例とその分析② <第5回>他国における小学校英語教育の現状 <第6回>他国と日本型小学校英語との比較 <第7回>外国語活動導入への批判的視点 <第8回>子どもの言語発達 <第9回>第二言語習得理論 <第10回>コミュニケーション理論 <第11回>学級担任の役割 <第12回>チーム・ティーチング <第13回>教材研究 <第14回>動機付け・評価 <第15回>中学校との連携 <第16回>定期試験</p> <p>【授業方法】 ディスカッションを多く取り入れ、受講者が一つひとつの課題に主体的に関わりながら理解を深めることを目指す。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	教育課程論(小学校)	<p>【概要】教育課程の意義及び編成方法について学び、小学校教育におけるカリキュラムに関わる知識を得て、それらにまつわる諸問題について考察するとともに、学習指導要領についての理解を深め、今後の新しい教育課題を検討・改善していくための基礎を培う。</p> <p>【到達目標】 教育課程の意義と編成方法を学習することによって、小学校におけるカリキュラム・学習指導要領の基礎的内容を理解し、今日的な教育の諸問題と新しい教育課程改革について具体的な事例に基づいて考察できる。</p> <p>【授業計画】 <第1回>オリエンテーション(教育課程論履修の心構え) <第2回>教育課程・カリキュラムの意義 <第3回>教育課程・学習指導要領の変遷 <第4回>教育課程編成の実際 <第5回>教育課程と学習内容 <第6回>教育課程と学習指導 <第7回>学習指導要領(1) <第8回>学習指導要領(2) <第9回>「学力」観 <第10回>学力低下論争とゆとり教育 <第11回>「総合的な学習の時間」は <第12回>「総合的な学習」は今 <第13回>教育評価の考え方とあり方 <第14回>新しい教育改革の動向と今日的課題 <第15回>まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体として行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目	教育方法の分野	教育課程論(中・高・養)
			<p>【概要】教育課程は、子どもの人格および学習の統一的発達を促すためのプログラムである。教育課程は時代や国の教育目的により異なる。教職に就く者にとって、教育課程の意義あるいは歴史の変遷、各国の教育課程についての知識を得ること、我が国の教育課程についての理解を深めることは必須である。本講義では、西洋における教育課程概念の芽生えと教育課程の発展について理解し、我が国でいかんにかそれが受容されてきたのかを学ぶ。そして、我が国の教育課程の要点・要領を示した文書である、学習指導要領についての理解を深め、さらに教育課程を具現化した教科書・教具について学習する。</p> <p>【到達目標】教育課程の発達に関する知識を身につけるとともに、現代日本の教育課程の特質について理解する。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉ガイダンス、教育課程の概念、意義 〈第2回〉西洋における教育課程論の芽生え 〈第3回〉近代の教育課程の発展 〈第4回〉様々な教授法 〈第5回〉寺子屋における子どもの学習 〈第6回〉藩校における学習 〈第7回〉明治時代における教育課程-教科課程の登場 〈第8回〉大正時代における教育課程-大正自由教育 〈第9回〉第二次大戦までの教育課程-「皇国民錬成」理念下の教育 〈第10回〉学習指導要領にみる戦後の教育課程(1)-1990年代まで 〈第11回〉学習指導要領にみる戦後の教育課程(2)-1990年代以降 〈第12回〉教科書問題の歴史 〈第13回〉教育課程・学習指導の類型 〈第14回〉教具および教育メディア 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】講義形式を中心にして進めます。また、ビデオ、OHC、スライドなどを利用して視覚教材を提示します。各回の授業において、出欠の確認を行うとともに、授業内容に関する感想・考察などを提出して頂くことがあります。また、適宜、小テストを行い、知識・技術の定着をはかります。</p>
専門科目	展開応用科目	教育方法の分野	国語科教育法I
			<p>【概要】2年次の国語科研究で学んだ小学校国語科の目標及び内容構成をふまえて、3年次では学年ごとに教材研究と模擬授業に繰り返し取り組む。国語科教育法Iでは、小学校第1学年から第3学年までを対象に、教科書教材を素材として、学年の発達段階に応じた指導方法の工夫について検討する。素材とする教科書教材は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域を偏りなく取り扱うこととする。初期段階の教材研究は、その方法と内容を分かりやすく示し、一部を学生に解決させるようにする。教材を変えて繰り返し教材研究に取り組ませることによって、徐々に学生の創意工夫を生かせるように配慮する。最終的には、自力で「たぬきの糸車」の教材研究ができるようにする。また、模擬授業においても、初期段階では指導案を与える。教材を変えて繰り返し模擬授業に取り組ませることによって、徐々に学生の創意工夫を生かせるように指導案の一部を空白にして与える。最終的には、自力で「たぬきの糸車」の指導計画を立案し、単位時間の指導計画を立て、模擬授業ができるように高める。</p> <p>【到達目標】小学校低学年国語科の目標及び内容をふまえて、教科書教材をもとに教材を研究し、指導計画を立案し、授業を行うことができるようにする。</p> <p>【授業計画】</p> <p>〈第1回〉ガイダンス(授業の概要及び目標・計画について)</p> <p>〈第2回〉小学校国語科の第1学年-第3学年までの目標と内容構成について</p> <p>〈第3回〉第1学年「おはなしきいて」(光村図書「話すこと・聞くこと」領域)の教材研究</p> <p>〈第4回〉第1学年「おはなしきいて」(光村図書「話すこと・聞くこと」領域)の模擬授業</p> <p>〈第5回〉第2学年「ことばで絵をつたえよう」(東京書籍「話すこと・聞くこと」領域)の教材研究</p> <p>〈第6回〉第2学年「ことばで絵をつたえよう」(東京書籍「話すこと・聞くこと」領域)の模擬授業</p> <p>〈第7回〉第2学年「かんざつ名人になろう」(光村図書「書くこと」領域)の教材研究</p> <p>〈第8回〉第2学年「かんざつ名人になろう」(光村図書「書くこと」領域)の模擬授業</p> <p>〈第9回〉第3学年「案内の手紙を書こう」(東京書籍「書くこと」領域)の教材研究</p> <p>〈第10回〉第3学年「案内の手紙を書こう」(東京書籍「書くこと」領域)の模擬授業</p> <p>〈第11回〉第1学年「たぬきの糸車」(光村図書「読むこと」領域)の教材研究</p> <p>〈第12回〉第1学年「たぬきの糸車」(光村図書「読むこと」領域)の指導計画作成</p> <p>〈第13回〉第1学年「たぬきの糸車」(光村図書「読むこと」領域)の単位時間ごとの指導案作成</p> <p>〈第14回〉第1学年「たぬきの糸車」(光村図書「読むこと」領域)の模擬授業</p> <p>〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】教材研究と模擬授業を行う。教材文については、授業当日までに一通り目を通し、疑問点をもって授業に臨む。できれば疑問点についての自分なりの考えをもって臨むと、授業はより密度の高いものになる。その疑問点を基に、どんな発問をすると、どんな児童の反応があるのかを想定して、授業のねらいに沿った発問を考えることができるようにする。模擬授業を見たり、実際に経験したりすることにより授業感覚をつかむ。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	国語科教育法Ⅱ	<p>【概要】 2年次の国語科研究で学んだ小学校国語科の目標及び内容構成をふまえて、3年次では学年ごとに教材研究と模擬授業に繰り返し取り組む。国語科教育法Ⅱでは、小学校第4学年から第6学年までを対象に、教科書教材を素材として、学年の発達段階に応じた指導方法の工夫について検討する。素材とする教科書教材は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域を偏りなく取り扱うこととする。初期段階の教材研究は、その方法と内容を分かりやすく示し、一部を学生に解決させるようにする。教材を変えて繰り返し教材研究に取り組みせることによって、徐々に学生の創意工夫を生かせるように配慮する。最終的には、自力で物語教材「海の命」の教材研究ができるようにする。また、模擬授業においても、初期段階では指導案を与える。教材を変えて繰り返し模擬授業に取り組みせることによって、徐々に学生の創意工夫を生かせるように指導案の一部を空白にして与える。最終的には、自力で物語教材「海の命」の指導計画を立案し、単位時間の指導計画を立て、模擬授業ができるように高める。さらに、書写の基本点画や硬筆に生かす毛筆の指導法について実習を通して体験的に学べるようにする。</p> <p>【到達目標】 小学校高学年国語科の目標及び内容をふまえて、教科書教材をもとに自力で教材を研究し、指導計画を立案し、授業を行うことができるようにする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ガイダンス(授業の概要及び目標・計画について) 〈第2回〉小学校国語科の第4学年～第6学年までの目標と内容構成について 〈第3回〉第4学年「よりよい学級会をしよう」(光村図書「話すこと・聞くこと」領域)の教材研究 〈第4回〉第4学年「よりよい学級会をしよう」(光村図書「話すこと・聞くこと」領域)の模擬授業 〈第5回〉第6学年「学校の良さを宣伝しよう」(東京書籍「話すこと・聞くこと」領域)の教材研究 〈第6回〉第6学年「学校の良さを宣伝しよう」(東京書籍「話すこと・聞くこと」領域)の模擬授業 〈第7回〉第5学年「グラフや表を引用して書こう」(光村図書「書くこと」領域)の教材研究 〈第8回〉第5学年「グラフや表を引用して書こう」(光村図書「書くこと」領域)の模擬授業 〈第9回〉第6学年「子ども句会を開こう」(東京書籍「書くこと」領域)の教材研究</p> <p>〈第10回〉第6学年「子ども句会を開こう」(東京書籍「書くこと」領域)の模擬授業 〈第11回〉第6学年「海の命」(光村図書「読むこと」領域)の教材研究と指導計画作成 〈第12回〉第6学年「海の命」(光村図書「読むこと」領域)の単位時間ごとの指導案作成 〈第13回〉第6学年「海の命」(光村図書「読むこと」領域)の模擬授業 〈第14回〉書写の指導について「横画・縦画・払い・折れ・はね・曲がり・点・結び」 〈第15回〉書写の指導について「硬筆に生きる毛筆の学習指導」</p> <p>【授業方法】 教材研究と模擬授業を行う。教材文については、授業当日までに一通り目を通し、疑問点をもって授業に臨む。できれば疑問点についての自分なりの考えをもっていると、授業はより密度の高いものになる。その疑問点を基に、どんな発問をすると、どんな児童の反応があるのかを想定して、授業のねらいに沿った発問を考えることができるようにする。模擬授業を見たり、実際に経験したりすることにより、授業感覚をつかむ。毛筆の実習では、骨書き法や箱書き法などの基本的な指導法を体験的に学ぶ。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	社会科教育法Ⅰ	<p>【概要】 本授業は、小学校社会科授業に関する基礎的な力を養成することを目標とする。『学習指導要領解説 社会編』の概要・目標・内容と共に特に、小学校社会科の各学年の目標、内容、留意点に関して、モデル授業案を参照し、全体のカリキュラムの中に総合的に位置づけながら、従来の授業内容と教材の扱い方の見直し、自らの視点から授業を構成する力を育てる。また、学年テーマごとに学習指導案の作成、模擬授業やディスカッションを行い、総合的な授業構成力を身につける。</p> <p>【到達目標】 小学校社会科授業について、各学年で取り扱われるテーマごとに学習指導案や教材の検討・模擬授業やディスカッションを行い、授業観、教材観を養う。最終的には受講者それぞれがオリジナルの学習指導案を作成できる力を養う。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業紹介と導入、「社会科」とは何か。〈第2回〉学習指導要領の構造と課題。「社会認識」とは-今日的課題- 〈第3回〉小学校社会科・学習指導要領における目標と内容 〈第4回〉小学校3・4年生の社会科授業① 学習指導要領 3・4年生の目標と内容 〈第5回〉小学校3・4年生の社会科授業② 身近な地域の地図と子どもの空間認識「地図記号」 〈第6回〉小学校3・4年生の社会科授業③ 「地図を作ろう」の授業 〈第7回〉小学校3・4年生の社会科授業④ 「私たちの住む都道府県」-日本の中の関係と位置 〈第8回〉小学校5年生の社会科授業① 学習指導要領5年生の目標と内容 〈第9回〉小学校5年生の社会科授業② 日本の諸地域 寒冷地の人々の暮らし 〈第10回〉小学校5年生の社会科授業③ 日本の諸地域 南の地方の人々の暮らし 〈第11回〉小学校5年生の社会科授業④ 日本の産業と世界とのかかわり 〈第12回〉小学校6年生の社会科授業① 学習指導要領6年生の目標と内容 〈第13回〉小学校6年生の社会科授業② 歴史認識と社会科学習 〈第14回〉小学校6年生の社会科授業③ 世界の中の日本 〈第15回〉まとめと課題</p> <p>【授業方法】 概要と基本理念を講義した後、小学校社会科の各学年の授業で取り扱われる具体的なテーマについて講義を行う。それぞれのテーマについて基本事項を押さえ、教材や学習指導案を検討し、授業構成力を養う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	社会科教育法Ⅱ	<p>【概要】本授業は、社会科教育法Ⅰの基礎の上に、社会科授業実践力を養成することを目標とする。『学習指導要領解説 社会編』の概要・目標・内容と共に特に、社会科で取り上げられる各々の授業テーマについて、全体のカリキュラムの中に総合的に位置づけながら、従来の授業内容と教材の扱い方の見直しを図り、自らの視点から授業を構成する力を育てる。</p> <p>【到達目標】社会科授業で取り扱われるテーマごとに教材検討・模擬授業やディスカッションを行い、意見表明力や合意形成力に関する理解を深め、授業観、教材観を養う。最終的には受講者それぞれがオリジナルの学習指導案を作成できる力を養う。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉授業紹介と導入、今日の「社会科」授業の動向〈第2回〉学習指導要領改訂をめぐって-最新の教育実践と今日的課題-〈第3回〉グローバルズムと社会科教育、外国の教科書と日本の教科書①〈第4回〉グローバルズムと社会科教育、外国の教科書と日本の教科書②〈第5回〉グローバルズムと社会科教育、異なる価値観を持つ人たちにどんな授業ができるか〈第6回〉「1枚の絵から」-画像資料から展開する社会科授業〈第7回〉視聴覚資料と社会科①〈第8回〉視聴覚資料と社会科②〈第9回〉視聴覚資料とワークシート-ワークシートを作る〈第10回〉社会科の学習指導案を作る①〈第11回〉社会科の学習指導案を作る②〈第12回〉社会科の学習指導案を作る③〈第13回〉社会科の学習指導案を作る④〈第14回〉社会科の学習指導案を作る④ 発表 〈第15回〉課題と展望</p> <p>【授業方法】概要と基本理念を講義した後、社会科の授業で取り扱われる具体的な教材について講義を行う。それぞれのテーマについて基本事項を押さえた後、授業者によるモデル授業を行う。受講者はそれらについてディスカッションを行い、授業検討を行う。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	算数科教育法Ⅰ	<p>【概要】算数教育では、既習の学習事項を結集してその児童なりに新しい課題に迫っていくのが基本である。従って、雑多な知識を並列的・断片的に覚えさせるのではなく、児童一人一人に、既習の学習事項を生かして新しい学習課題の解決方法を生み出していく「転移力」をもたせることが大切である。転移力をもたせるために、「授業ブロック」の考え方が有効であることを体得させる。</p> <p>児童が主体的に学ぶことができる授業の進め方・指導技術についても、実践を通して学ばせる。</p> <p>※「授業ブロック」とは、簡潔で記憶が長持ちし、広く活用できる《考えを生み出す原動力となる手法》と《手法を手掛かりとして導き出される最も合理的な処理の仕方》を確立させるために、第一段階「誤りのある考え方を学習素材として位置付けた授業」と、第二段階「類似問題を中心とする授業」と、第三段階「児童の自作問題による学び合いを中心とする授業」とをセットにしたもの。</p> <p>【到達目標】・児童一人一人が算数に対する興味関心をもち主体的に学習に取り組めるような指導方法を学ばせる。 ・児童が転移力をもつための有効な指導方法を学ばせる。 ・一人一人の児童を大切にし、個に応じた指導方法を学ばせる。</p> <p>以上のような指導方法を学ばせることによって、学生に、自ら調べ・考え・発表し・討議し、実践することを身に付けさせる。</p> <p>【授業計画】〈第1回～第3回〉事前準備学習「算数に関わる文献を読み、内容と感想をまとめる」について、プレゼンテーションをさせる。〈第4回〉授業ブロックの考え方を、算数科の指導目標とも関連させて理解させる。〈第5回～第6回〉「誤りのある考え方を学習素材として位置付けた授業」について、誤りのある考え方を取り上げる観点と指導方法を討議し、理解させる。〈第7回〉「類似問題を中心とする授業」について、指導方法と留意事項等を討議し、理解させる。〈第8回〉「児童の自作問題による学び合いを中心とする授業」について、問題作成の観点と指導方法、留意事項等を討議し、理解させる。〈第9回〉授業ブロックで活用できる「学習カード」を作成させ、検討し合わせる。より有効な学習カードと活用方法を構築させる。〈第10回〉バズ活動を実践し、その利点と留意事項を体得させる。〈第11回～第15回〉グループごとに、授業の実践計画を話し合い、先生役・児童役・観察役に分かれ、授業実践をさせる。授業の反省と今後の課題について話し合い、算数科教育法の理解を深めさせる。</p> <p>【授業方法】問答形式や実習を取り入れ、学生が主体的積極的に動く授業を行う。学生同士が協力して課題解決をする場面を設定する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目	教育方法の分野	算数科教育法Ⅱ
			<p>【概要】算数の授業を行うとき、教科書や指導書、参考文献や研究物等で学習し、児童の実態に合わせて指導計画を立てることが必要である。また、確かな指導技術や、児童一人一人を大切に生かそうとする心をもつことが求められる。</p> <p>個に応じた授業形態、教材研究や評価、学習指導案等について、学生一人一人が主体的に活動する場面を取り入れながら学び、身に付けさせる。授業実践を通して算数を指導する楽しさを味わわせ、自信をもって教壇に立てるようにする。</p> <p>なお、実際の授業の中で活用したり参考にしたたりできる資料を、適宜提供する。</p> <p>【到達目標】算数の具体的な教育方法について学ばせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領、指導書等の文献研究 ・有効な授業形態（少人数指導、TT、習熟度別指導等） ・教材研究と学習指導案作成 ・授業実践 ・視聴覚機器の活用 <p>上記の学習を通して、学生に研究の仕方、学び方を身に付けさせる。さらに、算数教育の究極のねらいは人間教育であることを実感させる。</p> <p>【授業計画】〈第1回～第2回〉少人数指導、TT、習熟度別指導等について、理解を深めさせる。〈第3回～第4回〉教材研究の内容を、参考文献等で調べさせる。教材研究を実践し、発表し、討議し合い、教材研究の方法を学ばせる。〈第5回〉学習指導案の主旨と書き方について学ばせる。〈第6回～第7回〉仮想指導案を作成させる。グループ別で仮想指導案を検討し、修正させる。全体の場で発表し改良させる。〈第8回〉代表の学生に授業を実践させる。〈第9回〉DVDで授業風景を鑑賞させる。「観察カード」をもとに感想を話し合う。〈第10回～第14回〉グループごとに指導案の作成、教材教具の作成、ワークシートの作成等を行い、授業実践をさせ、その都度、事後検討会を行う。〈第15回〉授業のまとめをする。教師になる自覚をもたせる。</p> <p>【授業計画】課題について学生一人一人が自分で調べ、発表し、検討し合い、再度調べること、課題についての理解を確かなものにさせる授業を取り入れる。</p> <p>教師の一方的な講義で結論を習熟させる授業ではなく、帰納的な手法と演繹的な手法を組み合わせた授業を行う。</p>
専門科目	展開応用科目	教育方法の分野	理科教育法Ⅰ
			<p>【概要】小学校の理科教育上の課題として、動機づけ、子どもの学び、探求活動のつくり、教材の取り上げ方、教育評価法などに対し理解することができる。一連の各課題に対して考察し、小学校の理科教育について理論的基礎を身につける。</p> <p>【到達目標】理科の果たすべき役割や課題について検討していく。特に、近年の理科教育の変化を中心に、理科教育実践上の問題として、動機づけ、子どもの学び、探求活動のつくり、教材の取り上げ方、理科を好きにさせる方法、教育評価、これからの課題などについて、小学校の理科教育についての考えをまとめていく。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉オリエンテーション 理科教育の意義 〈第2回〉日本の理科教育の歴史（小学校、中学校、高等学校学習指導要領の変遷） 〈第3回〉小学校理科教育の目的 〈第4回〉理科授業の進め方 観察・実験の位置づけ 〈第5回〉理科の授業評価と到達度評価 〈第6回〉理科学習指導案の作成と検討 〈第7回〉理科の教材研究の視点 〈第8回〉理科の授業と情報機器・情報教材 〈第9回〉授業技術と安全指導 〈第10回〉科学史と理科教育史 〈第11回〉小学校理科における課題選択学習 〈第12回〉小学校理科における環境教育 〈第13回〉小学校におけるエネルギー教育 〈第14回〉小学校理科教員の養成・教育実習 〈第15回〉まとめ：今後の理科教育についての展望○理科学習指導の実践（導入と展開についての実践）</p> <p>【授業方法】講義主体（質疑応答・演習を含む）。プリント・資料を提示して説明する。プリントには「課題」があるから、事後にこれを参照して復習する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目	教育方法の分野 理科教育法Ⅱ	<p>【概要】 小学校の理科教育上の課題として、動機づけ、子どもの学び、探求活動のつくり、教材の取り上げ方、教育評価法などに対し理解することができる。一連の各課題に対して考察し、小学校の理科教育について理論的基礎への理解を深める。</p> <p>【到達目標】 小学校理科の果たすべき役割や課題について検討していく。科学の性格と児童の自然認識の特徴から、小学校理科の授業をどのように組み立てればよいか理解する。小学校の理科教育についての考えを深めていく。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション 理科教育の目的と小学校理科の目標 〈第2回〉実感を伴った理解を図る理科学習 〈第3回〉理科教育の基盤としての自然体験・自然認識 〈第4回〉理科における言語活動の充実 〈第5回〉理科学習の評価と授業実践 〈第6回〉理科の授業と野外観察 〈第7回〉理科の授業と安全指導 〈第8回〉理科授業づくりの基礎・基本① 〈第9回〉理科授業づくりの基礎・基本② 〈第10回〉学習指導要領と理科の目標・内容① 〈第11回〉学習指導要領と理科の目標・内容② 〈第12回〉理科学習指導案の構成と構造 〈第13回〉理科学習指導案の作成と討議① 〈第14回〉理科学習指導案の作成と討議② 〈第15回〉まとめ：小学校で理科を指導する教員としての資質・能力〇理科学習指導の実際（導入と展開についての実践）</p> <p>【授業方法】 講義主体（質疑応答・演習を含む）。プリント・資料を提示して説明する。プリントには「課題」があるから、事後にこれを参照して復習する。</p>	
専門科目 展開応用科目	教育方法の分野 生活科教育法	<p>【概要】 学習指導要領の解説書を基にしながら、学習指導要領がねらっている生活科の目標と内容等についての理解を深める。 生活科の具体的な内容について、実際の授業の様子を写真やVTRなどの資料で把握し、生活科の授業のあらましについて理解を深める。 具体的な単元の授業計画を仮想して作成したり、特定の1時間について仮想指導案を作成したりして実際の生活科授業の進め方について具体的に思い描くことができるようにする。</p> <p>【到達目標】 学習指導要領で示された生活科の目標と内容についての理解を深めると共に、実際の授業の進め方について具体的に思い描くことができるようにする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉生活科創設までの経緯 〈第2回〉生活科と総合的な学習について 〈第3回〉生活科でめざす児童像（生活科の目標） 〈第4回〉生活科の学年目標と内容構成の視点 〈第5回〉生活科の内容について（学校と生活、家庭と生活、地域と生活、公共物や公共施設の利用、季節の変化と生活、自然や物を使ったあそび、動物や植物の飼育と栽培、自分の成長）① 〈第6回〉生活科の内容について② 〈第7回〉生活科の内容について③ 〈第8回〉生活科の指導の実際（活動意欲の持たせ方、情報交換のさせ方、表現のさせ方、問題解決のさせ方、支援の仕方）① 〈第9回〉生活科の指導の実際② 〈第10回〉生活科の指導の実際③ 〈第11回〉生活科の単元構成の仕方（具体的な単元にあてはめて）① 〈第12回〉生活科の単元構成の仕方② 〈第13回〉生活科の指導案の書き方（具体的な1時間を設定して）① 〈第14回〉生活科の指導案の書き方② 〈第15回〉小論文</p> <p>【授業方法】</p>	
専門科目 展開応用科目	教育方法の分野 音楽科教育法	<p>【概要】 学校における音楽科教育は、「表現」及び「鑑賞」の2領域の学習指導を通して、子どもの音楽に対する愛好心や感性を高めながら、音楽能力の伸長とともに人格形成のうえで特に心情面の陶冶を図ることを目指して展開される。しかし、教師の人格や指導力、また、教師主導や技能偏重等の学習による子どもの学校音楽離れが問題点として度々報告されている。本授業では、近年の音楽教育の動向を概観するとともに、学習指導要領に示された音楽科目標、学年目標をふまえた表現と鑑賞の指導展開のあり方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 音楽の指導内容の構成と教材選択、学習指導案の作成、指導展開の方法、評価とその活用等について、資料を基に音楽指導の方法を身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉音楽教育と音楽科教育 〈第2回〉音楽科の目標と人間形成 〈第3回〉学年目標と子どもの発達 〈第4回〉音楽科の領域と内容 〈第5回〉年間指導計画の立案 〈第6回〉指導内容の構成と教材 〈第7回〉教材選択の視点 〈第8回〉指導と評価計画 〈第9回〉学習指導案の作成Ⅰ 〈第10回〉学習指導案の作成Ⅱ 〈第11回〉指導の場における留意事項 〈第12回〉学習指導展開の方法Ⅰ 〈第13回〉学習指導展開の方法Ⅱ 〈第14回〉評価の方法とその活用 〈第15回〉学習のまとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心に展開するが、テキストを参考にした小学校音楽学習指導案の作成や教材の表現や鑑賞に関する演習も織り交ぜて進める。また、実際の現場における音楽指導場面のVTRの視聴による討論を通して音楽授業の方法を考える。各授業では、学習内容についての疑問点や感想等を整理した小レポートを毎回提出する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	図画工作科教育法	<p>【概要】小学校教育における図画工作科のねらいを知り、教材や指導法を学ぶとともに、教科指導の基礎能力を養う。図画工作科のねらいについては、学習指導要領を手引きとしたり、子どもの造形能力の発達の道筋を理解したりする中で履修する。また、教材や教具の知識及び活用法の理解を図るとともに、造形実習の経験をする中で小学校における授業実践を意識した指導法や指導案作成を合わせて考えていく。</p> <p>【到達目標】小学校の図画工作科の教材研究を行う基礎的能力を養う。図画工作科教育が児童に果たす役割についての理解を深める。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉 オリエンテーション〈第2回〉 児童の発達段階と造形 1〈第3回〉 児童の発達段階と造形 2〈第4回〉 学習指導要領の中の図画工作科〈第5回〉 教材研究(平面) 1 〈第6回〉 教材研究(平面) 2〈第7回〉 教材研究(平面) 3〈第8回〉 小学校における指導法 1〈第9回〉 教材研究(立体) 1〈第10回〉 教材研究(立体) 2 〈第11回〉 教材研究(立体) 3〈第12回〉 小学校における指導法 2〈第13回〉 教材研究(美術作品鑑賞)〈第14回〉 小学校における指導法 3〈第15回〉 小学校における指導法 4(まとめ)</p> <p>【授業方法】 講義を中心に進めるが、教材研究として、実技や発表を実際に受講生は取り組む場面を予定している。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	家庭科教育法	<p>【概要】小学校家庭科の目標及び内容を踏まえ、学習指導に必要な基礎的な知識・技能を講義や実習で学ぶ。</p> <p>児童のよさを生かし主体的な学びを促すために、指導計画の作成、指導内容の構成、教材選択・教具の活用、評価の工夫等を学び、学習指導案を作成する。また、学習環境の整備、家庭との連携や地域に応じた学習の工夫など、家庭科学習を効果的に進める観点での学習も深める。</p> <p>それらの学習を通して、よりよい生活に向けて学び続ける児童の育成を目指した小学校家庭科指導の実践的な能力を養う。</p> <p>【到達目標】 児童一人一人のよさを生かした家庭科の学習指導案を作成し、検討ができる。</p> <p>学習環境の整備ができ、学習のねらいにあった教材・教具を工夫できる。</p> <p>家庭科の指導内容と実践的・体験的な学習の進め方、生活の課題を解決する学習の流れを基本にした学習指導を理解し、学習指導案の作成に生かすことができる。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉 家庭科教育のねらい〈第2回〉 小・中学校家庭科の目標・内容と系統性〈第3回〉 家庭科の年間指導計画の作成〈第4回〉 家庭科の題材構成と教材教具の工夫〈第5回〉 生活の指導と留意事項〈第6回〉 食生活の指導と留意事項〈第7回〉 住生活の指導と留意事項〈第8回〉 家庭・家族に関する指導と留意事項〈第9回〉 観察・調査・実験・実習等学習指導の展開〈第10回〉 児童のよさを生かす学習指導の工夫〈第11回〉 地域の実態に応じた学習指導の工夫〈第12回〉 家庭との連携、課題を解決する学習指導の工夫〈第13回〉 学習指導案の作成と検討〈第14回〉 学習指導案による授業の展開〈第15回〉 授業の評価とまとめ</p> <p>【授業方法】 講義 演習(学習指導案による授業展開) 実習(教材・教具の作成)</p>	
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	体育科教育法	<p>【概要】 小学校学習指導要領における体育科の目標及び内容、指導計画作成等の要点をふまえ、児童の発達段階に応じた指導法を学び、体育科の究極的な目標である「楽しい明るい生活を営む態度を育てる」ことをめざす教師としての資質や能力を身につけることができるようにする。</p> <p>【到達目標】 小学校学習指導要領にそって体育科の目標や内容、その指導法を明らかにし、各学年の各運動領域や保健領域の授業づくりの基本的な考え方や進め方を理解できるようにする。具体的に創意工夫して学習指導ができるように実際の授業ビデオも視聴して学ぶ。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 オリエンテーション(小学校体育科教育法の方向づけ)〈第2回〉 小学校学習指導要領 体育編について〈第3回〉 体育科の目標及び内容・指導計画作成等の要点〈第4回〉 子どもの心と体(1)〈第5回〉 子どもの心と体(2)〈第6回〉 第1学年の目標及び内容とその指導の実際〈第7回〉 第2学年の目標及び内容とその指導の実際〈第8回〉 第3学年の目標及び内容とその指導の実際〈第9回〉 第4学年の目標及び内容とその指導の実際〈第10回〉 第5学年の目標及び内容とその指導の実際〈第11回〉 第6学年の目標及び内容とその指導の実際〈第12回〉 保健領域の指導〈第13回〉 学習指導案の作成について〈第14回〉 体育科における評価〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 講義形式・ビデオ視聴で行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	外国語活動教育法	<p>【概要】小学校における外国語活動の学習指導は、担任教師とALTや英語に堪能な地域人材とのチーム・ティーチングによって行なわれるというのが基本である。しかし中には英語に対する苦手意識から、できれば外国語活動を担当したくないといった消極的な態度を示す教師もいるのが現状である。しかし外国語活動の目的を考えれば、担任教師に求められる役割とは英語そのものの指導というわけではなく、あくまで「英語活動」の指導であることとわかる。つまり、英語活動において学級をマネジメントできる担任教師の役割は重要であり、常に子どもの側に立ち、子どもの興味・関心を維持し、安心して活動ができるような環境作りに対する指導力が求められているのである。また、異文化や外国語にどのように接するかというモデルを自ら率先して子どもたちに見せるということも大きな役割のひとつである。そのためには、小学校の教員免許状取得を目指すものは、外国語活動の教材である『英語ノート』の目的・内容を理解し、活動プランを立て、実践を通して、外国語活動における担任教師の役割を十分に把握しておく必要がある。</p> <p>【到達目標】『英語ノート1・2』を利用し、模擬授業の実施、授業分析、検討を通して外国語活動の目的や担任教師の役割を体験的に把握するとともに、指導力の向上をめざす。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉オリエンテーション、『英語ノート1』Lesson1～3の解説〈第2回〉『英語ノート1』Lesson1～3の実践〈第3回〉『英語ノート1』Lesson1～3の分析・検討〈第4回〉『英語ノート1』Lesson4～6の解説〈第5回〉『英語ノート1』Lesson4～6の実践〈第6回〉『英語ノート1』Lesson4～6の分析・検討〈第7回〉『英語ノート1』Lesson7～9の解説〈第8回〉『英語ノート1』Lesson7～9の実践〈第9回〉『英語ノート1』Lesson7～9の分析・検討〈第10回〉『英語ノート2』Lesson1～5の解説〈第11回〉『英語ノート2』Lesson1～5の実践〈第12回〉『英語ノート2』Lesson1～5の分析・検討〈第13回〉『英語ノート2』Lesson6～9の解説〈第14回〉『英語ノート2』Lesson6～9の実践〈第15回〉『英語ノート2』Lesson6～9の分析・検討〈第16回〉定期試験</p> <p>【授業方法】活動プランの作成と模擬授業をベースに行う。授業分析・ディスカッションを通して指導力を育成する。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	道徳教育指導論（小学校）	<p>【概要】現代の社会状況の中で道徳にかかわる様々な問題が指摘され、道徳教育の充実が大きな課題となっている。道徳教育は、一人ひとりが人間らしく生きる能力を獲得するための基本的な学習である。また安定した社会を維持し発展していくためにも欠くことのできない重要な教育であり、特に学校に対する期待度は、大きなものがあるといえよう。</p> <p>【到達目標】学校の全教育活動を通じて行われる道徳教育の意義・役割・内容・道徳教育の中核を占める道徳の時間の指導のあり方について、論理的な研究をすすめ、学校教育における道徳教育の果たす役割の大きさを習得する。</p> <p>【授業計画】〈第1回～第8回〉1. 道徳教育の変遷、意義、本質を理解し、道徳教育の基本的な在り方を探究する。2. 道徳性の発達と道徳教育について、関連を明確にする。3. 生徒をとりまく社会の変化と道徳教育について考察する。4. 道徳教育と心の教育とのかかわりを究明する。〈第9回～第12回〉5. 各教科、特別活動、他の活動との関連かつ道徳指導の役割を位置づける。6. 道徳の指導の内容構成を明確にし、それぞれの内容の性格と意図を究明する。(1) 道徳の目標（道徳教育・道徳の時間）、指導内容と取り扱い方(2) 内容項目の指導の観点(3) 道徳教育の全体計画と道徳の時間の指導計画(4) 道徳の時間の指導7. 学習指導案作成と指導方法を、実践事例から把握し、指導上の問題点を探究する。〈第13回～第15回〉8. 道徳教育における学校、家庭、地域社会の三者の連携について考察し、道徳教育と人権教育、道徳教育といじめ・問題行動の防止について究明する。「まとめ」。</p> <p>【授業方法】・講義形態を主体とする。 ・講義内容のまとめ小レポートを提出する。（評価に加算） ・授業者の経験や体験を授業内にとり入れる。 ・学校現場教師の実践の資料を活用する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	道徳教育指導論（中・養）	<p>【概要】現代の社会状況の中で道徳にかかわる様々な問題が指摘され、道徳教育の充実が大きな課題となっている。道徳教育は、一人ひとりが人間らしく生きる能力を獲得するための基本的な学習である。また安定した社会を維持し発展していくためにも欠くことのできない重要な教育であり、特に学校に対する期待度は、大きなものがあるといえよう。</p> <p>【到達目標】学校の全教育活動を通じて行われる道徳教育の意義・役割・内容・道徳教育の中核を占める道徳の時間の指導のあり方について、論理的な研究をすすめ、学校教育における道徳教育の果たす役割の大きさを習得する。</p> <p>【授業計画】<第1回～第8回>1. 道徳教育の変遷、意義、本質を理解し、道徳教育の基本的な在り方を探究する。2. 道徳性の発達と道徳教育について、関連を明確にする。</p> <p>3. 生徒をとりまく社会の変化と道徳教育について考察する。4. 道徳教育と心の教育とのかかわりを究明する。<第9回～第12回>5. 各教科、特別活動、他の活動との関連かつ道徳指導の役割を位置づける。6. 道徳の指導の内容構成を明確にし、それぞれの内容の性格と意図を究明する。(1) 道徳の目標（道徳教育・道徳の時間）、指導内容と取り扱い方(2) 内容項目の指導の観点(3) 道徳教育の全体計画と道徳の時間の指導計画(4) 道徳の時間の指導7. 学習指導案作成と指導方法を、実践事例から把握し、指導上の問題点を探究する。<第13回～第15回>8. 道徳教育における学校、家庭、地域社会の三者の連携について考察し、道徳教育と人権教育、道徳教育といじめ・問題行動の防止について究明する。「まとめ」。</p> <p>【授業方法】・講義形態を主体とする。 ・講義内容のまとめ-小レポートを提出する。（評価に加算） ・授業者の経験や体験を授業内にとり入れる。 ・学校現場教師の実践の資料を活用する。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	特別活動論（小学校）	<p>【概要】「教育課程」における「特別活動」の特性及び重要性を認識し、「社会の一員」として必要な資質の基礎基本をわかまえる。主体的に社会の形成に参画し有意義に生きるに必要な「生きる力」あるいは「人間としての在り方生き方」の基礎基本を実践的に体得すべき場としての「特別活動」について理解を深める。活動の各領域における展開の在り方と諸問題について「学習指導要領」に準拠しながら、事例的に学ぶ。活動を適切に指導に必要な実践的指導力についてわかまえる。</p> <p>【到達目標】「学習指導要領」に準拠し「教育課程」における「特別活動」の「役割」の重要性を知る。特別活動の「特性と教育的意義」「内容と展開」「配慮事項」について理解を深める。</p> <p>「特色ある学校」「創意工夫を生かした教育活動」「学校の活性化」と特別活動のかかわりを認識する。</p> <p>「生きる力」「人間としての在り方生き方」の指導とのかかわりも理解する。</p> <p>【授業計画】<第1回>「学習指導要領」における「教育課程」と「特別活動」<第2回>「特別活動」の「目的・目標・特質」と「教育的意義」<第3回>「各教科等との関連性」からみた「特別活動の役割及び位置づけ」<第4回>「特別活動の内容」<第5回>「学級活動・ホームルーム活動」と「学級経営」<第6回>「生徒会活動の実際」と「指導性の在り方」<第7回>「学校行事」の「種類とねらい」「展開」と「配慮事項」<第8回>「学校行事」と「学級経営・学年経営」及び「特色ある学校づくり」<第9回>「部活動」と「学校教育の活性化」<第10回>「生徒指導」「ガイダンス機能」「すべての教育活動を通して行う内容」と「特別活動」<第11回>「生きる力」及び「人間としての在り方生き方」の指導と「特別活動」<第12回>「生きる力」及び「人間としての在り方生き方」の指導と「特別活動」<第13回>「特別活動」の「指導計画・シナリオ化・演出」の「創意工夫」<第14回>「生徒の自発性・主体性」と「教師の指導性」<第15回>「まとめ」</p> <p>【授業方法】講義を軸としながらも、できるだけ具体的、事例的にイメージ化して講ずる。学生が当事者意識をもち、シミュレーション的に思考しながら理解を深めるようにすすめる。学習指導要領の主要事項については、中間テストなどで定着を図る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	特別活動論(中・高・養)	<p>【概要】 「教育課程」における「特別活動」の特性及び重要性を認識し、「社会の一員」として必要な資質の基礎基本をわきまえる。主体的に社会の形成に参画し有意義に生きるに必要な「生きる力」あるいは「人間としての在り方生き方」の基礎基本を実践的に体得すべき場としての「特別活動」について理解を深める。活動の各領域における展開の在り方と諸問題について「学習指導要領」に準拠しながら、事例的に学ぶ。活動を適切に指導するために必要な実践的指導力についてわきまえる。</p> <p>【到達目標】 「学習指導要領」に準拠し「教育課程」における「特別活動」の「役割」の重要性を知る。特別活動の「特性と教育的意義」「内容と展開」「配慮事項」について理解を深める。</p> <p>「特色ある学校」「創意工夫を生かした教育活動」「学校の活性化」と特別活動のかかわりを認識する。</p> <p>「生きる力」「人間としての在り方生き方」の指導とのかかわりも理解する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 「学習指導要領」における「教育課程」と「特別活動」<第2回> 「特別活動」の「目的・目標・特質」と「教育的意義」<第3回> 「各教科等との関連性」からみた「特別活動の役割及び位置づけ」<第4回> 「特別活動の内容」<第5回> 「学級活動・ホームルーム活動」と「学級経営」<第6回> 「生徒会活動の実際」と「指導性の在り方」<第7回> 「学校行事」の「種類とねらい」「展開」と「配慮事項」<第8回> 「学校行事」と「学級経営・学年経営」及び「特色ある学校づくり」<第9回> 「部活動」と「学校教育の活性化」<第10回> 「生徒指導」「ガイダンス機能」「すべての教育活動を通して行う内容」と「特別活動」<第11回> 「生きる力」及び「人間としての在り方生き方」の指導と「特別活動」<第12回> 「生きる力」及び「人間としての在り方生き方」の指導と「特別活動」<第13回> 「特別活動」の「指導計画・シナリオ化・演出」の「創意工夫」<第14回> 「生徒の自発性・主体性」と「教師の指導性」<第15回> 「まとめ」</p> <p>【授業方法】 講義を軸としながらも、できるだけ具体的、事例的にイメージ化して講ずる。学生が当事者意識をもち、シミュレーション的に思考しながら理解を深めるようにすすめる。学習指導要領の主要事項については、中間テストなどで定着を図る。</p>	
専門科目 展開応用科目 教育方法の分野	教育方法・技術論(幼・小)	<p>【概要】 教員として必要な、基礎的な教育の方法と技術の知識・技能として、教育方法・技術の背景にある学習理論、授業計画理論、授業研究のアプローチ、教材研究、授業評価などについて具体的な事例にそくして学習する。また、教育技術の基本であるプレゼンテーションの実習を伴う学習を行う。</p> <p>【到達目標】 これらの学習により、教員として必要とされる知識、理論、技能を修得する。</p> <p>【授業計画】 <第1回>授業の全体的な構造、授業方法、レポート課題、受講生に必要とされる準備などオリエンテーションをおこなう。グループの編成をおこなう。<第2回>現代の学校、家庭をとりまく教育状況について学習をする。<第3回>日本における教育方法の歴史の概略と代表的な学習理論の概要を学習する。<第4回>学習指導要領の変遷と構造を学習する。<第5回>問題解決学習の理論と論争について学習する。<第6回>教育技術の基本であるプレゼンテーションの技能について学習する。<第7回>問題解決学習の実践「関わり合いをはぐくむ生活科」の具体的展開について学習する。<第8回>問題解決学習の実践「関わり合いをはぐくむ生活科」について分析する。その分析の成果を発表し、授業実践の問題点とその解決方法について学習する。<第9回>問題解決学習の実践「荒れる子どもを生かす授業」の具体的展開について学習する。<第10回>問題解決学習の実践「荒れる子どもを生かす授業」について分析する。その分析の成果を発表し、授業実践の問題点とその解決方法について学習する。<第11回>授業計画の方法と技術を学習する。<第12回>カルテと座席表授業案の作成の方法と技術を学習する。<第13回>授業研究の具体的事例の検討を通して、授業研究の方法と技術を学習する。(その1)<第14回>授業研究の具体的事例の検討を通して、授業研究の方法と技術を学習する。(その2)<第15回>授業分析の方法と技術を学習する。</p> <p>【授業方法】 授業方法は、講義、学生のプレゼンテーション、学生相互の討論、および協同学習によるグループ学習を適宜組み合わせ合わせた授業方法でおこなう。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目	教育方法の分野 教育方法・技術論 (中・高・養)	<p>【概要】教員として必要な、基礎的な教育の方法と技術の知識・技能として、教育方法・技術の背景にある学習理論、授業計画理論、授業研究のアプローチ、教材研究、授業評価などについて具体的な事例にそくして学習する。また、教育技術の基本であるプレゼンテーションの実習を伴う学習を行う。</p> <p>【到達目標】これらの学習により、教員として必要とされる知識、理論、技能を修得する。</p> <p>【授業計画】<第1回>授業の全体的な構造、授業方法、レポート課題、受講生に必要とされる準備などオリエンテーションをおこなう。グループの編成をおこなう。<第2回>現代の学校、家庭をとりまく教育状況について学習をする。<第3回>日本における教育方法の歴史の概略と代表的な学習理論の概要を学習する。<第4回>学習指導要領の変遷と構造を学習する。<第5回>問題解決学習の理論と論争について学習する。<第6回>教育技術の基本であるプレゼンテーションの技能について学習する。<第7回>問題解決学習の実践「関わり合いをはぐむ生活科」の具体的展開について学習する。<第8回>問題解決学習の実践「関わり合いをはぐむ生活科」について分析する。その分析の成果を発表し、授業実践の問題点とその解決方法について学習する。<第9回>問題解決学習の実践「荒れる子どもを生かす授業」の具体的展開について学習する。<第10回>問題解決学習の実践「荒れる子どもを生かす授業」について分析する。その分析の成果を発表し、授業実践の問題点とその解決方法について学習する。<第11回>授業計画の方法と技術を学習する。<第12回>カルテと座席表授業案の作成の方法と技術を学習する。<第13回>授業研究の具体的事例の検討を通して、授業研究の方法と技術を学習する。(その1)<第14回>授業研究の具体的事例の検討を通して、授業研究の方法と技術を学習する。(その2)<第15回>授業分析の方法と技術を学習する。</p> <p>【授業方法】 授業方法は、講義、学生のプレゼンテーション、学生相互の討論、および協同学習によるグループ学習を適宜組み合わせ合わせた授業方法でおこなう。</p>	
専門科目 展開応用科目	教育方法の分野 生徒指導論 (進路指導論を含む) (小学校)	<p>【概要】教育とは不易と流行であると言われていました。不易とは時代社会を超えて、人間としてのあり方、生き方を学ぶこと、流行とは社会環境の中で教育環境の整備、社会との接し方を学ぶことです。教育は常に、時代を背負って歩んでいます。その時代の要請により、あるいは対象として子供への見方、考え方により教育のあり方も変化します。子供という存在をどう見るかは、いわゆる子供 (幼児・児童以下子供と言う) 観の問題であるが社会の進展に伴って大きく変化し、それはまた、教育やしつけの方向を支配する。歴史的には、子供観の移り変わりは3つ程の変化があります。第一は、19世紀末までの古い社会を支配してきた封建的な児童観である。第二は、20世紀初頭の子供中心主義の子供観。第三は、現在の民主的児童観です。</p> <p>生徒指導を含むあらゆる教育活動は、教育基本法でいう「人格の完成」であり、この目的の達成を目指し子供の知・情・意、特に情・意方面の価値の形成に関する分野を学ぶことです。</p> <p>【到達目標】一人ひとりの子供の持つ特性、即ち諸条件キャラクター、環境、生育歴及び将来のキャリアプランに即して、現在の生活に適応し、個性を伸長させ、その所属する集団生活の向上を図ると共に、集団の成員として生活を充実させ、更に将来において社会のより良き発展を図ると共に、その中で自己実現ができるよう資質・態度を形成していく為の指導や援助ができる基本的な事柄の習得を旨とする。</p> <p>【授業計画】<第1回>生徒指導の原理 <第2回>生徒指導の意味 <第3回>生徒指導の今日的課題 <第4回>生徒指導の領域と機能 <第5回>生徒指導と教育課程 <第6回>特別活動における生徒指導 <第7回>生徒会活動 <第8回>クラブ活動及び学校行事 <第9回>学校行事の立案と実施(1) <第10回>同上 実習(遠足)(2) <第11回>カウンセリングと個別指導 <第12回>生徒理解 <第13回>問題行動・非行の指導 <第14回>ホームルームにおける生徒指導計画 <第15回>進路指導計画と実践</p> <p>【授業方法】 大方を坐学とし、第2回、第4回、第6回、第8回、第11回、第13回の授業後半の20-30分間で800字程度で児童に伝えたいことを書き述べる。まとめて「あなたへのメッセージ」として小冊子を編纂する。聴講者全員で委員会を編成して編纂する。9、10回は遠足をテーマに、具体的に指導計画を作成し実施する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 教育方法の分野	生徒指導論 (養護教諭)	<p>【概要】 生徒指導は、児童生徒一人一人の人間形成の場としての学校において教科指導、道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間とともに教育目標を達成していく上で不可欠なものである。こうした教科指導等を通じた学習活動は、社会を担う有為な人間形成の育成を目指している。一方、生徒指導は、その時代に生きる社会環境の中で児童生徒一人一人の健全な成長と人格の形成を直接の目的としている。従って、このような学習活動と生徒指導は、学校教育を推進する上で深く関わっているのである。</p> <p>更に、急速な社会環境の変化や情報化社会の多様な広がりの中で、生涯にわたっての自己形成と健全なる人格の発達を進めていくには、児童生徒一人一人に自己指導力・自己統制力(規範意識)を育成していく必要がある。この自己指導力・自己統制力の基底をなす規範意識を育成していくには、生徒指導・進路指導の対応に関する方針や基準を教師集団がともに共通理解し、明確化するとともに児童生徒、保護者等に周知し、毅然とした姿勢と粘り強い指導を展開していくことが必要である。</p> <p>以上の考えについて、具体例を通して理解し、生徒指導に対する考え方を確立することが本授業の主たる目的である。</p> <p>【到達目標】 ・生徒指導に関する教育活動について、アメリカや日本で誕生した歴史的な背景、その後のプロセスを知ることにて、それらに関わる教育活動は、社会的な背景と深く関わっていることを理解することができる。</p> <p>・規範意識を育成することに関して、ピアジェとエリクソンの理論をもとに考察することで、自己形成や健全なる人格の発達と教育活動とは極めて深く関わっていることを認識することができる。</p> <p>・生徒指導は、学校教育活動を円滑に推進させるための重要な教育活動であることを具体的な実践事例を基に考え、その意義を認識することができる。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 生徒指導の意義 <第2回> 生徒指導の歴史(戦前) <第3回> 生徒指導の歴史(戦後) <第4回> 生徒指導と諸教育活動との関連性Ⅰ(発達課題と成長) <第5回> 生徒指導と諸教育活動との関連性Ⅱ(ピアジェとエリクソンの理論) <第6回> 生徒指導と諸教育活動との関連性Ⅲ(事例:道徳性と道徳教育) <第7回> 問題行動への対応Ⅰ(事例:不登校) <第8回> 問題行動への対応Ⅱ(事例:いじめ) <第9回> 問題行動への対応Ⅲ(事例:非行、暴力、器物破損等) <第10回> 生徒指導の内容と領域、組織と計画 <第11回> 生徒指導の進め方と今日的課題 <第12回> 教育相談の内容と領域、組織と計画 <第13回> 教育相談の進め方と今日的課題(事例:迷惑メール) <第14回> 新しい教育観と生徒指導のアセスメント <第15回> 新しい教育観と生徒指導に対する自己の考えの発表</p> <p>【授業方法】 本授業では、規範意識の育成に関し、江戸時代の藩校教育、戦前の初等教育・中等教育の具体的な資料(パワーポイントで作成したもの)を通し、現在の学校教育を推進していく上で、生徒指導が重要な役割を果たしていることを認識する。また、規範意識を育成するために教育活動を地道に実践している学校や教師の姿勢を視聴(DVD)したり、具体的な生徒指導・教育相談の実践指導事例を読んだりして、教師の子どもに対する関わり方、対応の仕方の基礎を養う。</p> <p>授業ごとに授業内容に対する自分の考え、意見、疑問点、質問等を記述して提出する。</p>
専門科目	展開応用科目 実習の分野	保育実習Ⅰ	<p>【概要】 保育所や児童福祉施設において、実習を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】 これまでの、講義・演習を通して学んできた知識、技術を保育所や児童福祉施設の実践に携わることにより、保育に必要な内容について実体験を通して考え、知識や技術の向上及び定着を図る。</p> <p>【授業計画】 (実習1週目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能①保育所の生活と一日の流れ②保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解①子どもの観察とその記録による理解②子どもの発達過程の理解③子どもへの援助やかかわり <p>(実習2週目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 保育内容・保育環境①保育の計画に基づく保育内容②子どもの発達過程に応じた保育内容③子どもの生活や遊びと保育環境④子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録①保育課程と指導計画の理解と活用②記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理①保育士の業務内容②職員間の役割分担や連携③保育士の役割と職業倫理 6. 施設の役割と機能①施設の生活と一日の流れ②施設の役割と機能 <p>(施設実習(おおむね10日))</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能①施設の生活と一日の流れ②施設の役割と機能 2. 子ども理解①子どもの観察との記録②個々の状態に応じた援助やかかわり 3. 養護内容・生活環境①計画に基づく活動や援助②子どもの心身の状態に応じた対応③子どもの活動と生活の環境④健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録①支援計画の理解と活用②記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理①保育士の業務内容②職員間の役割分担や連携③保育士の役割と職業倫理 <p>【授業方法】 保育園、施設における実習</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開 応用科目 実習 の分野	保育実習Ⅱ (保育所)	<p>【概要】 保育実習Ⅰで学んだこと、体験したことを生かして、さらに次なる段階である保育実習Ⅱの実習における、準備、学習を深める。保育所において、一人ひとりの乳幼児を大切に受け入れていくことはいかなることかを実習場面において学んでいく。</p> <p>【到達目標】 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について学ぶ。また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み理解を深める。</p> <p>【授業計画】 〈実習1週目〉 1. 保育所の役割や機能の具体的展開①養護と教育が一体となっている保育②保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解①子どもの心身の状態や活動の観察②保育士等の動きや実践の観察③保育所の生活の流れや展開の把握 〈実習2週目〉 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解②入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援③地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価①保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解②作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理</p> <p>【授業方法】 保育園における実習と事前事後指導</p>	
専門科目 展開 応用科目 実習 の分野	保育実習Ⅲ (施設)	<p>【概要】 入所及び通所施設において実習を通して学ぶ。講義・演習を通して学んだ基礎的な知識保育実習Ⅰで学んだ学習体験を基にして更なる援助技術の向上と施設を利用する子ども理解の深化を目指す。</p> <p>【到達目標】 児童福祉施設等(保育者以外)の役割や機能について実践を通して理解を深める。また、家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保育者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</p> <p>【授業計画】 〈施設実習おおむね10日間〉 1. 児童福祉施設等(保育者以外)の役割と機能 2. 施設における支援の実際①受容し、共感する態度②個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解③個別支援計画の作成と実践④子どもの家庭への支援と対応⑤多様な専門職との連携⑥地域社会との連携</p> <p>【授業方法】 施設における実習と事前事後指導</p>	
専門科目 展開 応用科目 実習 の分野	保育実習指導Ⅰ	<p>【概要】 保育園・施設での学外実習を実施する為に必要な基本的事項について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉実習の目的 〈第2回〉実習の概要 〈第3回〉実習の内容 〈第4回〉実習の課題 〈第5回〉子どもの人権と最善の利益の考慮 〈第6回〉プライバシーの保護と守秘義務 〈第7回〉実習生としての心構え 〈第8回〉①実習における計画と実践 〈第9回〉②実習における計画と実践 〈第10回〉①実習における観察、記録及び評価 〈第11回〉②実習における観察、記録及び評価 〈第12回〉①実習の総括と自己評価 〈第13回〉②実習における観察、記録及び評価 〈第14回〉①課題の明確化 〈第15回〉②課題の明確化</p> <p>【授業方法】 講義を主体として行うが、保育計画の作成やロールプレイングを取り入れ実践的な授業を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 実習の分野	保育実習指導Ⅱ (保育所)	<p>【概要】 保育園での学外実習を実施するために必要な基本的事項について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 1. 保育実習の意義・保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育士の観察、記録及び自己点検を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</p> <p>【授業計画】 (第1回) ①子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (第2回) ②子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (第3回) 子どもの状態に応じた適切ななかかわり (第4回) 子どもと保育者と保護者支援 (第5回) ①保育の表現技術を生かした保育実践 (第6回) ②保育の表現技術を生かした保育実践 (第7回) ③保育の表現技術を生かした保育実践 (第8回) ①保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (第9回) ②保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (第10回) ①保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 (第11回) ②保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 (第12回) 保育士の専門性と職業倫理 (第13回) 実習の総括と自己評価 (第14回) ①課題の明確化 (第15回) ②課題の明確化</p> <p>【授業方法】 講義を主体として行うが、保育計画の作成や保育の表現技術を生かした保育実践を取り入れ実践的な授業を行う。</p>	
専門科目 展開応用科目 実習の分野	保育実習指導Ⅲ (施設)	<p>【概要】 施設での学外実習を実施するために必要な基本的事項について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 1. 施設実習の目的・内容について総合的に学ぶ。 2. 保育実習Ⅰ、既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、実践力を培う。 3. 保育士の観察、記録及び自己点検を踏まえた施設実習の改善について実践や事例を通して学ぶ。</p> <p>【授業計画】 (第1回) 施設実習の目的理解 (第2回) 子どもの最善の利益を考慮した施設実習の具体的理解 (第3回) 子どもの状態に応じた適切ななかかわり方 (第4回) 施設実習に必要な種類の作成 (第5回) 施設実習の諸注意 (第6回) ①施設実習の具体的内容 (第7回) ②施設実習の具体的内容 (第8回) ①施設実習の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (第9回) ②施設実習の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (第10回) ①観察、記録、自己評価に基づく施設実習の改善 (第11回) ②観察、記録、自己評価に基づく施設実習の改善 (第12回) 保育士の専門性と職業倫理 (第13回) 実習の総括と自己評価 (第14回) ①課題の明確化 (第15回) ②課題の明確化</p> <p>【授業方法】 講義を主体として行うが、計画の作成や実践を取り入れ実践的な授業を行う。</p>	
専門科目 展開応用科目 実習の分野	教育実習 (幼稚園)	<p>【概要】・幼稚園における幼児理解。 ・幼稚園における理論と実践の総合学習。 ・幼児指導法の実践を学習する。</p> <p>【到達目標】 (1) 幼稚園にて、教師、幼児と一緒に健やかに生活を送ることができる。 (2) 園長先生や教諭の指導の下、日課に従い保育者として活動できる。 (3) 教諭の指導の下、指導計画を立てそれに従い幼児を指導できる。</p> <p>【授業計画】 3年次春学期 (第1回) 園長、主任の講話、観察実習 (第2回) 観察実習、部分実習 (第3回) 本実習 (部分実習) (第4回) 本実習 (1日実習)</p> <p>【授業方法】 教育実習は幼稚園で行われ、4週間4単位で、普通は観察実習(見学実習)と本実習に分けられる。3年次春学期4週間の実習では観察実習を中心にを行い部分実習を少しずつ体験して、3週目の実習で本実習(実証実習)を行い、実際の保育を教諭の指導の下行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 実習の分野	教育実習指導(幼稚園)	<p>【概要】教育原理や発達心理学等で学習した内容などをもとに、実際に子どもとふれあう中で、具体的な子ども観を確立し、さらに将来の日本に貢献する子どもの教育の仕方を実践する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>【授業計画】<第1回> 実習の意義と目的 <第2回> 実習日誌の書き方 <第3回> 実習オリエンテーションについて <第4回> オリエンテーション時の日誌の書き方 <第5回> 実習園の環境の把握について <第6回> 見学・観察実習時の日誌の書き方 <第7回> 参加実習時の日誌の書き方 <第8回> 部分実習時の日誌の書き方 <第9回> 全日実習時の日誌の書き方 <第10回> 反省会時の日誌の書き方 <第11回> 反省会・意見交換 <第12回> 礼状の書き方 <第13回> 振り返り・反省 <第14回> 不足部分の新たな取り組み <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】教育実習は幼稚園で行われ、4週間4単位で観察実習(見学実習)と本実習に分けられる。実習前には事前指導として実習園との連絡の仕方、子どものとらえ方、実習日誌の書き方、実習中の諸注意等を学習する。実習後には実習日誌のまとめ、礼状の書き方、反省等の事後指導を受ける。</p>	
専門科目 展開応用科目 実習の分野	保育・教職実践演習(幼稚園)	<p>【概要】</p> <p>大学4年間の教職課程履修において、培ってきた教師・保育者としての基礎的基本的な資質能力(①教職〔保育者〕論、②組織・協働、③幼児指導、④学級経営、⑤保育指導)について確認する。併せて4年次において、これらの点について各自の課題を自覚し、不足している、あるいは補充・深化が必要であると考えられる領域における知識や技能を補い、定着を図る。</p> <p>主な授業形態は、講義や演習、発表、グループ討論、ロールプレイ等を組み合わせ、実際の教育・保育現場を想定した教育・保育課題を取り扱うものとする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>本授業では、教師・保育者として求められる5つの事項(①教職〔保育者〕論、②組織・協働、③幼児指導、④学級経営、⑤保育指導)をテーマとし、そのそれぞれについて次のような到達目標を掲げる。</p> <p>授業計画</p> <p><第1回> これまでの教職課程の学修についての省察(教職〔保育者〕論①)</p> <p>「教育・保育実習」を踏まえて、本授業のねらい、基本方針、主な内容について確認することによって、実践的な指導力を高めていく意欲を涵養する。 <第2回> 保育を通して子どもを育てる(教職〔保育者〕論②)</p> <p>保育を通して、子どもを観ることの意義や意図的・計画的に教育・保育していくことの大切さを、講義及びグループ討論を通して学ぶことによって、教師・保育者の果たす役割について理解を深める。 <第3回> 教材研究と保育指導案(保育指導①)</p> <p>保育指導案作成の意義及び一般的な形式について理解する。具体的には、教育・保育実習の指導案を再検討して修正し、改めて保育指導案や保育について理解を深める。 <第4回> 模擬保育と省察(保育指導②)</p> <p>グループに分かれメンバーの1人が代表で教師・保育者役を務めて模擬保育を行い、他の学生は幼児役になって保育を参観し、保育評価を行う。なお、このグループ編成は、毎回変更する。 <第5回> 模擬保育と省察(保育指導③)</p> <p>グループに分かれメンバーの1人が代表で教師・保育者役を務めて模擬保育を行い、他の学生は幼児役になって保育を参観し、保育評価を行う。なお、このグループ編成は、毎回変更する。 <第6回> 模擬保育と省察(保育指導④)</p> <p>グループに分かれメンバーの1人が代表で教師・保育者役を務めて模擬保育を行い、他の学生は幼児役になって保育を参観し、保育評価を行う。なお、このグループ編成は、毎回変更する。 <第7回> 保育の指導力についての総括(保育指導⑤)</p> <p>これまでの模擬保育と省察を踏まえて、教師・保育者の保育の指導力についてグループ討論を行い、総括する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p><第8回> 発達段階に応じた子どもの理解と支援 (幼児指導①) 子どもの心と身体における発達を理解し、発達に応じた支援の方法について理解を深める。また、発達段階に応じた子どもの特性と支援の在り方についても考察していく。</p> <p><第9回> 子どもの問題行動や悩み等への対応 (幼児指導②) 子どもの問題行動や悩み等への対応について、実践記録やケーススタディの分析を通して理解を深める。</p> <p><第10回> 子どもに対するカウンセリング・マインド (幼児指導③) 子どもに対するカウンセリング・マインドに基づく対応について学び、ロールプレイを通して適切な指導・支援の方法に関する理解を深める。</p> <p><第11回> 家庭との連携 (組織・協働①) 子どもをより良い方向に導いていくためには、保護者との信頼関係を築き、連携を密にしていける必要がある。このことを踏まえ、二者面談を通して保護者対応の方法について理解を深める。</p> <p><第12回> 幼稚園・保育園 (学級) の1日 (学級経営) 幼稚園・保育園 (学級) の1日の保育活動について理解を深める。学級経営の意義、内容等について、学級担任としての仕事とその重要性の認識を深め、幼稚園・保育園での実際の1日における学級経営案を作成する。</p> <p><第13回> 協働が求められる校務分掌 (組織・協働②) 幼稚園・保育園では、学級経営、保育指導にとどまらず、幼稚園・保育園の保育活動を円滑に進めていくために、教師・保育者が校務分掌を分担していることについて理解を深める。また、実際の校務分掌計画案を作成することによって、幼稚園・保育園が教職員全員による協働によって成り立っていることを理解する。</p> <p><第14回> 幼稚園・保育園生活の危機管理 (組織・協働③) 幼稚園・保育園内の危機管理について、原因、対応、指導に関する講義と演習を行うことにより、幼稚園・保育園生活の中での幼児の安全確保について考える必要性を理解する。</p> <p><第15回> 魅力ある望ましい教師・保育者に向けて (教職〔保育者〕論③) これまでのまとめとして「魅力ある望ましい教師・保育者像」について小論文を作成し、4年間における教職課程履修の経験と省察を通して培った教師・保育者としての基礎的基本的な資質能力に気づき、自己評価を行う。</p> <p>【授業方法】 講義・ディスカッション・研究発表・グループ討議を行う</p>	
専門科目	展開 応用科目 実習の分野	<p>教育実習 (小学校)</p> <p>【概要】 小学校教員を目指す学生を対象とし、教育実習を通して、次の4点の目的を達成できるようにする。①小学校教育の実際について、体験的、総合的な認識を得させる。②大学において修得した教職に関する専門的な知識や理解及び教科教育の理論や技術を、児童の成長発達の促進に適用する実践的能力の基礎を形成する。③教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度と能力の基礎を形成する。④教育者としての愛情と使命感を深め、自己の教員としての能力や適性についての自覚を得させる。</p> <p>【到達目標】 小学校における教育的諸活動に参加することによって、小学校教育の全体構造を見定めて理解するとともに、子ども理解と学習及び生徒指導の諸問題を実践的に把握して教員としての資質や能力を向上させ、教職への意欲を高める。</p> <p>【授業計画】 4年次春学期 (実習校により秋学期)・・・以下の計画は主な予定で、実際は実習校の計画に従うことになる。</p> <p><事前指導> ・オリエンテーション ・実習校との打ち合わせ</p> <p><実習第1週目> ・実習校での指導講話 ・授業観察</p> <p><実習第2週目> ・授業観察 ・授業参加 ・各種教育活動の指導講話</p> <p><実習第3週目> ・授業観察 ・授業参加 ・授業実習</p> <p><実習第4週目> ・授業実習 ・研究授業 ・研究授業の反省と記録整理 ・総合実習</p> <p>・実習反省会</p> <p><事後指導> ・教育実習の報告、反省 ・関係記録簿等の整理、提出</p> <p>【授業方法】 事前の準備を十分に行い、充実した実習を実践し、各自の成果を集約しまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目	実習の分野	教育実習指導 (小学校)
			<p>【概要】教育実習の事前指導と事後指導を行うことによって、その目的や内容・方法について理解し、意義あるものとするとともに、事後、教育実習で学んだことをお互いに確かめ合って、教職への意識を高める。</p> <p>【到達目標】 1. 小学校における教育実習の意義や目標、内容、方法について学び、教師の仕事や使命を理解する。</p> <p>2. 小学校における教育的諸活動に参加することによって、小学校教育の全体構造を見定め理解するとともに、子ども理解と指導上の諸問題を実践的に把握することができる。</p> <p>3. 教育実習で学んだことを確かめ合い、教職への意欲を高めるとともに、さらに教師としての資質を向上させる。</p> <p>【授業計画】 教育実習を充実したものにするための講義と演習を行う。具体的には、実習生の心得や教育活動への参加の仕方、教材研究のポイント、学習指導案の作成法、授業の実際、記録の取り方などについての講義と演習を行う。これらを通じて、教職への意欲を高めるとともに、教師としての資質を向上させる。</p> <p>3年生 秋学期 <第1回> 教育実習の意義・目的や内容・方法 <第2回> 実習生としての心得 <第3回> 教材研究のポイント <第4回> 学習指導案の作成法 <第5回> 授業の実際と記録の取り方 <第6回> 生徒指導 <第7回> 児童の内面理解と集団作り、学級経営 <第8回> 前半のまとめ</p> <p>4年生 春学期 <第9回> 教育実習の準備・配慮への総点検 <第10回> 「実習記録」など関係書表簿の「記入要領」、「扱いの配慮事項」 <第11回> 教育実習までの手順の最終確認 <第12回> 教育実習の「調整」(1) <第13回> 教育実習の「調整」(2) <第14回> 教育実習の「調整」(3) <第15回> 全体のまとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心に演習なども加え、実践的態度を整える。</p>
専門科目	展開応用科目	実習の分野	教職実践演習 (教諭)
			<p>【概要】 大学4年間の教職課程履修において、培ってきた教師としての基礎的基本的な資質能力(①教職論、②組織・協働、③生徒指導、④学級経営、⑤学習指導)について確認する。併せて4年次において、これらの点について各自の課題を自覚し、不足している、あるいは補充・深化が必要であると考えられる領域における知識や技能を補い、定着を図る。主な授業形態は、講義や演習、発表、グループ討論、ロールプレイ等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱うものとする。</p> <p>【到達目標】 本授業では、教師として求められる5つの事項(①教職論、②組織・協働、③生徒指導、④学級経営、⑤学習指導)をテーマとし、そのそれぞれについて次のような到達目標を掲げる。</p> <p>授業計画 <第1回> これまでの教職課程の学修についての省察(教職論①) 「教育実習」を踏まえて、本授業のねらい、基本方針、主な内容について確認することによって、実践的な指導力を高めていく意欲を涵養する。 <第2回> 授業を通して子どもを観る・育てる(教職論②) 授業を通して、子どもを観ることの意義や意図的・計画的に教育していくことの大切さを、講義及びグループ討論を通して学ぶことによって、教師の果たす役割について理解を深める。 <第3回> 教材研究と学習指導案(学習指導①) 学習指導案作成の意義及び一般的な形式について理解する。具体的には、教育実習の指導案を再検討して修正し、改めて学習指導案や授業について理解を深める。 <第4回> 模擬授業と省察(学習指導②) 各課程のグループに分かれメンバーの1人が代表で教師役を務めて模擬授業を行い、他の学生は児童・生徒役になって授業を参観し、授業評価を行う。なお、このグループ編成は、毎回変更する。 <第5回> 模擬授業と省察(学習指導③) 各課程のグループに分かれメンバーの1人が代表で教師役を務めて模擬授業を行い、他の学生は児童・生徒役になって授業を参観し、授業評価を行う。なお、このグループ編成は、毎回変更する。 <第6回> 模擬授業と省察(学習指導④) 各課程のグループに分かれメンバーの1人が代表で教師役を務めて模擬授業を行い、他の学生は児童・生徒役になって授業を参観し、授業評価を行う。なお、このグループ編成は、毎回変更する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p><第7回> 教科の指導力についての総括（学習指導⑤） これまでの模擬授業と省察を踏まえて、教師の教科の指導力についてグループ討論を行い、総括する。 <第8回> 発達段階に応じた子どもの理解と支援（生徒指導①） 子どもの心と身体における発達を理解し、発達に応じた支援の方法について理解を深める。また、発達段階に応じた子どもの特性と支援の在り方についても考察していく。 <第9回> 子どもの問題行動や悩み等への対応（生徒指導②） 子どもの問題行動や悩み等への対応について、実践記録やケーススタディの分析を通して理解を深める。 <第10回> 子どもに対するカウンセリング・マインド（生徒指導③） 子どもに対するカウンセリング・マインドに基づく対応について学び、ロールプレイを通して適切な指導・支援の方法に関する理解を深める。 <第11回> 家庭との連携（組織・協働①） 子どもをより良い方向に導いていくためには、保護者との信頼関係を築き、連携を密にしていける必要がある。このことを踏まえ、二者面談を通して保護者対応の方法について理解を深める。 <第12回> 学校（学級）の1日（学級経営） 学校（学級）の1日の教育活動について理解を深める。学級経営の意義、内容等について、学級担任としての仕事とその重要性の認識を深め、学校での実際の1日における学級経営案を作成する。 <第13回> 協働が求められる校務分掌（組織・協働②） 学校では、教科の学習指導や学級経営、生徒指導にとどまらず、学校の教育活動を円滑に進めていくために、教師が校務分掌を分担していることについて理解を深める。また、実際の校務分掌計画案を作成することによって、学校が教職員全員による協働によって成り立っていることを理解する。 <第14回> 校内生活の危機管理（組織・協働③） 学校内の危機管理について、原因、対応、指導に関する講義と演習を行うことにより、学校生活の中での児童・生徒の安全確保について考える必要性を理解する。 <第15回> 魅力ある望ましい教師に向けて（教職論③） これまでのまとめとして「魅力ある望ましい教師像」について小論文を作成し、4年間における教職課程履修の経験と省察を通して培った教師としての基礎的基本的な資質能力に気づき、自己評価を行う。 【授業方法】 講義・ディスカッション・研究発表・グループ討議を行う</p>	
専門科目	展開応用科目 実習の分野 養護実習	<p>【概要】 学内で学んだ知識や技術、養護教諭の職務に関する内容が、実際の小学校・中学校の現場ではどのように展開されているかを体験しながら学習する。また、児童、生徒の発達段階に応じた対応の仕方を学ぶとともに、教員としての適性を再度検討し、養護教諭に必要な資質を身につけることを目的とする。 【到達目標】 本実習に参加することによって、教科書だけでは学べない養護教諭の実際の活動を理解・把握し、基本的な職務実践能力を身につけることを到達目標とする。 【授業計画】 授業計画 <事前指導><第1回> オリエンテーション（教職専任教員および養護教諭コース担当専任教員） <第2回> 実習校での事前打ち合わせ <実習1週目><第3回> 実習校の現状、学校保健の活動状況、保健室経営の実際を知る。 <第4回> 養護教諭の1日の職務、他教員との連携等を知る。 <第5回> 養護教諭の児童・生徒への対応方法を見学するとともに、担任の役割を理解する。 <実習2週目><第6回> 養護教諭の指導のもと、健康観察、健康診断、救急処置、健康相談、保健委員会活動、学校保健に関する事務等を実習する。 <第7回> 学級担任や保健主事の指導のもと、学級経営、給食指導、清掃指導、保健指導等を実習する。 <実習3週目・4週目><第8回> 養護教諭の指導のもと、保健だよりなどの作成、保健指導教材の作成を行う。 <第9回> 養護教諭の職務を総合的に実習するため、養護教諭の指導のもと「総合実習」として、11日の保健室経営を責任と自覚をもって実習する。 <第10回> 学級担任、保健主事、養護教諭の指導のもと、研究授業を行う。 <事後指導> <第11回> 反省会に参加し、養護実習で得た新たな課題を整理する。 【授業方法】 実際に子供たちと接し、現職教師から学べる貴重な期間である。実習においては目的意識を持ち、自主的かつ積極的に各自の学習を深めること。教材研究、事務関係は子供たちのいない時間に実施し、数多くの児童生徒と関わるように努めること。 保健指導や保健学習で使用する「指導案」は、実習校で使用しているスタイルのものとする。 掲示物や教材など、今後実習校で使用できるものを作成してくること。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目	実習の分野	養護実習指導
		<p>【概要】近年の社会環境や生活様式の急激な変化は、子どもたちの心身に大きな影響を与え健康問題が深刻化を増している。これらの現代的な健康課題の解決に向けて養護教諭への期待が高まり、役割が拡大している。養護教諭が学校保健活動の推進に当たって中核的な役割を果たし、子どもの現代的な健康課題に適切に対応するために、常に新たな知識や技術を習得する必要がある。</p> <p>3年次 秋学期 学校保健実践者である養護教諭として、学んできたことを確認しながら、実践的な展開を図り、保健指導など実践的な技能・能力を身につける。</p> <p>4年次 春学期 養護実習の心構えとしての直前指導と養護教諭の執務の理解を深め、実習後の振り返りを行う。実習体験を自己評価し、自己の問題点と課題を見つけ、実践内容や評価を共有し、更に養護教諭としての知識や技術の向上を目指す。</p> <p>【到達目標】 3年次 秋学期 学校保健の実践者として、実際の養護教諭の仕事を理解し、指導に必要な知識と能力と技術を身につけ、活動について自己評価できることを目標とする。 特に、養護教諭の職務・保健活動を理解し、保健指導・保健授業を実践し自己を正しく評価できることを目指す。</p> <p>4年次 春学期 自己評価が的確にでき他者からの評価を素直に受けられること、問題点や課題を見つけ対処できる能力を身につけることを目標とする。 特に、養護実習にあたり執務への理解を深めること、実習後には養護実習の実践内容を評価・共有し、学校保健活動を推進できる実践力を身につける。</p> <p>【授業計画】 3年次 秋学期 <第1回> 授業オリエンテーション：授業の進め方・学習の方法等についての説明 養護教諭の仕事1：感じてみよう<第2回> 養護教諭の仕事2：養護教諭の1日（VTR視聴） <第3回> 保健活動の実際1：学校の組織と教育計画・保健室経営案・子どもたちの一日<第4回> 保健活動の実際2：年間計画・月間計画・週間計画・一日の執務計画<第5回> 養護実習の実際1：自分自身を知る 児童生徒への自己紹介 教職員への挨拶<第6回> 養護実習の実際2：実習中の学び 目標・研究計画を立てる<第7回> 保健学習の実際1：授業実施に必要な知識と技術 指導案の作成<第8回> 保健学習の実際2：授業実施に必要な知識と技術 教材の作成 保健授業の展開準備<第9回> 保健指導の展開1：演習・評価<第10回> 保健指導の展開2：演習・評価 <第11回> 保健指導の展開3：演習・評価<第12回> 保健授業の展開1：演習・評価<第13回> 保健授業の展開2：演習・評価<第14回> 保健授業の展開3：演習・評価<第15回> まとめ</p> <p>4年次 春学期 <第1回> 授業オリエンテーション：授業の進め方、学習の方法等についての説明 <第2回> 養護実習の実際1：準備と注意すべきこと 目標・研究課題 実習中の不安<第3回> 養護実習の実際2：養護教諭の執務1 <第4回> 養護実習の実際2：養護教諭の執務2 <第5回> 養護実習の実際2：養護教諭の執務3 <第6回> 養護実習の実際2：養護教諭の執務4 <第7回> 養護実習の実際2：養護教諭の執務5 <第8回> 養護実習の実際3：健康診断 評価・課題を探る <第9回> 養護実習の実際3：救急処置 評価・課題を探る <第10回> 養護実習の実際3：学校環境衛生・感染予防 評価・課題を探る <第11回> 養護実習の実際3：健康相談活動・委員会活動 評価・課題を探る <第12回> 養護実習の実際3：学級活動・コミュニケーション 評価・課題を探る <第13回> 養護実習の実際3：保健授業学 評価・課題を探る <第14回> 養護実習の実際3：設備・組織 評価・課題を探る <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 3年次 秋学期 講義・演習・発表討論・小冊子の作成等 必要において授業内で指示する。 講義・演習では、まとめのレポートを課題とする。 発表討論では、発表準備・内容・実践・自己評価・実践評価の分析などを課題とする。 授業には意欲的に取り組み、意見・課題をもち、積極的に問題解決を行うこと。 ※この授業では最新の状況を反映するために、シラバスの更新をすることがあります。その場合は、授業内で連絡します。</p> <p>4年次 春学期 講義・演習・グループワーク・発表討論・小冊子の作成等 必要において授業内で指示する。 演習では、グループでの資料プリントの作成を課題とする。 発表討論では、グループでの評価の分析・資料プリントなどを課題とする。 授業には意欲的に取り組み、意見・課題をもち、グループで協力し、積極的に問題解決を行うこと。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開応用科目 実習の分野 教職実践演習(養護教諭)	<p>【概要】 大学4年間の教職課程履修において、培ってきた養護教諭としての基礎的基本的な資質能力(①教職論、②組織・協働、③保健管理、④保健教育、⑤健康相談、⑥保健室経営)について確認する。併せて4年次において、これらの点について各自の課題を自覚し、不足している、あるいは補充・深化が必要であると考えられる領域における知識や技能を補い、定着を図る。 主な授業形態は、講義や演習、発表、グループ討論、ロールプレイ等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱うものとする。</p> <p>【到達目標】 本授業では、養護教諭として求められる6つの事項(①教職論、②組織・協働、③保健管理、④保健教育、⑤健康相談、⑥保健室経営)をテーマとし、次のような到達目標を掲げる。</p> <p>授業計画 <第1回> これまでの教職課程の学修についての省察(教職論①) 養護実習を踏まえて、本授業のねらい、基本方針、主な内容について確認することによって、実践的な指導力を高めていく意欲を涵養する。<第2回> 健康診断・疾病管理・疾病予防(保健管理①) 健康診断・疾病管理を組織的・計画的に実行していくことの大切さを、講義及びグループ討論を通して学び、保健管理における養護教諭の役割について理解を求める。<第3回> 救急措置(保健管理②) 救急処置の基本について理解する。具体的には、養護実習中の事例を再検討して修正し、緊急度・重症度の判断、救急処置についての能力を高める。<第4回> 救急処置(保健管理③) 救急処置の基本について理解する。具体的には、養護実習中の事例を再検討して修正し、緊急度・重症度の判断、救急処置についての能力を高める。<第5回> 模擬授業と省察(保健教育①) グループのメンバーの1人が代表で教師役を務めて模擬授業を行い、他の学生は児童・生徒役になって授業を参観し、授業評価を行う。なお、このグループ編成は、毎回変更する。<第6回> 模擬授業と省察(保健教育②) グループのメンバーの1人が代表で教師役を務めて模擬授業を行い、他の学生は児童・生徒役になって授業を参観し、授業評価を行う。なお、このグループ編成は、毎回変更する。</p> <p><第7回> 保健の指導力についての総括(保健教育③) これまでの模擬授業と省察を踏まえて、養護教諭の保健の指導力についてグループ討論を行い、総括する。<第8回> ヘルスアセスメントとヘルスカウンセリング(健康相談①) ロールプレイを通して、的確なヘルスアセスメントと保健室の機能を活かした健康相談活動のあり方について理解を深める。<第9回> 発達段階に応じた子どもの理解と支援(健康相談②) 子どもの心と身体における発達を理解し、発達に応じた支援の方法について理解を深める。また、発達段階に応じた子どもの特性と支援の在り方についても考察していく。<第10回> 問題行動や悩み等への対応(健康相談③) 子どもの問題行動や悩み等への対応について、実践記録やケーススタディの分析を通して理解を深める。<第11回> 担任・家庭との連携(組織・協働①) 子どもをより良い方向に導いていくためには、担任・保護者との信頼関係を築き、連携を密にしていく必要がある。このことを踏まえ、二者面談を通して保護者対応の方法について理解を深める。<第12回> 保健室の1日(保健室経営) 保健室の1日の活動について理解を深める。保健室経営の意義、内容等について養護教諭としての仕事とその重要性の認識を深め、実際の1日の保健室経営案を作成する。<第13回> 協働が求められる校務分掌(組織・協働②) 学校の実情や前年度の学校保健の取り組み状況から、各校務分掌間の連携を図った学校保健計画を作成し、教職員全員による協働によって成り立っていることを理解する。<第14回> 校内生活の危機管理(組織・協働③) 学校内の危機管理について、原因、対応、指導に関する講義と演習を行うことにより、学校生活の中での児童・生徒の安全確保について考える必要性を理解する。<第15回> 魅力ある望ましい養護教諭に向けて(教職論③) これまでのまとめとして「魅力ある望ましい養護教諭像」について小論文を作成し、4年間における教職課程履修の経験と省察を通して培った教師としての基礎的基本的な資質能力に気づき、自己評価を行う。</p> <p>【授業方法】 講義・ディスカッション・研究発表・グループ討議を行う</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 実習の分野	看護学実習Ⅰ (看護の基礎)	<p>【概要】看護では、健康者・健康障害者の訴えや観察事項、その他の情報などを基に状況を的確に判断したうえで、看護の対象に対する援助や処置に関わる必要がある。ひとつの訴えの中に複数の情報が入っており、対象の個性を重んじた援助・処置が望まれることはいうまでもない。ここでは、看護技術の基本を学ぶ。</p> <p>【到達目標】看護技術の基本を学び、生活の援助を看護のプロセスに基づいて応用展開できる。</p> <p>【授業計画】<第1回>看護技術の必要性、看護技術の原理・原則<第2回>コミュニケーションの意義、方法<第3回>看護のプロセス-情報収集、看護問題の明確化、計画、実施、評価<第4～第6回>環境の整備-病床の整備、清掃、ベッドメイキング<第7～第9回>観察-バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧)の測定<第10回>観察-身体計測<第11・第12回>安楽な体位と体位交換-安楽な体位の保持、ボディメカニックスの考え方<第13・第14回>移動の援助-ベッド・ストレッチャーの移動、車椅子の移動<第15回>中間のまとめ<第16・第17回>衣服の着脱-和服式、パジャマ、下着<第18・第19回>食事の援助-食事の種類、食事の与え方<第20・第21回>排泄の援助-排泄の方法、尿器・便器の与え方<第22・第23回>清潔の援助-清拭・手浴・足浴<第24～第26回>清潔の援助-洗髪<第27・第28回>実技試験-ベッドメイキング<第29回>生活の援助-看護プロセスによる看護技術の展開<第30回>最終のまとめ</p> <p>【授業方法】講義・VTR視聴で看護技術の理論と実際を学び、グループによる実技にて修得する。</p>	
専門科目 展開応用科目 実習の分野	看護学実習Ⅱ (看護ケア)	<p>【概要】【授業の目的】 養護教諭には医療、看護分野の専門的な能力が望まれている。あらゆる状況に対応できるように、現代の高度な医療の現状を熟知し、確実に援助行動をできることが必要である。看護学実習Ⅱにおいては、既に習得した看護学実習Ⅰの知識と技術を基に、さらに個々の健康上の問題に対応できる応用力を身につけることを目指す。</p> <p>【到達目標】 医療の実際と、それに伴う看護を理解し、援助技術を正しく行うことができる。対象者のニーズを的確に判断し、学んだ基礎技術を応用して援助することができる。</p> <p>【授業計画】 (秋学期) <第1回>診察の介助<第2回>身体各部の計測<第3回>身体各部の計測 <第4回>主な検査とその介助<第5回>主な検査とその介助<第6回>安全と感染予防 <第7回>安全と感染予防<第8回>安全と感染予防<第9回>経管栄養法・中心静脈栄養法 <第10回>嚥法<第11回>浣腸・導尿<第12回>その他の処置に伴う看護技術 <第13回>薬物療法に伴う看護<第14回>薬物療法に伴う看護<第15回>まとめ (春学期) <第1回>安静療法に伴う看護<第2回>安静療法に伴う看護<第3回>安静療法に伴う看護 <第4回>食事療法に伴う看護<第5回>食事療法に伴う看護<第6回>食事療法に伴う看護 <第7回>リハビリテーションに伴う看護<第8回>リハビリテーションに伴う看護 <第9回>リハビリテーションに伴う看護<第10回>手術に伴う看護 <第11回>その他の治療に伴う看護<第12回>主な症状に対する看護 <第13回>主な症状に対する看護<第14回>事例展開<第15回>まとめ</p> <p>【授業方法】 講義と実習、演習を主体とし、適宜ビデオなどの教材を活用する。実習、演習後にはレポートを課題とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開応用科目 実習の分野	救急処置実習	<p>【概要】救急処置に関する知識・技術は日ごろから研鑽を積んでおくことが望まれる。運動中のケガや病気と救急処理（RICE、救急箱）に対応するための基礎的な知識を身をもって体験すると同時に、バイタルサインと心肺蘇生、内科的障害（熱中症（熱疲労、熱痙攣、熱射病過換気症候群）及び整形外科的障害（突き指、骨折、捻挫、頭部外傷）の応急処置等をロールプレイによるシミュレーション実習によって、緊急時の連絡、現場でできる救命手当と応急処置などが適切に実行できるように実習する。養護教諭免許を希望する学生は、さらに保健室での養護診断、救急処置、事後措置の基本を学習する。</p> <p>【到達目標】① 基本的な救急処置法ができる。 ② 救急蘇生法が実行できる。 ③ 症状から傷病を予想し、望ましい救急処置ができる。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉救急処置の基本〈第2回〉傷病者の観察（バイタルサイン）〈第3回〉救急蘇生法（人工呼吸、胸骨圧迫心臓マッサージ）〈第4回〉救急蘇生法（異物除去、自動対外式除細動器：AED）〈第5回〉救急蘇生法（幼児、乳児）〈第6回〉止血法〈第7回〉包帯法〈第8回〉固定法、運搬法〈第9回〉重傷度の判断〈第10回～第11回〉内科的傷病の応急手当（熱中症、胸痛、腹痛、過換気症候群）〈第12回〉外科的傷病の応急手当（頭部外傷、頸部外傷、ショック）〈第13回〉外科的傷病の応急手当（捻挫、骨折、打撲、腱断裂、脱臼、創傷、肉離れ）〈第14回〉日常遭遇しやすい傷病のケーススタディ〈第15回〉スポーツ外傷のケーススタディ</p> <p>【授業方法】実習形式とする。</p>	
専門科目 展開応用科目 実習の分野	公衆衛生学実習	<p>【概要】ヒトの健康を保持・増進のために必要な生活環境は、様々な規定の下、維持されている。本実習では、特に生活環境の中でも「学校の環境衛生」を重視し、それを維持・管理するための検査法を理解し、習得することを主たる目的としている。</p> <p>【到達目標】学校における保健管理、特に環境衛生管理は、養護教諭にとって重要な仕事のひとつである。それがどのような考えのもとに実践されているかを理解し、そこを生活環境の場とする者の健康を維持、増進するための種々の知識と、これらに伴う検査技術を習得することを目標とする。</p> <p>【授業計画】〈第1回〉オリエンテーション〈第2回〉実習準備〈第3回〉手指の細菌検査および学校環境の細菌検査（1）〈第4回〉手指の細菌検査および学校環境の細菌検査（2）〈第5回〉細菌の増殖速度〈第6回〉水質検査（1）〈第7回〉水質検査（2）〈第8回〉水質検査（3）〈第9回〉照度、騒音の測定〈第10回〉気温、湿度の測定〈第11回〉教室などの空気環境〈第12回〉テーマ別調査および調査結果の集約〈第13回〉デモ授業（1）：プレゼンテーション準備〈第14回〉デモ授業（2）：プレゼンテーション〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】グループによる実習を行う。</p>	
専門科目 展開応用科目 実習の分野	臨床実習 I	<p>【概要】学校保健活動のひとつである保健医療機関との連携を体験学習し、学内の講義や実習で学んだ知識・技術を臨床場面で患者に応用させることを目標とする。保育園実習で健康な小児の発達について学び小児についての理解を深める。特別支援学校では、障がいのある子どもへの援助の在り方を学ぶ。クリニック実習では、クリニックの特徴、利用方法、診療補助方法等を学ぶとともに、患者とスタッフ、スタッフ間のコミュニケーションについて学ぶ。また療養型病院では、病棟での環境・生活援助を実習し、症状と疾患の理解と看護援助、バイタルサインの把握、患者や家族、スタッフとの人間関係、コミュニケーション技術について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 1. 0歳から就学前の健康な小児を理解するとともに障がいのある子どもの実態を知る。 2. 医療活動に触れ、医療の場で何が行なわれているか知る。 3. 医療チームの連携がどのようになされているかを知る。 4. 学内で学んだ知識、技術を体験し環境・生活の援助ができる。</p> <p>【授業計画】 1. 保育園（1日） 2. 特別支援学校（1日） 3. クリニック（1週間） 4. 長期療養型病院（1週間）</p> <p>【授業方法】 1. オリエンテーション 2. 保育園の特徴と園児の理解について。 3. 特別支援学校の実態と障がいのある児童生徒への対応。 4. 病院・クリニック全体の立場から組織運営及び職種別機能について。 5. 病院・クリニックにおける看護と医療活動について。 6. 入院患者について、症状を観察し、看護計画の基本を学ぶ。 7. 看護する側とされる側の気持ちを知る。 8. 命の大切さ、生と死について考える。 9. 反省会。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 展開 応用科目 実習の 分野	臨床実習Ⅱ	<p>【概要】学校保健活動のひとつである保健医療機関との連携を体験的に学習し、学内の講義や実習で学んだ知識・技術を臨床場面で患者に応用することを目標とする。ここでは、小児や成人の病棟での環境・生活援助を実習し、症状と疾患の理解と看護援助、バイタルサインの把握、患者や家族、スタッフとの人間関係、コミュニケーション技術、栄養指導、生活指導について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健室実習や施設での見学実習から学校保健・養護教諭の役割について考えることができる。 2 入院している病児を理解し、小児医療・看護、学校との連携について考えることができる。 3 入院患者の環境・生活の援助（の補助）ができる。 4 患者のバイタルサインを把握することができる。 5 望ましい患者対応（コミュニケーション、栄養指導、生活指導）を考えることができる。 6 病院診療を学校保健に応用して考えることができる。 <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 保健室の実態を知る 3 小児総合医療センター、教育相談センター、養護施設の特徴を知る。 4 入院・患者について疾患の診断過程及看護過程の見学から健康・異常の発見及び対応を知る。 5 病院の機能を理解し、最近の疾病傾向の現状を知る。 6 看護の実際を知る。 7 医療機関と学校・家庭との連携を理解する。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 付属校の保健室で1日体験実習をする。 3 小児保健医療総合センターの特徴について説明を受け、見学する。 4 教育相談、特別教育相談の現状と養護教諭の役割についての説明を受け、見学する。 5 養護施設の現状と学校との連携について説明を受け、見学する。 6 病棟における入院患者の症状を観察し、看護計画から実践までを学ぶ。 7 外来患者が受付から会計に至るまでの過程を見学する。 8 外来での各疾患を見学し、看護動機、治療方針、外来看護のあり方を学ぶ。 9 医療機関で行われる健康教育について知る。 10 反省会 	
演習科目	基礎演習Ⅰ	<p>【概要】この演習は3つの目的を設定している。1つは、大学生として必要な学習スキルを身につける。2つ目は、仲間同士や教員との情緒的交流を深めることおよび学園について知ることによって本学への所属意識をもち、本学で学ぶことの自覚と学びの意欲を喚起する。3つ目は、保育士・幼稚園、小学校などの教員としての自分の将来像を確かなものに繋いでいく。また、かかわり体験では、実際に子どもとふれ合い、かかわりの楽しさや難しさなどさまざまな感覚・感情を体験し、子ども支援者としての心構えをもつ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学びの場としての大学および学科への所属感をもつ。 ②同じ学科で学ぶ仲間としてお互いを理解する。 ③子どもへの接し方および社会的場面での対人的スキルを修得する。 ④学外でのかかわり体験によって「子どもとかかわる」ことを体験し、子どもと接することによって得られる生き生きとした感覚を実感する。 <p>【授業計画】</p> <p><第1回～第3回>：ゼミの仲間や先生を知る。学園について知る。これからの私（これからの目標と決意を表明する） <第4回>：ゼミ紹介・学園について（ゼミ別発表） <第5回>：現場の先生からのメッセージー各専攻別ー <第6回>：かかわり体験事前指導 <第7回>：子どもへの接し方、対人スキルを身につける。ロールプレイの実施。 <第8回>：実習先挨拶。 <第9回～第14回>：かかわり体験（保育園・幼稚園・学童保育など） <第15回>：春学期の振り返り。自分の目標を自己評価する。ゼミ担当教員との個別面接</p> <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①全体での学習とゼミ単位での演習を組み合わせる。 ②かかわり体験では、保育園、幼稚園、学童保育などに出向き、子どもたちとふれ合う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	演習科目 基礎演習Ⅱ	<p>【概要】 基礎演習Ⅱでは、次の3つを主な目的とする。①かかわり体験について経験したことをお互いに開示し、仲間と共有することで、目標とする仕事や子どもに関する気づきおよび理解をより深化させる。②大学生の学習スキルを身につけ、文章作成やプレゼンテーションに生かす。③望ましい対人関係を築くために自己理解を深め、その上で、「傾聴する」ことを体験する。これらの一連の演習を通して、対人的支援にもとめられる基本的態度を培う。</p> <p>【到達目標】 ①学外でのかかわり体験によって経験した気づきや理解を深める。 ②文献を読んで要約し内容を理解すること、レポートを作成すること、調べたことをまとめて発表することができるようになる。 ③自己理解を深めるとともに、「聴く」姿勢について体験的に学習することで、コミュニケーション能力を身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉：(秋学期編)仲間を知ろう・先生を知ろう(ゼミ内紹介)。これからの私。〈第2回〉：パワーポイント資料の作り方 〈第3回～第4回〉：ゼミ単位でかかわり体験について話し合い、全体発表の準備をする 〈第5回〉：かかわり体験を経験して(全体発表) 〈第6回〉：大学図書館の利用 ―文献検索の方法・自分で選ぶ― 〈第7回〉：ノートの取り方 〈第8回〉：読む① ―リーディングの基本スキル― 〈第9回〉：読む② ―深いリーディングのために― 〈第10回〉：レポート作成の基本スキルと文献レポートの作成 〈第11回〉：文献レポートの発表 〈第12回〉：講話 人とかわるということ 〈第13回〉：自分を知ろう ―エゴグラムの実施と解釈― 〈第14回〉：話を「聴く」 〈第15回〉：秋学期の振り返り。自分の目標を自己評価する。ゼミ担当教員との個別面接</p> <p>【授業方法】 全体での学習とゼミ単位での演習を組み合わせる。</p>	
演習科目	演習科目 基礎演習Ⅲ	<p>【概要】 基礎演習Ⅲおよび基礎演習Ⅳでは、2つの専攻ともに関連する保育・教育・心理・福祉などの領域から複数の話題を取り上げ、それらの全てを全員が学習できるように演習や実習形式で学習し、3年次からの専門演習に対する導入を行う。また、話題について学習したことをさらに深めるために、「1テーマごとに問題意識と目的を持ち、学んだ内容に関する文献を検索し、内容を熟読し、レポートにまとめる」という課題をこなすことが求められ、論理的な文章作成を練習するとともに主体的に学習する姿勢を身につけることも目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①保育・教育・心理・福祉などの専門的で多彩な知識やスキルに触れることによって、専門演習への関心を深め、学習意欲を高める。 ②レポート作成の積み重ねによって、論理的な文章作成ができるようになる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉：オリエンテーション〈第2回～第3回〉：自閉症のこと知っていますか？ 発達障がいの一つである自閉症の子どもとその家族の記録を視聴し、それを元に考察を進めることによって、障がい理解と支援について考える。〈第4回～第5回〉：ジレンマ事態のゲーム・シミュレーション 現実の社会には様々なジレンマ(板挟み)状況が生じている。この演習ではゲームを通してジレンマを体験し、それに対する対処を考えていくことを目的とする。 〈第6回～第7回〉：紙芝居を作ろう！市販のプレゼンテーションソフトを用いて自作の紙芝居を製作する。実践を通して情報機器を用いた教材提示の可能性について考えてみる。 〈第8回～第9回〉：思物と教具で遊ぶ・非常食演習1でフレーベルの思物で遊ぶ。演習2でモンテッソーリの教具で遊ぶ。課題として、思物で遊び育つこと、モンテッソーリの教具で育つことをまとめる。〈第10回～第11回〉：保育事故について考える。幼稚園・保育所における子どもの人身事故(保育事故)に関する判例を紹介し、保育事故防止の方法を考える。 〈第12回～第13回〉：忍者体育って何だろう忍者体育の授業ビデオを視聴し、学生たちが今までに受けてきた体育の授業との相違点を明らかにして、これからの新しい体育のあり方を論述させる。 〈第14回～第15回〉：予想される活動と援助幼稚園や保育園で、乳幼児が環境構成にどのようにかわるかを「予想」することで、具体的な援助が幅広くなる。具体的に縄跳び・散歩・ごっこ事例を通して指導計画案に結びつける演習とする。</p> <p>【授業方法】 演習および実習形式で行う。7グループに分け、各グループはローテーションで7つの話題について学ぶ。各グループは2週間同じ話題を経験するが、1週目は演習・実習、2週目は各自テーマを設定し、文献で調べレポートにまとめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	演習科目 基礎演習Ⅳ	<p>【概要】 基礎演習Ⅲおよび基礎演習Ⅳでは、2つの専攻ともに関連する保育・教育・心理・福祉などの領域から複数の話題を取り上げ、それらの全てを全員が学習できるように演習や実習形式で学習し、3年次からの専門演習に対する導入を行う。また、話題について学習したことをさらに深めるために、「1テーマごとに問題意識と目的を持ち、学んだ内容に関する文献を検索し、内容を熟読し、レポートにまとめる」という課題をこなすことが求められ、論理的な文章作成を練習するとともに主体的に学習する姿勢を身につけることも目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①保育・教育・心理・福祉などの専門的で多彩な知識やスキルに触れることによって、専門演習への関心を深め、学習意欲を高める。 ②レポート作成の積み重ねによって、論理的な文章作成ができるようになる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション〈第2回～第3回〉幼稚園におけるごっこ遊びを学びましょう幼稚園の遊びの中で、「ごっこ遊び」は、きわめて重要である。そのため、現場のごっこ遊びのVTRを見たり、ごっこ遊びの研究紀要の抜粋を資料として提示し、理解を深めたい。〈第4回～第5回〉「測る」について考える何を基準にして測るのか？どんな道具を使って測るのか？単位は何か？何故誤差を生じてしまうのか？測定されたものをどう処理し、どう読み取ったらいいか？など、実験・実習を通して自然事象の理解を深める。 〈第6回～第7回〉木となかよしになろう身近にあってあまり意識しない樹木について、五感を使って体験したり、いろいろ調べたりして、その見方を深め、子どもに伝えられるようにする。〈第8回～第9回〉子どもの虐待問題について考える子どもへの虐待問題は増加し、保育園、幼稚園、小学校でも虐待問題への対応が課題となっている。今回のゼミは児童虐待の基礎的なことを学ぶ。〈第10回～第11回〉人間の「生」を考える「脳死と臓器移植」、「安楽死・尊厳死」など生命倫理のトピックを取り上げ、「人間」とは何か、「生」とは何かなどの問題を考えていく。〈第12回～第13回〉TAT(性格診断)をやってみようパーソナリティに関する講義行い。特にTAT(主題統覚検査)やYG性格検査の解説する。そして検査を実施し、自己分析を行った結果を自分理解に努める。〈第14回～第15回〉音楽遊び子どもは、歌・手・リズム遊びなど音楽遊びが好きである。そこで、これらの遊びを経験しその魅力と意義を探り保育実技の幅を広げる。</p> <p>【授業方法】 演習および実習形式で行う。7グループに分け、各グループはローテーションで7つの話題について学ぶ。各グループは2週同じ話題を経験するが、1週目は演習・実習、2週目は各自テーマを設定し、文献で調べレポートにまとめる。</p>	
演習科目	演習科目 専門演習Ⅰ (学校教育・保育)	<p>【概要】 これまで学生たちは子どもの心、身体、そして子どもを取り巻く家族、社会的環境について、他の講義科目や演習科目などを通じて専門的な知識の学習機会を得てきた。また1、2年の基礎演習では、さまざまな学習機会を通じて、学習方法だけではなく、自己理解を深め、社会的スキルなどについて学習する機会を経験した。専門演習Ⅰでは、従前学んだことを踏まえて、将来保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校・高等学校教諭(英語)という資格や免許取得を目指している学生の専門的な関心や興味を引き出し、課題に対して主体的に取り組み課題を解決する方法を習得する。</p> <p>【到達目標】 保育や学校教育に関する知識を培い、実践や研究に結びつけることができる専門的な知識や技能を習得する。</p> <p>【授業計画】〈第1～7回〉全体ガイダンス、この専攻に所属する教員や他の学生との専門的な課題についてのやり取りの場を設けて、研究態度や研究方法について学習させる。大まかなテーマ探し、文献の探し方等基本的な研究方法について学ばせる。 〈第8～13回〉学習テーマ決定し、自主課題に取り組み、経過を報告する。 〈第14～15回〉学習テーマに基づいてレポートを発表する</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	演習科目 専門演習Ⅱ (学校教育・保育)	<p>【概要】 これまで学生たちは子どもの心、身体、そして子どもを取り巻く家族、社会的環境について、他の講義科目や演習科目などを通じて専門的な知識の学習機会を得てきた。また1、2年の基礎演習では、さまざまな学習機会を通じて、学習方法だけではなく、自己理解を深め、社会的スキルなどについて学習する機会を経験した。また、保育実習、施設実習、および幼稚園実習など様々な場において、体験的で実践的な知識を習得している。専門演習Ⅱでは、従前学んだことを踏まえて、将来保育士、幼稚園教諭、小学校教諭および中学校・高等学校教諭(英語)という資格や免許取得を目指している学生の専門的な関心や興味を引き出し、課題に対して主体的に取り組み課題を解決する方法をさらに踏み込んだ形で、学習の深化を目指して習得する。</p> <p>【到達目標】 保育所実習や施設実習および幼稚園実習の体験的な知識、実践的な観点から、保育や学校教育に関する知識を培い、実践や研究に結びつけることができる専門的な知識や技能を習得する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 秋のガイダンスを行い担当教員の確定を行う。 <第2回～15回> 学生の学習状況に配慮しながら、各教員の専門分野の専門書、学術研究論文および実践的な研究論文を読み進め、専門演習Ⅲへと続研究計画の立案を行う。</p>	
演習科目	演習科目 専門演習Ⅲ (学校教育・保育)	<p>【概要】 専門演習Ⅰ及びⅡを踏まえて、より専門的な学術研究をベースとして、参加者の興味関心を掘り下げ、卒業研究の作成に向けて研究計画を作成させ、予備的な調査などを実施させる。また、文献研究の場合は複数の文献を目的に沿って論理的にまとめるための準備計画を明確にする。</p> <p>【到達目標】 卒業論文の作成のために、分野ごとに先行研究を精読し、課題を明確にして、研究計画を立案させ、卒業研究に向けて予備的な調査などを実施させ、中間発表を行わせる。</p> <p>【授業計画】 <第1～第4回> 専門書や学術論文の精読 <第5～第8回> 研究課題の明確化 <第9～第13回> 研究計画の立案、予備的調査 <第14、15回> 中間発表の実施</p> <p>【授業方法】 参加者が研究の進行状況を発表し、これをもとに全体で討論する。必要に応じて個別指導を行う。</p>	
演習科目	演習科目 専門演習Ⅳ (学校教育・保育)	<p>【概要】 専門演習Ⅲに引き続いて、より専門的な学術研究をベースとして、参加者の興味関心を掘り下げ、卒業研究の作成に向けて指導を行う。最終的に卒業研究を完成させ、学部4年間の集大成を図る。</p> <p>【到達目標】 卒業研究の完成</p> <p>【授業計画】 <第1～第2回> 研究計画などの最終的検討 <第3～第8回> データの収集や分析およびまとめ <第9～第15回> 研究的な文章の作成</p> <p>【授業方法】 参加者が研究の進行状況を発表し、これをもとに全体で討論する。必要に応じて個別指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	演習科目 専門演習Ⅰ (養護教諭)	<p>【概要】 専門演習Ⅰでは、現代の子どもたちが抱えるあるいは取り巻くさまざまな問題（心身の健康、家族関係、人間関係、地域・学校環境等）について既往研究等から学ぶ。その上で研究を進めていく上で必要な文献収集の手法や研究計画の作成方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ・研究の方法を理解し、研究目的に適した研究計画を作成するスキルを身につける。 ・研究で得られた成果等の抄録作成のスキルを身につける。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞：オリエンテーション ＜第2回～第9回＞：文献収集と論文のまとめ方 ＜第10回～第13回＞：テーマの決定と文献整理 ＜第14回～第15回＞：発表とまとめ</p> <p>【授業方法】 演習形式とする。適宜、個別指導を行う。</p>	
演習科目	演習科目 専門演習Ⅱ (養護教諭)	<p>【概要】 専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰに引き続き、現代の子どもたちが抱えているさまざまな問題、課題を学び、各自が関心のあるテーマに沿って子どもの心身の健康や安全を守り育んでいくために地域・学校・家族等で実践していくべき点や考慮すべき点、養護教諭の立場から取り組んでいく点に関する基礎的調査研究を行う。</p> <p>【到達目標】 ・研究の方法を理解し、研究目的に適した研究計画を作成するスキルを身につける。 ・研究で得られた成果等の抄録作成とパワーポイントによるプレゼンテーションスキルを身につける</p> <p>【授業計画】 ＜第1回～第4回＞：研究計画、研究方法の整理・検討 ＜第5回～第10回＞：研究（予備調査、予備実験、フィールドワーク等） ＜第11回～第15回＞：研究結果の整理、研究計画書の作成</p> <p>【授業方法】 演習形式とする。適宜、個別指導を行う。</p>	
演習科目	演習科目 専門演習Ⅲ (養護教諭)	<p>【概要】 専門演習Ⅱで得られた知見、予備調査、予備実験等の結果を踏まえて各自が設定した研究計画に基づき文献調査をはじめ、実験、アンケート調査、フィールドワーク等を行う。</p> <p>【到達目標】 研究を通して得られた結果や知見を整理して分析する。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞：オリエンテーション ＜第2回～第13回＞：研究の実施、結果の分析とレポート作成 ＜第14回～第15回＞：研究発表とまとめ</p> <p>【授業方法】 演習形式とする。適宜、個別指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習 科目	演習 科目 専門演習Ⅳ (養護教諭)	<p>【概要】 専門演習Ⅳでは、専門演習Ⅲで得られた結果や知見をもとに分析し、レポートや論文としてまとめる。また、研究成果について抄録作成をするとともに口頭で発表する。</p> <p>【到達目標】 研究を通して得られた結果や知見を整理して分析することや、それらをまとめて専門演習レポート(卒業論文)を作成し、抄録等の発表をする。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞：オリエンテーション ＜第2回～第14回＞：専門演習レポート(卒業論文)作成、発表原稿作成 ＜第15回＞：発表とまとめ</p> <p>【授業方法】 演習形式とする。適宜、個別指導を行う。</p>	
演習 科目	演習 科目 教育キャリア演習Ⅰ	<p>【概要】 本演習は1年次秋学期におこなう。一連の本演習の目的は、教育職・保育職に就くために必要となる教職マインドを身につけて、ライフスパンの中での教育職・保育職としての仕事を位置づけることにある。これによって、教育者・保育者としての使命感と誇りを持つことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 教員、保育士になるという動機付けの喚起。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞オリエンテーション ＜第2回～第14回＞ワークショップとそれに基づく討論と発表 ＜第15回＞まとめ</p> <p>【授業方法】 学外体験やワークショップを通して、討論と発表を少人数の演習形式で行なう。</p>	
演習 科目	演習 科目 教育キャリア演習Ⅱ	<p>【概要】 本演習は2年次春学期におこなう。一連の本演習の目的は、教育職・保育職に就くために必要となる教職マインドを身につけて、ライフスパンの中での教育職・保育職としての仕事を位置づけることにある。これによって、教育者・保育者としての使命感と誇りを持つことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 コミュニケーション・スキルの向上。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞オリエンテーション ＜第2回～第14回＞ワークショップ、ロールプレイングとそれに基づく討論と発表 ＜第15回＞まとめ</p> <p>【授業方法】 学外体験やワークショップを通して、討論と発表を少人数の演習形式で行なう。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	演習科目 教育キャリア演習Ⅲ	<p>【概要】 本演習は2年次秋学期におこなう。一連の本演習の目的は、教育職・保育職に就くために必要となる教職マインドを身につけて、ライフスパンの中での教育職・保育職としての仕事を位置づけることにある。これによって、教育者・保育者としての使命感と誇りを持つことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 学外実習等に耐えうる行動と心構えを身につける。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞オリエンテーション ＜第2回～第14回＞現任教員や保育士による講義とそれに基づく討論と発表 ＜第15回＞まとめ</p> <p>【授業方法】 学外体験やワークショップを通して、討論と発表を少人数の演習形式で行なう。</p>	
演習科目	演習科目 教育キャリア演習Ⅳ	<p>【概要】 本演習は3年次春学期におこなう。一連の本演習の目的は、教育職・保育職に就くために必要となる教職マインドを身につけて、ライフスパンの中での教育職・保育職としての仕事を位置づけることにある。これによって、教育者・保育者としての使命感と誇りを持つことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 専門的知識・理論を実践的狀況で確認する。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞オリエンテーション ＜第2回～第14回＞模擬授業とそれに基づく討論と発表 ＜第15回＞まとめ</p> <p>【授業方法】 学外体験やワークショップを通して、討論と発表を少人数の演習形式で行なう。</p>	
演習科目	演習科目 教育キャリア演習Ⅴ	<p>【概要】 本演習は3年次秋学期におこなう。一連の本演習の目的は、教育職・保育職に就くために必要となる教職マインドを身につけて、ライフスパンの中での教育職・保育職としての仕事を位置づけることにある。これによって、教育者・保育者としての使命感と誇りを持つことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 教員・保育士としての教養知識の確認。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞オリエンテーション ＜第2回～第14回＞個別の知識、能力に応じた指導 ＜第15回＞まとめ</p> <p>【授業方法】 少人数の演習形式で行なう。</p>	
演習科目	演習科目 教育キャリア演習Ⅵ	<p>【概要】 本演習は4年次春学期におこなう。一連の本演習の目的は、教育職・保育職に就くために必要となる教職マインドを身につけて、ライフスパンの中での教育職・保育職としての仕事を位置づけることにある。これによって、教育者・保育者としての使命感と誇りを持つことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 教員・保育士としての専門知識の確認。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞オリエンテーション ＜第2回～第14回＞個別の知識、能力に応じた指導 ＜第15回＞まとめ</p> <p>【授業方法】 少人数の演習形式で行なう。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	生徒指導論（進路指導を含む）（中・高）	<p>【概要】 授業の目的 生徒をとりまく社会の急激な変化の中で、学校教育においては校内暴力、いじめ、不登校など深刻な状況にあり、生徒指導の一層の推進と充実が重要となっている。一方、少年非行の凶悪化、低年齢化とともに問題行動をおこす生徒も増加している。しかし、生徒指導はこれら問題行動をおこす生徒にとどまらず、すべての生徒を対象としている。したがって、彼らの発達のプロセスを考慮しながら行う進路指導をはじめ、個人的適応指導、社会・公民的指導、学業指導などを内容とする生徒指導について、理論と実践の両面から多面的に取り上げて学習をする。</p> <p>【到達目標】 教育活動全体を通して、教師が生徒の自己指導能力の育成のために、なすべき指導や援助に必要な事項を身につける。そして、生徒とのかかわりの中での教師のあるべき姿を、いろいろな場面について習得する。</p> <p>【授業計画】 <第1～第2回> 生徒・進路指導の意義と定義 <第3～第6回> 生徒・進路指導の法的根拠 <第7～第8回> 生徒・進路指導の歴史と今日的課題 <第9回> 学習指導要領と生徒・進路指導 <第10回> 学校における生徒・進路指導体制とその内容 <第11回> 学校における教育相談 <第12回> 生徒の問題行動と現代社会 <第13回> 非・反社会的行動の実態とその指導 <第14回> 校内暴力・いじめ等の実態とその指導 <第15回> 不登校・高校中退等の実態とその指導</p> <p>【授業方法】 講義を主体として行うが、資料として学校現場の実践記録などを利用する。また、学生の意見発表などをとりいれる。</p>	
免許・資格関連科目	教育実習（中学校）	<p>【概要】 教育実習は、大学の授業で習得した知識技能を基礎として、大学の授業だけでは得られない、「学校のしくみ・運営」「各教育活動と求められる知識・技能・指導力」「教員の仕事・勤務」などの全般にわたり、学校の現場において観察・実践を通して、集中的に研究することである。</p> <p>【到達目標】 実習に参加することにより、「学校の経営運営」「教育活動」「教員の勤務」等の実際を理解し、教職への基本的な態度や心構えをわかまえ、さらに、教員に求められる資質能力・人間力の涵養に励み、実践的職務遂行能力の修得に努めていく基とする。</p> <p>【授業計画】 <事前指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・実習校との打ち合わせ <p><実習第1週目></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「講話」 校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、特別活動部主任、学年主任、教科主任など ② 「観察」 授業の観察、学級・ホームルームの観察、生徒の生活全般の観察、各種教育活動の観察、教員の勤務全般の観察、保護者・地域社会との「かかわり」の観察など ③ 「授業実践」 <p><実習第2週目></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「観察」 ② 「各種教育活動の指導実践」 ③ 「授業実践」 ④ 「教員の仕事への参加」 <p><実習第3週目></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「観察」 ② 「各種教育活動の指導実践」 ③ 「授業実践」 ④ 「研究授業」 ⑤ 「教員の仕事への参加」 ⑥ 「反省会」 <p><事後指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の報告・反省 ・関係記録簿等の整理・提出 <p>【授業方法】 事前準備を万端にわたり整え、充実した実習を実践し、成果を集約し、今後の発展につなげる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	教育実習(高校)	<p>【概要】 教育実習は、大学の授業で習得した知識技能を基礎として、大学の授業だけでは得られない、「学校のしくみ・運営」「各教育活動と求められる知識・技能・指導力」「教員の仕事・勤務」などの全般にわたり、学校の現場において観察・実践を通して、集中的に研究することである。</p> <p>【到達目標】 実習に参加することにより、「学校の経営運営」「教育活動」「教員の勤務」等の実際を理解し、教職への基本的な態度や心構えをわかまえ、さらに、教員に求められる資質能力・人間力の涵養に励み、実践的職務遂行能力の修得に努めていく基とする。</p> <p>【授業計画】 <事前指導> ・オリエンテーション ・実習校との打ち合わせ <実習第1週目> ①「講話」 校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、特別活動部主任、学年主任、教科主任など ②「観察」 授業の観察、学級・ホームルームの観察、生徒の生活全般の観察、各種教育活動の観察、教員の勤務全般の観察、保護者・地域社会との「かかわり」の観察など ③「授業実践」 <実習第2週目> ①「観察」 ②「各種教育活動の指導実践」 ③「授業実践」 ④「研究授業」 ⑤「反省会」 <事後指導> ・教育実習の報告・反省 ・関係記録簿等の整理・提出</p> <p>【授業方法】 事前準備を万端にわたり整え、充実した実習を実践し、成果を集約し、今後の発展につなげる。</p>	
免許・資格関連科目	教育実習指導(中・高)	<p>【概要】 学校教育の意義を踏まえ、教育基本法にある「自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」という教員のあるべき姿を追求するための基礎をつくる。</p> <p>実際には、教育実習の「事前指導」「事後指導」として位置づけられる。「事前指導」では「教育実習の全体像」を把握する。さらに「学校のしくみ・運営」「教育活動の各領域の教育機能と求められる能力・方法・技術」について認識し、教育実習生として現場での活動において、適切にふるまい、対処・対応できるように具体的に準備を整える。「事後指導」では、教育実習のふりかえりにより「実習の成果を総合的に評価」する。さらに「教員としての資質能力」を身につけることをめざして主体的に研究できるようにすることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 実習生の受け入れに際して、学校側には多大の負担がかかる。実習生として、真剣に誠心誠意と取り組み、充実した教育実習をおこない、成果をふりかえり、さらに改善できるよう資質を身につける。</p> <p>【授業計画】 秋学期 <第1回> 教育実習の「目的及び意義」「目標と内容」「日程と段階的展開」 <第2回> 実習生の「実習・勤務」と「配慮事項」 <第3回> 学習指導における「配慮事項」と「学習指導案の作成」 <第4回> 授業展開における「配慮事項」と「模擬演習」 <第5回> 生徒指導における「配慮事項」と「模擬演習」 <第6回> 「実習の場面・局面(T・P・O)」に応じた「配慮事項」と「模擬演習」 <第7回> 「実習の場面・局面(T・P・O)」に応じた「配慮事項」と「模擬演習」 <第8回> まとめ 春学期 <第1回> 教育実習への「準備・配慮の総点検」 <第2回> 「実習記録」など関係諸表簿の「記入要領」「扱いの配慮事項」 <第3回> 教育実習の「調整」 <第4回> 教育実習の「調整」 <第5回> 教育実習の「調整」 <第6回> 教育実習の「総括と評価」「今後の研究課題と取り組み」 <第7回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を軸に模擬演習なども加え、実践的態度をととのえる。提出物は「適切な内容で期限内に提出される」こと。また学校公開や各種教育関連のセミナーへの自主的な参加を奨励し、それらの報告を求める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	英語科教育法Ⅰ	<p>【概要】 英語を教える教師として幅広く言語政策や言語教育の視点を持つ。英語教育は英語を教えるのみならず、人間教育であることをふまえ、教材観や授業観を養う。</p> <p>【到達目標】 英語教育をめぐる現状や、国際的な状況を理解する。資料を分析し、自分の意見を持つことができるようになる。</p> <p>【授業計画】 <第1～第2回> これまでの英語教育 <第3～第4回> 海外の英語教育の実状 <第5～第6回> ユネスコ国際理解教育勧告 <第7～第8回> 文部科学省学習指導要領とその変遷 <第9～第10回> 英語使用の場面と機能 <第11～第12回> 教科書デザイン <第13～第14回> カリキュラム構成 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 実際の現場教師による意見や現場教師による自主教材など、オリジナルの資料をできるだけ使う。</p>	
免許・資格関連科目	英語科教育法Ⅱ	<p>【概要】 英語を教える教師として幅広く言語政策や言語教育の視点を持つ。英語教育は英語を教えるのみならず、人間教育であることをふまえ、教材観や授業観を養う。</p> <p>【到達目標】 英語教育をめぐる現状や、国際的な状況を理解する。資料を分析し、自分の意見を持つことができるようになる。</p> <p>【授業計画】 <第1～第2回> 第二言語習得理論 <第3～第4回> 学習意欲をどうひきだすか <第5～第6回> 学習者のタイプと指導法 <第7～第8回> 多重知能理論と外国語学習 <第9～第10回> ヨーロッパ共通枠組みについて <第11～第12回> 構成的エンカウンターとコミュニケーション <第13～第14回> 自己表現活動 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 実際の現場教師による意見や現場教師による自主教材など、オリジナルの資料をできるだけ使う。</p>	
免許・資格関連科目	英語科教育法Ⅲ	<p>【概要】 英語を教える教師としての知識や力量を身につける。英語教育は英語を教えるのみならず、人間教育であることをふまえ、教材開発力、授業実践力を養う。</p> <p>【到達目標】 教材開発、教案作成などの技術をはじめ、教育実習にあたり生徒を前にしたときに要求される指導力を身につける。</p> <p>【授業計画】 <第1～第2回> 英語教育の目的(なぜ英語を学ぶのか、教えるのか) <第3～第4回> 教育制度と英語教育、教育条件 <第5～第6回> よい教師の条件 <第7～第8回> さまざまな指導法 <第9～第10回> Speaking, Listening, Reading, Writing をどう教えるか <第11～第12回> コミュニケーションのための授業づくり <第13～第14回> 授業の構造 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 実際に現場教師の実践報告や授業のビデオを用いる。さらに、各自、教案、教材を作成し、模擬授業をおこなう。</p>	
免許・資格関連科目	英語科教育法Ⅳ	<p>【概要】 英語を教える教師としての知識や力量を身につける。英語教育は英語を教えるのみならず、人間教育であることをふまえ、教材開発力、授業実践力を養う。</p> <p>【到達目標】 教材開発、教案作成などの技術をはじめ、教育実習にあたり生徒を前にしたときに要求される指導力を身につける。</p> <p>【授業計画】 <第1～2回> よい教材とは(英語テストと評価方法) <第3～4回> 授業案の立て方/授業案づくり <第5～8回> 教材づくり <第9～10回> マイクロティーチング(模擬授業実習) <第11～12回> マイクロティーチング(模擬授業実習) <第13～14回> ビデオによる授業分析 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 実際に現場教師の実践報告や授業のビデオを用いる。さらに、各自、教案、教材を作成し、模擬授業をおこなう。</p>	
免許・資格関連科目	保健科教育法Ⅰ	<p>【概要】 健康という言葉は、現代の社会生活において、今やあらゆる生活層に浸透し、日常用語と化しているにも関わらず「健康とは」を確然としない意味で使われている。そこで保健教育を通してあらゆる角度から健康について考え、健康を阻害する諸条件を引き出し、健康増進につなげることを学ぶ。また、保健教育の変遷やその意義を学び学校教育における保健学習の指導ができる基礎知識を養う。</p> <p>【到達目標】 保健教育の在り方を考え、保健科教育の歴史・意義・目標と保健科教育の独自性、教育課程における保健の位置づけ、保健教育の現状、学習指導要領の示す教育内容と構造などを理解し、保健教育の在り方(目的・内容・方法)と授業研究の実際を柱に、実際に授業計画を作成することができる教師としての力量を養うことを目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 講義の概要説明と健康の意義、価値観、時代の推移と健康の確率 <第2回> 健康を規定する条件と健康的状態 <第3回> 保健教育の変遷・本質 <第4回> 保健学習の原則と保健教師の養成その動向 <第5回> 健康生活と安全教育 <第6回> 現代社会と健康の姿と健康のとらえ方 <第7回> 健康の姿と健康のとらえ方 <第8回> 様々な保健活動や対策の内容 <第9回> 生活習慣と日常生活行動の授業研究 <第10回> 飲酒と健康の授業研究 <第11回> 喫煙と健康の授業研究と指導案の作成 <第12回> 感染症・エイズの予防と授業研究と指導案の作成 <第13回> 健康に関わる意志決定の授業研究 <第14回> 行動選択に必要なものの授業研究 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体とし、適宜プリントを配布して授業をすすめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	保健科教育法Ⅱ	<p>【概要】 保健科教育法Ⅱでは、特に教材・授業研究を中心とする。保健科教育の教材、学習指導案の作成法、発問と板書の留意点、学習指導案に基づく教材づくり、模擬授業を実際に行い、その過程において授業研究と評価を理解する。</p> <p>【到達目標】 保健教育の授業の進め方とその指導方法等、教師としての役割を学ぶ。教育計画全てである教育課程の意義と編成を学び、保健の位置づけや実践を通して指導者としての留意すべき事項を身につける。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 講義概要・日案作成の説明と保健教育の位置づけ <第2回> 自己実現と精神の健康 <第3回> 交通安全の現状と要因 <第4回> 交通社会における運転者の資質と責任 <第5回> 安全な交通社会づくり <第6回> 応急手当の意義とその基本 <第7回> 思春期と健康の指導日案と指導方法 <第8回> 性意識と性行動の選択についての日案と指導法 <第9回> 結婚生活と健康についての指導法 <第10回> 妊娠・出産と健康についての指導法 <第11回> 家族計画と人工妊娠中絶についての指導法 <第12回> 加齢と健康についての指導法 <第13回> 高齢者社会への取り組みについての指導法 <第14回> 保険制度と保健サービスの活用 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体とし、適宜プリントを配布して授業をすすめる。</p>	
免許・資格関連科目	保健科教育法Ⅲ	<p>【概要】 健康という言葉は、現代の社会生活において、今やあらゆる生活層に浸透し、日常用語と化しているにも関わらず「健康とは」を確然としない意味で使われている。そこで保健教育を通してあらゆる角度から健康について考え、健康を阻害する諸条件を引き出し、健康増進につなげることを踏まえて、授業演習を通し保健教育の目的を理解して保健学習指導ができるようになる。</p> <p>【到達目標】 保健教育の在り方を考え、保健教育の歴史・意義・目標と保健科教育の独自性、教育課程における保健の位置づけ、保健教育の現状、学習指導要領の示す教育内容と構造などを理解し、保健教育の在り方(目標・内容・方法)と授業演習を柱に、教科指導ができる教師としての力量を養うことを目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 講義概要の説明と授業演習の内容と割り振り <第2回> 担当内容の指導案作成 <第3回> 授業演習① <第4回> 授業演習② <第5回> 授業演習③ 受講生教に 応じ70分と50分の授業を実施 <第6回> 授業演習④ 指導案を提出し、これに基づいて実施 <第7回> 授業演習⑤ 演習終了ごとに講評を行い指導方法の充実を図る <第8回> 授業演習⑥ <第9回> 授業演習⑦ <第10回> 授業演習⑧ <第11回> 授業演習⑨ <第12回> 授業演習⑩ <第13回> 授業演習⑪ <第14回> 授業演習⑫ <第15回> 授業演習⑬</p> <p>【授業方法】 講義を主体とし、適宜プリントを配布して授業をすすめる。</p>	
免許・資格関連科目	保健科教育法Ⅳ	<p>【概要】 授業の目的 保健科教育法Ⅳでは、保健学習指導を通して教材・授業方法・授業内容等、学習指導内容の視点等を総合的な評価方法を学ぶ。保健教育の学習指導案の作成、教材、発問と板書の留意点、学習指導案に基づく教材づくり等を再確認し、授業演習を行う過程で指導内容の目標や指導方法が適切であったか指導内容別に評価する方法も身につける。</p> <p>【到達目標】 保健教育の授業目標を基礎的な知識・理解度、課題への意欲や思考力・判断力。学習成立への成就感・興味関心などを掲げ、これらの視点から教師としての指導的役割を身につけ、学習指導内容について研究授業を通して評価することを学び、実施指導と公正な評価のできる教師の育成を目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 講義概要の説明と研究授業の内容と割り振り <第2回> 担当項目の指導案作成 <第3回> 研究授業の内容とその評価学習 <第4回> 1 環境と食品の保健①環境衛生活動の仕組みと働き②食品衛生活動の仕組みと働き③食品と環境の保健と私たち <第5回> " <第6回> " <第7回> 2 労働と健康 ①働くことと健康 ②労働災害・職業病と健康 ③健康的な職業生活 <第8回> " <第9回> 3 精神の健康 ①心身の相関とストレス ②ストレスへの対処 <第10回> " <第11回> 4 交通安全 ①交通事故の現状と要因 ②交通社会における運転者の資質と責任③安全な故交通社会づくり <第12回> " <第13回> " <第14回> 5 応急手当①応急手当の意義とその基本②心肺蘇生法 <第15回> "</p> <p>【授業方法】 講義と実習を主体とし、適宜プリントを配布して授業をすすめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	英語学	<p>【概要】 現在世界で4人に1人は何らかの形で英語を使っていると言われる。この授業ではまず英語がどこで生まれどのように広がって行ったかを理解する。また、英語の母語話者間でも様々な変種があるのに加え、国内で第二言語として使われる英語はどのような特徴を持っているか、日本人のように外国語(国際語)として英語を使う場合にはどのような点で母語話者、第二言語話者と異なるかなどを理解した上で、日本人にとって英語はどのような言語であるかを考える。</p> <p>【到達目標】 1. 英語がどのように生まれ、どのようにして世界に広まったかを理解すること 2. 母語としての英語・第二言語としての英語・外国語としての英語の特徴を理解すること 3. 日本における英語の役割を理解すること</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 世界における英語の広がり 〈第2回〉 英語の誕生1(古英語の時代) ケルトの文化1 ウェールズ 〈第3回〉 英語の誕生2(中英語の時代) 〈第4回〉 バイキングそしてノルマンの侵入(中英語の時代) 〈第5回〉 エリザベス朝の英語(近世英語の時代) 〈第6回〉 新大陸への進出 〈第7回〉 ケルトの文化2 スコットランド 〈第8回〉 ケルトの文化3 アイルランド 〈第9回〉 アメリカ英語の発展・レポート課題提示 〈第10回〉 アフリカン・アメリカンの英語 〈第11回〉 カリブ海沿岸の英語 〈第12回〉 オーストラリア・ニュージーランドの英語 〈第13回〉 アジアの英語1 南アジア 〈第14回〉 アジアの英語2 東南アジア 〈第15回〉 アジアの英語3 東アジア・日本人と英語</p> <p>【授業方法】 パワーポイントスライドによる講義による説明に加えDVDによる映像を多く利用する。</p>	
免許・資格関連科目	英語音声学	<p>【概要】 英語発音の理解と表現力の向上をめざす。特に日本人が苦手とする音について取り上げる。</p> <p>【到達目標】 リズムや日本人が苦手とする発音の習得につとめる。自信を持ち、気持ちを込めて発音できるようにする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 発声・発音のしくみ 〈第2回〉 子音の発音 〈第3回〉 子音の発音(母音+ /r/を含む) 〈第4回〉 子音の発音(/r/ クラスター: 音のつながりを含む) 〈第5回〉 子音の発音(/l/ クラスター: 音のつながりを含む) 〈第6回〉 子音の発音 〈第7回〉 子音の発音 〈第8回〉 子音の発音 〈第9回〉 母音の発音 〈第10回〉 母音の発音 〈第11回〉 母音の発音 〈第12回〉 フラップ音(歯切れのよい音) リンキング(音の同化) 〈第13回〉 フォニックス(音と綴り字) 〈第14回〉 フォニックス(音と綴り字) 〈第15回〉 レシテーション(表現読み) 面接</p> <p>【授業方法】 繰り返し練習し、困難点の克服につとめる。また、レシテーション(表現読み)のプレゼンテーションのために練習を行い成果を発表する(面接にて録音する)。</p>	
免許・資格関連科目	英語の構造	<p>【概要】 英語の基本的な構造について日本語との違いを理解すること。特に、英語の動詞の時制を中心に日本語の時制との違いを指摘しながら、実際の例文を理解した上で練習問題に答えながら自分で基本的な構造を使い、英語で表現ができるようにする。</p> <p>【到達目標】 英語の現在時制と現在進行形、過去形と現在完了など日本語とは異なる英語の時制の表現を修得し、助動詞を使った話者の意図などの表現を含めた文が使えるようになること。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 日本語と英語の語順の違い 〈第2回〉 現在と過去 〈第3回〉 現在完了と過去 〈第4回〉 未来 〈第5回〉 助動詞 〈第6回〉 仮定法 〈第7回〉 受身 〈第8回〉 間接話法 〈第9回〉 疑問文 〈第10回〉 動名詞と不定詞 〈第11回〉 名詞と冠詞 〈第12回〉 代名詞と限定詞 〈第13回〉 関係代名詞 〈第14回〉 形容詞と副詞 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 授業の前半は講義を主体にし、後半は練習問題を中心に演習を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	アメリカ文学研究	<p>【概要】 歴史的・社会的な背景も視野に入れつつ、アメリカ文学における主要作家とその代表作について解説する。アメリカ文学に親しむとともに、アメリカという国やアメリカ人に対する興味・理解を深めてほしい。</p> <p>なお、授業で解説する作品のうちから1冊を指定図書とし、受講者に読んでもらう。</p> <p>【到達目標】 アメリカ文学についての常識を身につけ、アメリカとアメリカ人に対する理解を深める。</p> <p>【授業計画】 <第1回> アメリカ文学の流れ概説 <第2回> 植民地時代からロマンティズムの萌芽まで (1) J. F. コーパー <第3回> 植民地時代からロマンティズムの萌芽まで (2) ワシントン・アーヴィング <第4回> ロマンティズムの隆盛 (1) ナサニエル・ホーソーン『緋文字』① <第5回> ロマンティズムの隆盛 (2) ナサニエル・ホーソーン『緋文字』② <第6回> ロマンティズムの隆盛 (3) E. A. ポー① 「ウィリアム・ウィルソン」他 <第7回> ロマンティズムの隆盛 (4) E. A. ポー② 「黒猫」他 <第8回> 初期のリアリズム文学 (1) ヘンリー・ジェイムズ『ねじの回転』① <第9回> 初期のリアリズム文学 (2) ヘンリー・ジェイムズ『ねじの回転』② <第10回> ロスト・ジェネレーションの文学 (1) S. フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』① <第11回> ロスト・ジェネレーションの文学 (2) S. フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』② <第12回> 多様化する現代文学 (1) J. D. サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』① <第13回> 多様化する現代文学 (2) J. D. サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』② <第14回> 多様化する現代文学 (3) ユダヤ系文学その他 <第15回> まとめと補足</p> <p>【授業方法】 講義。適宜プリントとビデオを使用する。</p>	
免許・資格関連科目	イギリス文学研究	<p>【概要】 歴史的・社会的背景も視野に入れつつ、イギリス文学における主要作家とその代表作について解説する。長い歴史と数多くの作家・作品を有するイギリス文学なので、文学史的あるいは網羅的な解説はせずに、常識的に知っておくべきであり、現代の学生が興味を持つような作家・作品を選んで解説する。イギリス文学に親しむとともに、イギリスという国やイギリス人に対する興味・理解を深めてほしい。</p> <p>【到達目標】 イギリス文学についての常識を身につけ、イギリスとイギリス人に対する理解を深める。</p> <p>【授業計画】 <第1回> イギリス文学の流れ概観 <第2回> ウィリアム・シェイクスピア (1) 『ロミオとジュリエット』① <第3回> ウィリアム・シェイクスピア (2) 『ロミオとジュリエット』② <第4回> ウィリアム・シェイクスピア (3) 『マクベス』① <第5回> ウィリアム・シェイクスピア (4) 『マクベス』② <第6回> ロマン派の文学 (1) メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』 <第7回> ロマン派の文学 (2) メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』 <第8回> ロマン派の文学 (3) ジェイン・オースティン『高慢と偏見』 <第9回> ロマン派の文学 (4) ジェイン・オースティン『高慢と偏見』 <第10回> ヴィクトリア時代の文学 (1) エミリー・ブロンテ『嵐が丘』 <第11回> ヴィクトリア時代の文学 (2) エミリー・ブロンテ『嵐が丘』 <第12回> ヴィクトリア時代の文学 (3) シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』 <第13回> ヴィクトリア時代の文学 (4) シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』 <第14回> 世紀末の美学 ドラキュラ、ホームズ、その他 <第15回> まとめと補足</p> <p>【授業方法】 講義。適宜プリントとビデオを使用する。</p>	
免許・資格関連科目	英語演習 I	<p>【概要】 現代の文化や社会問題に関する英文を通して、現代社会について理解を深めながらまとまった英語を読む力と語彙力を養う。</p> <p>【到達目標】 まとまった英文の要旨を辞書をひきながら理解できるようになること。基礎的な英文の構造を更に複雑な構文に応用できるようになること。語彙をふやし、英語の理解力を高めること。それぞれの課で学んだ内容についてクラスで意見をいえるようになること。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 授業の進め方の説明 <第2回> Chapter 1 Korean TV dramas <第3回> Chapter 2 Indian Traffic <第4回> Chapter 3 Hello Kitty in Singapore <第5回> Chapter 4 Wedding Plans <第6回> Chapter 5 Blood Type in Korea <第7回> Chapter 6 Bollywood Movies <第8回> Chapter 7 Chinese as a Foreign Language <第9回> Chapter 8 Indonesian Elephant doctor <第10回> Chapter 9 Medical Tourism in the Philippines <第11回> Chapter 10 One Billion Couch Potatoes <第12回> Chapter 11 Mongolian women <第13回> Chapter 12 Food Culture in Taiwan <第14回> Chapter 13 Thai amulets <第15回> Chapter 14 Miss Vietnam Loses Out</p> <p>【授業方法】 英文の読解力を高めるための演習を中心に授業をすすめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	英語演習Ⅱ	<p>【概要】 有名な洋画の学習を通して、映画の多様なジャンルを理解する。また、これらを学習することにより英語の聴解・理解力の向上を目指す。</p> <p>【到達目標】 映画のシーンやテーマについて英語で理解し説明できるようになること。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 Introduction to film Genre 〈第2回〉 Road Movie 〈第3回〉 Musical 〈第4回〉 Comedy 〈第5回〉 War 〈第6回〉 Gangster 〈第7回〉 Crime 〈第8回〉 Western 〈第9回〉 Science Fiction 〈第10回〉 Horror 〈第11回〉 Action 〈第12回〉 Suspense 〈第13回〉 Drama 〈第14回〉 Summary 〈第15回〉 Review</p> <p>【授業方法】 毎週学生は異なるジャンルの映画を見る。学生は短いシーンについて聞き取り練習を行った後に、その映画のテーマについて話し合う。</p>	
免許・資格関連科目	英語演習Ⅲ	<p>【概要】 旅行記を読むことにより、ヨーロッパ、アフリカ、アジアの文化を理解すると同時に、外国人の目で日本を見る。</p> <p>【到達目標】 著者の観察に富んだ説明とユーモアを存分に味わい、よりよく実際の旅行を楽しめるようにする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 Travel writers - an introduction 〈第2回〉 Exploring places far from home Notes from a Small Island 〈第3回〉 Enigma of Arrival 〈第4回〉 In a Sunburned Country 〈第5回〉 Almost French 〈第6回〉 La Folie 〈第7回〉 Under the Tuscan Sun 〈第8回〉 Slow Boat to China 〈第9回〉 Gweilo 〈第10回〉 An Embarrassment of Mangoes 〈第11回〉 Exploring at home 〈第12回〉 Wrong about Japan 〈第13回〉 Unbeaten Tracks in Japan 〈第14回〉 Japan Ai: A Tall Girl's Adventures in Japan 〈第15回〉 Presentation of travel work</p> <p>【授業概要】 何回かの授業でまとまった旅行記を読み、教員の説明を聞くと同時に、クラスでディスカッションを行う。</p>	
免許・資格関連科目	リーディングⅠ (精読)	<p>【概要】 ストーリーテラーとして定評のある、東西の英語作家の短編小説から、英文を精読・解釈し、異文化理解の一助とする。</p> <p>【到達目標】 内容をただ理解するだけでなく、作品そのものを楽しむことができるようにする。と同時に、英文理解に必要な文の構造・よく使われる語句のを暗記し、できるだけ英語に慣れ親しんでもらいたい。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 導入 〈第2回〉 The Hitch-hiker by Roald Dahl 〈第3回〉 同上 〈第4回〉 同上 〈第5回〉 同上 〈第6回〉 同上 〈第7回〉 同上 〈第8回〉 同上 〈第9回〉 Home by Somerset Maugham 〈第10回〉 同上 〈第11回〉 同上 〈第12回〉 同上 〈第13回〉 同上 〈第14回〉 同上 〈第15回〉 同上</p> <p>【授業方法】 予習を基本として、精読中心に授業をすすめる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	リーディングⅡ(多読)	<p>【概要】生活・職業・文化・社会・民族をテーマとした英文を読みながら、様々なリーディング・ストラテジーを学び、このストラテジーを日本語や英語を読むときに利用できるようにする。</p> <p>【到達目標】まとまった英文を読めるようにすると同時に、TOEICなどの検定に必要な語彙力・文法力・読解力をつける。</p> <p>【授業計画】 (第1回) 1. Police Officer (第2回) 2. The First Job (第3回) 3. Private Detectives and Investigators (第4回) 4. Close Encounter with a UFO (第5回) 5. Visitors in the Trees (第6回) 6. Time Traveler (第7回) 7. Fort Lincoln: An Interview (第8回) 8. childtimes (第9回) 9. Zlata's Diary (第10回) 10. Antonio's First Day of School (第11回) 11. Bilingual Education in the United States (第12回) 12. After 98 Years, George Dawson Learns to Read (第13回) 13. Sacagawea (第14回) 14. Bruce Lee (第15回) 15. Andy Warhol's Early Years</p> <p>【授業方法】英文読解に必要な様々なストラテジーを複数の課で学び、読解力を養うための演習を行う。</p>	
免許・資格関連科目	TOEIC演習	<p>【概要】授業終了までにグラマー、リスニングやTOEICブリッジの受験テクニックを指導し、TOEICブリッジの受験に自信をつけさせる。さらに、様々な場面で自然に英語が使えるようにする。</p> <p>【到達目標】TOEICブリッジ受験を目指す。</p> <p>【授業計画】 <第1回> Introduction - TOEIC BRIDGE test format <第2回> Daily Activities <第3回> Eating Out <第4回> Bank/Post Office <第5回> At School <第6回> Travel <第7回> At the Office <第8回> Shopping <第9回> Medical Care <第10回> Stations and Airports <第11回> Staying at a Hotel <第12回> News Report <第13回> Looking for a Job <第14回> Full Practice Test - Evaluation <第15回> Review</p> <p>【授業方法】 学期末までに大学でTOEICブリッジを受験する。 授業中にリーディングやリスニングのテストを各5回ずつ行なう。</p>	
免許・資格関連科目	英語プレゼンテーション	<p>【概要】最初はペア、グループで自己紹介、友人の紹介などを行い、話題を広げ、最後は自分のテーマについて調べた内容を短いスピーチにまとめクラスで発表をする。最後の発表に至るまでに、姿勢、声の出し方、スピード、繰り返しの利用、レトリックなどについても学ぶ。</p> <p>【到達目標】資料を作り、あるテーマについて説得力のあるプレゼンテーションができるようにする。</p> <p>【授業計画】 <第1回>Self-introduction describing Working in groups and pairs <第2回>Introducing others describing Working in groups and pairs <第3回>Have you been there? describing Working in groups and pairs <第4回>How to make a spectacular dish explaining <第5回>Let me tell you what happened informing <第6回>Talking about current events informing <第7回>Students' own topics <第8回>posture <第9回>enunciation <第10回>pacing <第11回>repetition <第12回>rhetoric <第13回> presentation <第14回>evaluation1 <第15回>evaluation2</p> <p>【授業方法】 クラスまたは小グループで行う。テキストを利用し、トピックスを出し、ショートスピーチをする。プレゼンテーション能力をつけるために、リスニングとライティングを課す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	英語圏文化研究	<p>【概要】 アメリカ人はヒーローが大好きである。スーパーマンやスパイダーマンなどテレビや映画や漫画にはヒーローたちがあふれている。この講義では「アメリカン・ヒーロー」という観点からアメリカの文化とアメリカ人の国民性について考えてみる。まず、アメリカへの移民・植民地時代・独立とそれ以後にわたって徐々に形成されていったアメリカの建国神話について述べ、それがどのようにアメリカン・ヒーロー像と結びついていったかを説明する。それからそのようなヒーロー像がいかに現実の人物たちや想像上の人物たちに投影されているかを検証していく。そのあとアンチ・ヒーローとノン・ヒーローの種々相を見ていき、それらがどのような意義をもつかを考えることにする。</p> <p>【到達目標】 文化の一側面を通して、アメリカとアメリカ人の国民性についての理解を深める。</p> <p>【授業計画】 <第1回> はじめに アメリカン・ヒーローとは <第2回> 新大陸への移民と神話的イメージの形成 <第3回> アメリカ神話のヒーロー—建国神話とアメリカン・アダム <第4回> 歴史のなかのアメリカン・ヒーローたち①—フロンティアと開拓者たち <第5回> 歴史のなかのアメリカン・ヒーローたち②—ワシントンとリンカーン <第6回> フィクションのなかのアメリカン・ヒーローたち①—『ハックルベリー・フィンの冒険』(ストーリー) <第7回> フィクションのなかのアメリカン・ヒーローたち②—『ハックルベリー・フィンの冒険』(解説) <第8回> フィクションのなかのアメリカン・ヒーローたち③—文学、映画、マンガ <第9回> カウンター・カルチャーとアメリカン・アンチ・ヒーローたち①—『俺たちに明日はない』 <第10回> カウンター・カルチャーとアメリカン・アンチ・ヒーローたち②—『イーザー・ライダー』 <第11回> カウンター・カルチャーとアメリカン・アンチ・ヒーローたち③—『明日に向かって撃て!』 <第12回> ノン・ヒーローの系譜①—「リップ・ヴァン・ウィンクル」(ストーリー) <第13回> ノン・ヒーローの系譜②—「リップ・ヴァン・ウィンクル」(解説) <第14回> ノン・ヒーローの系譜③—20世紀の映画から <第15回> まとめと補足</p> <p>【授業方法】 講義。適宜ビデオとプリントを利用する。</p>	
免許・資格関連科目	学校経営と学校図書館	<p>【概要】 学校図書館の経営(運営)についての理念、法律、経営の考えかたなどを講義する。</p> <p>【到達目標】 学校図書館の経営(運営)に必要な、理念、法的な知識、経営管理論的な知識の学びながら、自ら学校図書館づくりができるような素養の習得を目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回>: 学校図書館の理念(1) ユネスコ学校図書館宣言(1) 定義・使命・財政・法令・ネットワーク <第2回>: 学校図書館の理念(2) ユネスコ学校図書館宣言(2) 目標・職員・運営と管理 <第3回>: 学校図書館に関連する法律(1) 学校図書館法(1) 法律の目的・学校図書館の定義・学校図書館の設置義務・学校図書館の運営 <第4回>: 学校図書館に関連する法律(2) 学校図書館法(2) 司書教諭・設置者の任務・国の任務 <第5回>: 学校図書館に関連する法律(3) 子どもの読書活動の推進に関する法律(1) 目的・基本理念・国の責務・地方公共団体の責務・事業者の努力・保護者の役割 <第6回>: 学校図書館に関連する法律(4) 子どもの読書活動の推進に関する法律(2) 関係機関等との連携強化・子ども読書活動推進基本計画・都道府県子ども読書推進計画等 子ども読書推進の日・財政上の措置等 <第7回>: 学校図書館に関連する法律(5) 文字・活字文化振興法(1) 目的・定義・基本理念・国の責務・地方公共団体の責務・関係機関等との連携強化 <第8回>: 学校図書館に関連する法律(6) 文字・活字文化振興法(2) 地域による文字活字文化の振興・学校教育における言語力の涵養 文字活字文化の国際交流・学術的出版物の普及・文字活字文化の日・財政上の措置等 <第9回>: 学校図書館経営(運営)の必要条件(1) 能動的な思考の必要性 <第10回>: 学校図書館経営(運営)の必要条件(2) 経営計画の立てかた(1) 方針・使命・目標 <第11回>: 学校図書館経営(運営)の必要条件(3) 経営計画の立てかた(2) 目的・計画立案 <第12回>: 学校図書館経営(運営)の必要条件(4) 経営計画の立てかた(3) 達成目標と実施案・評価・財政 <第13回>: 学校図書館経営(運営)の必要条件(5) コミュニケーション能力(1) リーダーシップについて <第14回>: 学校図書館経営(運営)の必要条件(6) コミュニケーション能力(2) 「やりとり」について <第15回>: まとめ</p> <p>【授業方法】 配布資料と視聴覚教材を使用しながら、パワーポイントを用いた講義形式でおこなう。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	学校図書館メディアの構成	<p>【概要】 学校図書館が取り扱う情報メディアの種類と特性、その運用方法、組織化の方法について解説する。</p> <p>【到達目標】 学校図書館メディアの本質を理解して、その運用方法と組織化（分類・目録・装備・排架）の方法の習得を目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回>：学校図書館の役割 <第2回>：学校図書館のしくみ <第3回>：学校図書館メディアの本質 <第4回>：学校図書館メディアの種類と特性（1）図書 <第5回>：学校図書館メディアの種類と特性（2）逐次刊行物・ファイル資料 <第6回>：学校図書館メディアの種類と特性（3） 視聴覚資料・電子資料・視覚障害者資料・政府刊行物・地域資料 <第7回>：学校図書館メディアの構成調整 <第8回>：学校図書館メディアの組織化の意義 <第9回>：分類法のしくみ（1） 日本十進分類法新訂9版の法則性 <第10回>：分類法のしくみ（2）日本十進分類法新訂9版各類目の特徴 <第11回>：分類法のしくみ（3）日本十進分類法新訂9版の練習 <第12回>：目録規則の概要（1）日本目録規則1987年版改訂3版 総則 <第13回>：目録規則の概要（2）日本目録規則1987年版改訂3版 タイトル・責任表示 <第14回>：目録規則の概要（3）日本目録規則1987年版改訂3版 版表示・出版に関する事項・形態に関する事項・シリーズに関する事項 注記に関する事項・ISBNに関する事項 <第15回>：まとめ</p> <p>【授業方法】 配布資料と視聴覚教材を使用しながら、パワーポイントを用いた講義形式でおこなう。</p>	
免許・資格関連科目	学習指導と学校図書館	<p>【概要】 司書教諭資格取得のためには次の5科目10単位が必要です。①学校経営と学校図書館 ②学校図書館メディアの構成 ③学習指導と学校図書館 ④読書と豊かな人間性 ⑤情報メディアの活用 以上の5科目です。半期15回「学習指導と学校図書館」の授業を受けることで2単位を得ることができます。 学校図書館が「教育課程の展開に寄与」する目的を有している点にあることから、この科目は、学校図書館メディアの活用についての基本的なことがらと具体的な指導方法を取り扱うことを目的としています。</p> <p>【到達目標】 今日の学習観・学力観を念頭に、学習活動における情報リテラシーの内容とその習得のための学校図書館の活用と指導の方法を理解し、学習指導にかかわる司書教諭の役割について考察する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 授業の予定・方針 <第2回> 教育課程の展開と学校図書館 <第3回> 学校図書館メディア活用能力の育成① <第4回> 学校図書館メディア活用能力の育成② <第5回> メディア活用能力の育成① <第6回> メディア活用能力の育成② <第7回> 学校図書館利用指導のあり方① <第8回> 学校図書館利用指導のあり方② <第9回> 学校図書館利用指導の実際 <第10回> 学校図書館と学習指導の実際① <第11回> 学校図書館と学習指導の実際② <第12回> 学校図書館と情報リテラシーの育成 <第13回> 学習指導と司書教諭の役割 <第14回> 学校図書館における情報サービス <第15回> 春学期のまとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心に進める。学習指導に役立つ図書館メディアの活用方法を実践活動を取り入れることで習得させる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許・資格関連科目	読書と豊かな人間性	<p>【概要】 子どもたちの読書力育成について講義する。</p> <p>【到達目標】 子どもたちにとっての読書の必要性を、あらためて、深く、考えてみることを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉：コミュニケーションについて 〈第2回〉：情報メディアについて 〈第3回〉：読書の必要性について 前編 〈第4回〉：読書の必要性について 後編 〈第5回〉：子どもたちと大人たちの関係について 前編 〈第6回〉：子どもたちと大人たちの関係について 後編 〈第7回〉：子どもたちの自尊心の育成について 前編 〈第8回〉：子どもたちの自尊心の育成について 後編 〈第9回〉：読むことの発達時期について 前編 〈第10回〉：読むことの発達時期について 後編 〈第11回〉：ブックスタートについて 〈第12回〉：読み聞かせについて 〈第13回〉：本を選ぶことについて 前編 〈第14回〉：本を選ぶことについて 後編 〈第15回〉：まとめ</p> <p>【授業方法】 パワーポイントを用いた講義形式でおこなう。</p>	
免許・資格関連科目	視聴覚メディア論	<p>【概要】 写真、テレビ、映画、携帯電話、ゲームなどのメディアを通じて、視聴覚メディアの特徴や利用の意義について理解する。視聴覚メディアの扱い方や活用方法を通じて、幅広いメディアリテラシーを涵養することを目的とする。 マスメディアやインターネットの社会的、あるいは思想的な背景を考え、メディアの位置づけへの理解など、多角的な視野から検討を行う。</p> <p>【到達目標】 様々な情報が溢れる現代において、視聴覚メディアを読み解き、使いこなす能力の向上を目指す。さらに、メディアの制作に際して、受け手のことを想定し適切な技術と表現を使いこなせる能力の獲得を目指す。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 オリエンテーション、メディアとは 〈第2回〉 視聴覚メディアと教育 〈第3回〉 情報探索とメディアリテラシー 〈第4回〉 様々なメディア1 写真 〈第5回〉 様々なメディア2 映画 〈第6回〉 様々なメディア3 テレビ 〈第7回〉 マスメディアの意義と現状 〈第8回〉 新しいメディアの登場1 テレビゲーム 〈第9回〉 新しいメディアの登場2 インターネット 〈第10回〉 新しいメディアの登場3 携帯電話 〈第11回〉 マルチメディアの思想 〈第12回〉 視聴覚メディアとプレゼンテーション 〈第13回〉 視聴覚メディアの活用 〈第14回〉 視聴覚メディアと知的所有権 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 講義形式を中心として行う。 適宜、必要に応じて映像やスライドなどの提示を行いながら講義を進める。より深い思考を促すために、二回程度のレポート課題を予定している。</p>	

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。